

2 0 2 2 年 度 版

山形県内の 医師臨床研修 専 門 研 修

臨 床 研 修

山形大学医学部附属病院……	4
山形県立中央病院……………	6
山形市立病院済生館…………	8
済生会山形済生病院…………	10
山形県立新庄病院……………	12
米沢市立病院……………	14
公立置賜総合病院……………	16
日本海総合病院……………	18
鶴岡市立荘内病院……………	20

専 門 研 修

専門研修基幹施設……………	22
専門研修プログラム…………	28



庄内二次医療圏

最上二次医療圏

村山二次医療圏

置賜二次医療圏

：臨床研修病院(基幹型)

①～⑨：協力型(数字は元となる基幹型病院を示す)

①～⑨：臨床研修協力施設(数字は元となる基幹型病院を示す)

数字については3ページ参照

日本海酒田リハビリテーション病院③

日本海総合病院①

庄内余目病院⑦

鶴岡市立荘内病院①⑧

鶴岡協立病院①

県立こころの医療センター
①②③⑥⑦

県立新庄病院①

新庄明和病院⑥

寒河江市立病院①

県立河北病院①

北村山公立病院①

秋野病院①⑥

東北中央病院①

国立病院機構山形病院①

県立中央病院①

済生会山形済生病院①

千歳篠田病院①⑨

山形市立病院済生館①

篠田総合病院①

山形さくら町病院①②

山形大学医学部附属病院⑤⑧⑨

二本松会かみのやま病院④

みゆき会病院①

白鷹町立病院①②④⑨

小国町立病院①⑤⑧

公立置賜総合病院①⑤⑦

公立高阜病院①⑧

三友堂病院①

米沢市立病院①⑧

国立病院機構
米沢病院⑤

石巻赤十字病院(宮城)①
福島県立医科大学附属病院⑤
福島県立医科大学会津医療センター附属病院⑤
水戸済生会総合病院(茨城)⑨
栃木県済生会宇都宮病院(栃木)⑨

	基幹型	協力型	臨床研修協力施設
1	山形大学医学部附属病院	① - 国立病院機構山形病院 - 県立河北病院 - 県立新庄病院 - 公立置賜総合病院 - 鶴岡市立荘内病院 - 日本海総合病院 - 寒河江市立病院 - 済生会山形済生病院 - 東北中央病院 - 三友堂病院 - 篠田総合病院 - みゆき会病院 - 鶴岡協立病院 - 県立こころの医療センター - 秋野病院 - 千歳篠田病院 - 山形さくら町病院 - 公立高畠病院 - 白鷹町立病院 - 小国町立病院 - 山形市立病院済生館 - 米沢市立病院 - 県立中央病院 - 北村山公立病院 - 石巻赤十字病院(宮城)	① ・村山保健所(山形市) ・介護老健サンプラザ米沢(米沢市) ・介護老健のぞみの園(鶴岡市) ・やまがた健康推進機構(山形市) ・朝日町立病院(朝日町) ・最上町立最上病院(最上町) ・町立真室川病院(真室川町) ・町立金山診療所(金山町) ・公立置賜長井病院(長井市) ・公立置賜南陽病院(南陽市) ・国立病院機構米沢病院(米沢市)
2	県立中央病院	② - 県立こころの医療センター - 山形さくら町病院	② ・村山保健所(山形市) ・町立金山診療所(金山町) ・日本海八幡クリニック(酒田市) ・最上町立最上病院(最上町) ・西川町立病院(西川町) ・白鷹町立病院(白鷹町) ・山形県赤十字血液センター(山形市)
3	日本海総合病院	③ - 県立こころの医療センター - 日本海酒田リハビリテーション病院	③ ・庄内保健所(三川町) ・山形県赤十字血液センター(山形市) ・本間病院(酒田市) ・上田診療所(酒田市) ・岡田内科循環器科クリニック(酒田市) ・本間クリニック(酒田市) ・日本海八幡クリニック(酒田市) ・(地独)那覇市立病院(沖縄) ・さかい往診クリニック(酒田市) ・おおたきこどもクリニック(酒田市) ・酒井醫院(酒田市)
4	山形市立病院済生館	④ 二本松会かみのやま病院	④ ・朝日町立病院(朝日町) ・白鷹町立病院(白鷹町)
5	米沢市立病院	⑤ - 山形大学医学部附属病院 - 福島県立医科大学附属病院 - 公立置賜総合病院 - 福島県立医科大学津医療センター附属病院 - 国立病院機構米沢病院	⑤ ・置賜保健所(米沢市) ・三友堂病院(米沢市) ・小国町立病院(小国町) ・山形県赤十字血液センター(山形市)
6	県立新庄病院	⑥ - 県立こころの医療センター - 新庄明和病院	⑥ ・最上保健所(新庄市) ・最上町立最上病院(最上町) ・戸沢村中央診療所(戸沢村) ・秋野病院[精神科](天童市) ・山形県赤十字血液センター(山形市) ・町立真室川病院(真室川町) ・三條医院[産婦人科](新庄市) ・大蔵村診療所(大蔵村)
7	鶴岡市立荘内病院	⑦ - 県立こころの医療センター - 公立置賜総合病院 - 庄内余目病院	⑦ ・鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院(鶴岡市) ・庄内保健所(三川町) ・鶴岡協立病院(鶴岡市)
8	公立置賜総合病院	⑧ - 米沢市立病院 - 山形大学医学部附属病院 - 鶴岡市立荘内病院	⑧ ・置賜保健所(米沢市) ・公立置賜長井病院(長井市) ・公立置賜南陽病院(南陽市) ・小国町立病院(小国町) ・公立高畠病院(高畠町) ・朝日町立病院(朝日町)
9	済生会山形済生病院	⑨ - 山形大学医学部附属病院 - 千歳篠田病院 - 水戸済生会総合病院(茨城) - 栃木県済生会宇都宮病院(栃木)	⑨ ・介護老人保健施設フローさいせい病院(山形市) ・白鷹町立病院(白鷹町) ・佐藤眼科医院銅町クリニック(山形市) ・特別養護老人ホームながまち荘(山形市) ・済生会岩泉病院(岩手) ・済生会小樽病院(北海道)

●病院の概要



本院は、国の一県一医科大学構想に基づき昭和48年に医学部が設置され、山形県の医療の中核病院として昭和51年に開院しました。

(1)診療科間の垣根を取り払った適切な医療の提供、(2)情報開示に努め社会に開かれた病院、(3)個々の患者さんに適した先進医療の開発・導入、(4)厳しい倫理観を持った創造的な医療人の育成を理念として、地域医療の向上を目指しています。

病床数は637床で、第3次救急医療機関として指定を受け、東北地区の国立大学法人附属病院の中ではトップクラスの1日に6～7台の救急車を受け入れるなど、地域住民への医療サービスの提供を図っています。

高度先進医療としての承認は、現在20件あり、世界最先端の医療の開拓にも力を入れています。また、高度先進医療に加えて覚醒状態での脳腫瘍手術、切断された7本の指の縫合手術など、全国レベルでもトップクラスの実績を持つ診療科も多数設置しています。

平成14年度には、日本医療機能評価機構のVer.4を全国の大学病院で2番目に取得、令和元年度に同機構の一般病院3の認定を受けており、本院は第3者機関から、高度の医療の提供、高度の医療技術の開発・評価、高度の医療に関する研修を実施する病院または準ずる病院として認められました。

現在では、山形県内の公的病院において山形大学卒業の医師が占めるようになってきており、県内の多くの病院で活躍できる状況ができています。

平成17年度から、①患者中心の医療を提供 ②高度先進医療の提供 ③教育研修機能の充実による医療水準の向上 ④医療・療養・労働環境の改善 ⑤病院経営の健全化を整備計画の目標とし、6床室から4床室へ、HCU・臓器別疾患センターの設置等、病院の再整備に向けた工事が始まり、平成22年度に病棟が開院しました。

また、平成20年度には、国の「グローバルCOEプログラム」に申請した「分子疫学の国際教育研究ネットワークの構築」が採択されました。医学系でこの事業に申請があったのは、全国62大学72件で、採択されたのは13大学、14件でした。この採択は、日本有数の医学研究拠点が山形の地に形成されることを意味し、山形大学が実力ある大学として全国に認められたという確固たる証です。

さらに、本院では全ての医療について遺伝子を基にした患者さん一人ひとりに合わせたオーダーメイド医療（ゲノム医療）の実現を目指しており、令和元年9月19日付けで厚生労働省から「がんゲノム医療拠点病院」の指定を受けました。地域の拠点病院として、県内の医療機関と連携し、県内一円のゲノム医療に寄与出来るよう体制を整備し、より確度の高い医療を実践する先端的な病院となることを目指します。

加えて、平成17年から重粒子線治療装置の導入計画の策定を始めてきました。令和2年12月に「東日本重粒子センター」を開所し、令和3年2月より同センターでの重粒子線治療を開始しております。同施設は、重粒子線がん治療の未来を見据えた「次世代の重粒子線がん治療システム：山形モデル」の研究開発に取り組んできたものです。

国の指針である「最先端医療技術の海外展開」にも直接リンクする事業として注目されており、国内のみならず海外医療施設とも積極的にコンタクトしながら、大学である特色を活かし、重粒子線がん治療の技術向上と、医療・技術両面の人材育成や共同研究などを行っています。

●募集について

臨床研修

- 令和4年度研修医募集定員：51名
- 令和3年度研修医受入数：1年目：25名 ・2年目：23名
- 処遇
 - ・基本給：320,000円(臨床研修手当含む)(初年度)
 - ・退職手当有
 - ・年間概算支給見込額：3,960,000円(初年度)
 - ・宿舍貸与有
 - ・各種保険有
 - ・講習会等参加費、学会及び研究会に係る旅費等の支給制度あり

●診療科ごとの入院患者・外来患者の数（令和2年度実績）

診療科名	年間入院患者数	平均在院日数	年間新外来患者数	1日平均外来患者数	年間外来診療日数	常勤医師数	指導医数
第一内科	2,192	11.9	2,189	144.5	243	43	29
第二内科	898	15.5	1,243	87.6	243	28	21
第三内科	619	25.3	941	104.4	243	23	16
小児科	639	14.2	552	46.9	243	25	18
精神科	125	47.0	710	80.0	243	20	10
皮膚科	282	11.0	1,350	73.5	243	20	14
放射線診断科	0	0.0	661	2.9	243	13	12
放射線治療科	61	8.0	144	35.5	243	9	7
第一外科	919	13.6	482	40.7	243	20	13
第二外科	643	13.5	467	31.3	243	20	13
脳神経外科	438	30.4	829	33.4	243	15	10
整形外科	768	21.3	1,387	89.7	243	25	18
産科婦人科	1,280	8.3	1,061	101.4	243	25	14
眼科	984	6.1	1,836	104.1	243	11	8
耳鼻咽喉科	596	15.3	1,102	67.0	243	18	14
泌尿器科	694	12.0	798	48.6	243	16	14
麻酔科	0	0.0	59	10.1	243	20	13
歯科口腔	209	8.8	2,454	45.4	243	7	5
形成外科	175	10.7	345	13.9	243	5	3
腫瘍内科	522	9.3	121	21.8	243	8	3
高次脳機能科	0	0.0	147	4.9	243	2	2
救急科	0	0.0	148	12.3	365	4	2
病理診断科	0	0.0	0	0.0	243	8	4
疼痛緩和内科	0	0.0	0	0.0	243	1	1

※医師数は令和3年4月1日現在

●救急患者受入人数（令和2年度実績） 6,840人

●学会認定施設の状況

- ・日本内科学会認定医制度教育病院
- ・日本小児科学会小児科専門医制度研修施設
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本産婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医基幹教育施設
- ・日本脳神経外科学会専門医認定制度認定基幹施設
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院
- ・日本病理学会研修認定施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本リハビリテーション医学会研修施設
- ・日本口腔外科学会専門医制度指定研修施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本血液学会認定血液代謝科認定教育施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本腎臓学会研修施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本老年医学会認定施設
- ・日本神経学会専門医制度教育施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・呼吸器外科専門医基幹施設
- ・日本呼吸器外科学会・日本胸部外科学会
- ・3学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- ・日本胸部外科学会・日本心臓血管外科学会・日本血管外科学会
- ・日本小児外科学会専門医制度教育関連施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
- ・日本リウマチ学会教育施設
- ・日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設
- ・日本気管食道学会認定専門医制度研修施設
- ・日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医制度研修施設
- ・日本核医学会専門医教育病院
- ・日本透視医学会専門医制度認定施設
- ・日本ペインクリニック学会専門医指定研修施設
- ・日本乳癌学会認定医・専門医制度研修施設
- ・日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
- ・日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度指定施設(新生児)
- ・日本臨床細胞学会教育研修施設
- ・日本小児神経学会小児神経科専門医制度研修施設
- ・日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
- ・日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
- ・日本感染症学会研修施設
- ・日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
- ・日本集中治療医学会専門医研修施設
- ・日本臨床薬理学会専門医制度研修施設
- ・日本脳卒中学会認定研修教育病院
- ・日本IVR学会専門医修練施設
- ・日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設A
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本手外科学会認定研修施設
- ・日本頭頸部外科学会認定頭頸部がん専門医指定研修施設
- ・認定輸血検査技術師制度指定施設
- ・日本小児血液・がん学会認定小児血液・がん専門医研修施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度指定認定施設(母体・胎児)
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本産科婦人科学会専門医修練基幹施設
- ・日本放射線腫瘍学会認定施設
- ・浅大腿動脈ステントグラフト実施施設

●研修医の募集及び採用の方法

- ・募集方法：公募
- ・選考方法：面接・試問
- ・マッチング利用の有無：有
- ・提出書類：研修医採用申請書

●病院見学について

随時受け付けておりますので、e-mailまたは電話でご希望の日時をご連絡ください。

病 院 長：佐藤 慎哉
病 床 数：637【一般：601／精神：36】
医 師 数：431
診 療 科 目：内、精、循、小、外、整、脳、心、皮、泌、
産、婦、眼、耳、放、歯口、麻、形、リ、病、救

●問い合わせ先
山形大学医学部附属病院 総務課午後臨床研修担当係
tel.023-628-5017 fax.023-628-5019
E-mail：isokoho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

●プログラムについて

臨床研修

- ・基本的な診療能力の獲得；First AidとPrimary Care
- ・たすき掛け研修（必修科、希望科とも大学病院と協力型研修病院の両方で研修可能）
- ・充実した指導・教育体制
- ・研修に最適な環境・設備（最先端の医療機器、レジデントハウス、24時間保育所等）

●研修スケジュール例

山形大学医学部附属病院卒後臨床研修プログラムA

1 年目・順不同				2 年目・順不同							
内 科	内 科	救 急	希望科	地域医療	外 科	小児科	産婦人科	精神科	希望科	希望科	希望科
(大学・協力病院)				(大学・協力病院)							
3 ヶ月	3 ヶ月	3 ヶ月	3 ヶ月	1 ヶ月	1 ヶ月	1 ヶ月	1 ヶ月	1 ヶ月	1 ヶ月	3 ヶ月	3 ヶ月

特色：必修分野以外についてはすべて自由選択科目とすることにより、早い時期から将来専門とする診療科を中心に関連の診療科での研修を行うことができるプログラムである。

山形大学医学部附属病院卒後臨床研修 外科重点コース

1 年目・順不同				2 年目・順不同						
外 科	内 科	内 科	救 急	地域医療	小児科	産婦人科	精神科	外 科		希望科
(大学・協力病院)				(大学・協力病院)						
3 ヶ月	3 ヶ月	3 ヶ月	3 ヶ月	1 ヶ月	1 ヶ月	1 ヶ月	1 ヶ月	6 ヶ月		2 ヶ月

特色：将来外科を専門とする人のためのコースで、1 年目については、原則最初の 3 ヶ月間で外科を研修した後、必修分野を研修する。2 年目については、研修修了後を見据えて、その研修期間の殆どを外科の研修に充てることができるプログラムである。

※重点コースについては、外科のほかに、救急・麻酔重点コース、小児科重点コース、産科婦人科重点コース、地域医療重点コースがあります。

●医師紹介・メッセージ

●常勤勤務医師紹介（指導医・上級医）

診療科等	役 職	氏 名	専門分野	医師 資格の 取得時期	学会認定等
第一内科 (公衆衛生学・衛生学)	教 授	今 田 恒 夫	腎臓・膠原病内科	○	日本内科学会(総合内科専門医・指導医)、日本腎臓学会(専門医・指導医)、日本透析医学会(専門医・指導医)、日本リウマチ学会(専門医)、日本高血圧学会(専門医・指導医)
第一内科	教 授	渡 辺 昌 文	循環器内科	○	日本内科学会(専門医・指導医)、日本循環器学会(専門医)
第一内科	講 師	井 上 純 人	呼吸器内科	○	日本内科学会(総合内科専門医・指導医)、日本呼吸器学会(専門医・指導医)、日本呼吸学会(専門医・指導医)、日本感染症学会(専門医・指導医)、インフェクション・コントロール・ドクター(ICD)、日本がん治療認定医、日本呼吸器内視鏡学会(気管支鏡専門医・指導医)
第二内科	教 授	上 野 義 之	肝臓病学・消化器病学	○	日本内科学会(総合内科専門医・指導医)、日本消化器学会(専門医・指導医)、日本肝臓学会(専門医・指導医)、日本消化器内視鏡学会(専門医・指導医)、日本がん治療認定医機構(がん治療認定医)、日本移植学会認定医
第二内科	准教授	奥 本 和 夫	消化器内科	○	日本内科学会(総合内科専門医・指導医)、日本消化器学会(専門医)、日本消化器内視鏡学会(専門医・指導医)、日本肝臓学会(専門医)、日本内分分泌学会(専門医・指導医)、日本糖尿病学会(専門医・指導医)、日本糖尿病学会(専門医・指導医)、日本がん治療認定医(認定産業医)
第三内科	准教授	諏 佐 真 治	糖尿病・内分泌代謝内科	○	日本内科学会(専門医・指導医)、日本内科学会(総合内科専門医・認定医・指導医)、日本糖尿病学会(認定医)
第三内科	助 教	伊 藤 巧	血液内科	○	日本血液学会(専門医・指導医)、日本内科学会(総合内科専門医・認定医・指導医)、日本臨床血液学会(認定医)
小児科	教 授	三 井 哲 夫	小児血液病 学・悪性腫瘍	○	日本小児科学会(専門医・指導医)、日本血液学会血液専門医・指導医、日本がん治療認定医機構(がん治療認定医・暫定教育医)、ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター、日本造血細胞移植認定医、日本小児血液・がん学会(専門医・指導医)
小児科	准教授	佐々木 綾 子	新生児学	○	日本小児科学会(専門医・指導医)、日本周産期・新生児学(暫定指導医)
精神科	教 授	大 谷 浩 一	精神医学	○	日本精神神経学会(専門医・指導医)、日本臨床精神神経薬理学会(専門医・指導医)、日本臨床薬理学会(専門医・指導医)、精神保健指定医
精神科	准教授	鈴 木 昭 仁	精神医学	○	日本精神神経学会(専門医・指導医)、日本臨床精神神経薬理学会(専門医・指導医)、精神保健指定医
皮膚科	教 授	鈴 木 民 夫	皮膚科学	○	日本皮膚科学会(専門医)、日本人顔面伝伝学会(臨床伝伝専門医)、日本がん治療認定医機構(暫定教育医)
皮膚科	講 師	紺 野 隆 之	皮膚科学	○	日本皮膚科学会(専門医)
放射線診断科	教 授	鹿 戸 行 史	画像診断学・乳腺画像診断学	○	日本医学放射線学会(放射線診断専門医)、日本核医学学会(核医学専門医・PET核医学認定医)、日本IVR学会(専門医)
放射線診断科	助 教	梶 井 一 邦	画像診断学・乳腺画像診断学	○	日本医学放射線学会(放射線診断専門医)、日本核医学学会(核医学専門医・PET核医学認定医)
放射線治療科	講 師	佐 藤 啓	放射線治療・小腸源治療	○	日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会(放射線治療専門医)
放射線治療科	助 教	市 川 真 由 美	放射線治療・小腸源治療	○	日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会(放射線治療専門医)、日本がん治療認定医機構(がん治療認定医)
第二外科	教 授	元 井 冬 彦	肝臓外科・消化器外科の集学的治療	○	日本外科学会(専門医・指導医)、日本消化器外科学会(専門医・指導医)、日本肝臓学会(高度技術専門医)、日本消化器学会(専門医・指導医)、日本肝臓学会(認定指導医)、日本静脈経腸栄養学会(認定医)、日本臨床消化器学会(臨床認定医)
第一外科	助 教	菅 原 秀 一 郎	消化器・胆膵・一般外科	○	日本外科学会(専門医)、日本消化器外科学会(消化器外科専門医)、日本肝臓学会(専門医)、高度技術専門医
第二外科	助 教	黒 田 吉 則	心臓血管外科	○	日本外科学会(専門医)、心臓血管外科専門医認定機構(専門医)、腹部スプリントラフト実施医、下肢静脈瘤に対する血管内処置術の実施基準による指導医
第二外科	助 教	鈴 木 潤	呼吸器外科	○	日本外科学会(専門医)、呼吸器外科専門医、日本内視鏡学会(気管支鏡専門医)
脳神経外科 (総合学 術教育 センター)	教 授	佐 藤 慎 哉	寛解下 脳手術・小児脳神経外科	○	日本脳神経外科学会(専門医)、日本脳卒中学会認定脳卒専門医、日本神経内視鏡学会技術認定医、日本がん治療認定医機構暫定教育医
脳神経外科	准教授	小久保 安 昭	脳血管障害診断 治療、脳腫瘍診断	○	日本脳神経外科学会(専門医)、日本脳卒中学会認定脳卒専門医、日本脳卒中の外科学会技術認定指導医
脳神経外科	講 師	松 田 憲 一 朗	悪性脳腫瘍の 治療・神経内 視鏡手術	○	日本脳神経外科学会(専門医)、日本がん治療認定医、日本神経内視鏡学会技術認定医
整形外科	教 授	高 木 理 彰	股関節・ハム ストリングス	○	日本整形外科学会(専門医)、日本リウマチ学会(専門医・指導医)、日本リハビリテーション医学会(専門医・認定臨床指導医責任者)、日本がん治療認定医機構暫定教育医
整形外科	准教授	佐 竹 寛 史	手・肘関節・ 先天異常	○	日本産科婦人科学会(専門医・指導医)、日本婦人科腫瘍学会(専門医・暫定指導医)、日本臨床細胞学会細胞診(専門医)
産科婦人科	教 授	永 瀬 智	婦人科腫瘍	○	日本産科婦人科学会(専門医・指導医)、日本がん治療認定医機構(認定医)、婦人科腫瘍学会(専門医)
産科婦人科	准教授	太 田 剛	婦人科腫瘍	○	日本産科婦人科学会(専門医・指導医)、日本がん治療認定医機構(がん治療認定医)、日本婦人科腫瘍学会(婦人科腫瘍専門医)
眼科	准教授	西 塚 弘 一	網膜硝子体疾患 の外科的治療・黄 斑病変内視手術・ 角膜移植手術	○	日本眼科学会(専門医)
眼科	助 教	難 波 広 幸	オキュラー サージェス・ 角膜疾患	○	日本眼科学会(専門医)
耳鼻咽喉科	教 授	欠 畑 誠 治	耳科学・聴覚生 理学(聴覚の聴覚メ カニズムの解明)、 聴覚障害手術・中 枢性聴覚障害・中 耳手術・中 耳手術の治療	○	日本耳鼻咽喉科学会(専門医・指導医)、厚生労働省補聴器適合判定医
耳鼻咽喉科	准教授	伊 藤 吏	聴覚・耳科学・ 頭頸部外科	○	日本耳鼻咽喉科学会(専門医・指導医)、厚生労働省補聴器適合判定医、補聴器相談医

診療科等	役 職	氏 名	専門分野	医師 資格の 取得時期	学会認定等
泌尿器科	教 授	土 谷 順 彦	泌尿器科腫瘍 内視鏡手術	○	日本泌尿器科学会(専門医・指導医)、日本がん治療認定医、日本透析医学会認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本泌尿器内視鏡学会技術認定医、日本臨床泌尿学会特別指導医、da Vinci S.Si.Xi支援手術教育プログラム修了、泌尿器ロボット支援手術プログラム修了
泌尿器科	講 師	内 藤 整	泌尿器科腫瘍	○	日本泌尿器科学会(専門医・指導医)、(専門医・指導医)、日本がん治療認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本泌尿器内視鏡学会技術認定医、da Vinci S.Si支援手術教育プログラム修了
麻酔科	教 授	川 前 金 幸	麻酔	○	日本麻酔科学会(指導医)、日本呼吸療法医学会(専門医)、日本集中治療医学会(専門医)、日本救急医学会(指導医)、日本蘇生学会(蘇生指導医)
麻酔科	講 師	岡 田 真 行	麻酔	○	日本麻酔科学会(専門医・指導医)、日本集中治療医学会(専門医)
疼痛緩和内科	講 師	飯 澤 和 恵	麻酔	○	日本麻酔科学会(専門医・指導医)、日本ベインクリニック学会(専門医)
救急科(部)	准教授	中 根 正 樹	救急医療、集 中治療・全身 管理、臨床麻 酔	○	日本救急医学会(救急専門医)、日本集中治療医学会(専門医)、日本呼吸療法医学会(専門医)、日本麻酔科学会(専門医・指導医)、日本心臓血管麻酔学会(専門医)、ICD制度協議会(インフェクションコントロールドクター)
救急科(部)	講 師	小 林 忠 宏	救急医療、集中 治療、災害医療	○	日本救急医学会(専門医)、日本集中治療医学会(専門医)、日本呼吸療法医学会(専門医)
形成外科	准教授	福 田 憲 翁	手外科、創傷外 科、先天性形態 異常、熟慮	○	日本専門医機構(形成外科領域専門医)、日本形成外科学会(小児形成外科分野指導医)、日本手外科学会(専門医)、日本創傷外科学会(専門医)、日本熟慮学会(専門医)
形成外科	助 教	菅 剛 史	再建外科、創 傷外科	○	日本形成外科学会(専門医)
高次脳機能科	講 師	伊 関 千 希	神経内科、神 経心理	○	日本神経学会(専門医・指導医)、日本内科学会(認定医)、日本認知症学会(専門医)、日本東洋医学会(専門医)
腫瘍内科	教 授	吉 岡 孝 志	がん腫瘍療法、ボ ルト・CT・PETに よる腫瘍診断、 臨床腫瘍学	○	日本臨床腫瘍学会がん薬物療法(専門医・指導医)、日本がん治療認定医機構(がん治療認定医・暫定教育医)、日本臨床学会臨床試験登録医、日本内科学会(総合内科専門医・指導医)
腫瘍内科	助 教	福 井 忠 久	臨床腫瘍学	○	日本臨床腫瘍学会がん薬物療法(専門医・指導医)、日本がん治療認定医機構(がん治療認定医・暫定教育医)、日本内科学会(総合内科専門医)、日本消化器病学会(消化器病指導医)
病理診断科	教 授	二 口 充	病理診断学	○	日本病理学会(専門医・指導医)、日本毒理病理学会専門医
病理診断科	講 師	大 江 倫 太 郎	病理診断学	○	日本病理学会(専門医)、日本臨床細胞学会(専門医・指導医)

●指導医・研修医からのメッセージ

◎第一内科：井上 純人

山形大学医学部附属病院は、研修医が臨床研修を行う上で理想的な環境があると考えております。院内には各専門の医師がおり、常に専門の垣根なく議論をしながら医療を進めていくプロセスに参加することができます。大学病院臨床研修センターでは研修医の研修だけでなく、生活面、待遇面など様々な要望を汲み上げる仕組みを作り、多くの成果を上げております。

研修医の皆さんには是非取り組んでほしいことを挙げます。

上級医の技術、論文、学会と多くの見聞に触れて、多くの知識を得て下さい。

見るだけでなく自分でやることで自分の技術として下さい。

誰かに教えることで自分の知識として下さい。

主治医として責任を持って議論に参加して下さい。

研修医の皆さんには、学術や生活のことなど、より良い研修環境は誰かに与えられるものではなく、皆さんの取り組みによっても大きく変わっていくものであることをぜひ知って頂ければと思います。皆さんの新しい力が、当院の医療をより良くなる力になってくれることを期待しています。

◎研修医（2年目）：永田 大樹（プログラムA）

当院で研修するメリットは大きく二つあると思います。

一つ目は、積極的に指導をしてくださる先生方が多いことです。山形県は医療者が足りているとは言いがたく、若手でも戦力になるようにと、先生方がとても熱心に教えてくださいます。特に志望科が決まっていれば、各科に関連したさまざまな知識や手法を教えてくださるので、大学病院だから手技や知識を学べず、事務的な仕事しかなかったということはありません。

二つ目は、研修医が多いということです。研修医の多い大学病院であれば、大変な研修生活について共有や相談できる気の合う同期や先輩が必ずあり、安心して研修生活を送れると思います。

そのほかにも給料面をカバーできるたすきがけのシステムや、研修医の要望を聞いてくださる場などがあり、サポートも充実していると思います。このような短い文章ではすべてを伝え切れませんが、就職しても後悔することはないと思うので、興味があればぜひ一度見学に来て下さい。研修医一同楽しみに待っています。

山形県立中央病院

〒990-2292 山形市大字青柳1800番地 <http://www.ypch.gr.jp/>

●病院の概要



当院は、がん・生活習慣病センター、救命救急センター、総合周産期母子医療センターを附置した総合医療センターを形成しております。山形県の基幹病院として、高度先進医療、3次救急医療、生活習慣病の予防・悪性腫瘍の早期発見、周産期医療まで幅広い診療活動を行っています。また、別棟に24時間家族面会可能、患者さんが飲酒もできる緩和ケア病棟を有し、終末期医療にも対応しています。

当院の研修目標は、プライマリー・ケアに要求される知識・技能および態度の修得とともに幅広い能力を持った医師養成です。従来から、当院のプログラムは必修科目を踏まえたうえで、研修医本人の希望を重視した自由度の高いものであることが特徴です。麻酔科には8週間（外科系は3か月が望ましい）が充てられ、気道確保・気管内挿管が確実に身に付けられるようになっています。その他、内科24週間、救急科8週間、小児科4週間、産婦人科4週間、外科4週間以上（呼吸器外科の選択可）、地域医療4週間、精神科4週間、一般外来4週間が必修です。残りの期間は、各研修医の希望により自由に診療科を選択できます。内科は循環器・消化器・呼吸器・血液疾患・内分泌・腫瘍等に分類されており、指導医（研修医が指名する）から、マンツーマンで指導を受けます（研修期間は各研修医の希望により設定します）。外科は、一般外科のほかに、心臓血管外科・脳神経外科・呼吸器外科・小児外科・乳腺外科等があります。各診療科の協力体制は非常に良好で、特に救急医療では、各科とも協力した診療が行われています。

研究面では、臨床を基にした研究、調査を臨床の合間に活発に行い、多数の学会発表・論文発表を行っています。

衛星回線を利用した国立がんセンターを中心とするがんネットTVカンファレンスに加わっており、悪性腫瘍に関する最新の知見を臨床にいち早く役立てています。

平成23年から、周産期ドクターカーを導入し、さらに平成24年11月からドクターヘリの運航を開始し、当院は基地病院としての機能を担うとともに、平成27年2月から災害派遣医療チーム救急車（DMAT救急車）の運用も開始しました。

平成28年には、ハイブリッド手術室を設置し、さらに本院の強みを活かした3つの診療センター（循環器病センター、内視鏡センター、緩和ケアセンター）を導入し、体制強化を図りました。

●救急患者受入人数（令和2年度実績） 11,512人

●募集について

臨床研修

- 令和4年度研修医募集定員：16名（自治医大生含む）
- 令和3年度研修医受入数：1年次：15名 ・ 2年時：15名
- 処遇
 - ・基本給：361,804円（初年度）、379,784円（2年次）
 - ・期末手当、退職手当、時間外手当、宿日直手当有
 - ・年間概算支給見込額：6,500,000円（初年度）
- 研修医の募集及び採用の方法
 - ・募集方法：公募
 - ・選考方法：面接、小論文
 - ・マッチング利用の有無：有

●診療科ごとの入院患者・外来患者の数（令和2年度実績）

診療科名	年間入院患者数	平均在院日数	年間新外来患者数	1日平均外来患者数	年間外来診療日数	新入院	退院	在院	外来患者延数
内科	4,100	11.0	4,359	307.0	244	4,100	4,451	47,191	74,917
心療内科	0	0.0	31	23.8	244				5,810
脳神経内科	165	14.9	251	12.8	244	165	203	2,750	3,119
小児科	634	2.9	831	32.5	244	634	632	1,850	7,919
新生児科	186	28.1		0.0	244	186	191	5,288	0
小児外科	87	3.1	98	13.2	97	87	89	276	1,279
外科	1,537	12.3	410	98.1	244	1,537	1,620	19,485	23,926
乳腺外科	431	5.0	789	58.9	195	431	429	2,156	11,494
呼吸器外科	399	6.8	299	34.7	148	399	416	2,790	5,141
整形外科	683	16.8	451	57.3	244	683	766	12,148	13,980
形成外科	0	0.0	124	13.5	148				2,001
脳神経外科	475	12.8	317	23.5	244	475	578	6,762	5,733
心臓血管外科	191	17.2	145	37.3	97	191	248	3,784	3,622
皮膚科	22	9.9	355	16.3	244	22	20	208	3,985
泌尿器科	1,045	7.8	725	67.8	244	1,045	1,065	8,188	16,554
産婦人科	734	10.2	431	27.2	244	734	724	7,453	6,631
眼科	41	2.0	118	13.5	244	41	40	80	3,287
耳鼻咽喉科	513	6.5	750	53.6	244	513	520	3,338	13,084
放射線科	12	4.8	61	30.1	244	12	13	60	7,345
麻酔科	2	19.0	13	5.0	147	2	2	38	734
歯科口腔外科	549	2.7	2,461	61.7	244	549	550	1,462	15,063
救急科	112	9.8		0.0	365	112	145	1,262	0
病理科	0	0.0		0.0	0				0
合計	11,918	10.3	13,019	924.7		11,918	12,702	126,569	225,624
救命救急センター	1,043	10.5	4,411	31.5	365	1,043	294	7,046	11,512

●学会認定施設の状況

◎国・県の指定状況

- ・保険医療機関
- ・救急告示病院
- ・地域医療支援病院
- ・臨床研修指定病院
- ・基幹災害医療センター
- ・労災指定病院
- ・エイズ治療中核拠点病院
- ・生活保護指定病院
- ・結核予防法指定病院
- ・自立支援医療（更生医療、育成医療指定医療機関）
- ・養育医療指定病院
- ・原子爆弾被害者一般疾病医療取扱病院
- ・小児慢性特定疾患治療研究事業受託医療機関
- ・特定疾患治療研究事業受託医療機関
- ・第一種感染症指定医療機関
- ・へき地医療拠点病院
- ・都道府県がん診療連携拠点病院
- ・山形県ドクターヘリ基地病院
- ・DMAT指定医療機関
- ・総合周産期母子医療センター
- ・関日本医療機能評価機構認定（審査体制区分4 Ver. 6. 0）
- ・卒後臨床研修評価機関認定
- ・赤ちゃんに優しい病院認定
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医研修機関
- ・日本放射線腫瘍学会認定施設
- ・日本気管支学会認定医制度認定施設
- ・日本救急医学会専門医指定施設
- ・日本胸部外科学会認定医制度認定施設
- ・日本小児科学会外科専門医制度認定施設
- ・日本血液学会専門医認定施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本呼吸器外科学会指導医制度認定施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設
- ・日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・日本集中治療医学会専門医研修施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本心臓血管インターベンション学会認定研修施設
- ・経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設
- ・日本頭頸部外科学会準認定施設

- ・日本消化器外科学会専門医認定施設
- ・日本消化器がん検診学会認定指導施設
- ・日本消化器内視鏡学会認定指導施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本食道学会食道外科専門医認定施設
- ・日本小児科学会専門医制度研修施設
- ・日本老年医学会認定施設
- ・日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
- ・日本神経学会認定医制度教育施設
- ・日本整形外科学会認定医制度研修施設
- ・日本肝胆膵外科学会高度技能医研修施設B
- ・日本周産期・新生児学会周産期専門医（母体・胎児）認定施設
- ・日本大腸肛門病学会専門医研修施設
- ・日本透析医学会認定教育関連施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
- ・日本内科学会認定医制度教育病院
- ・日本乳癌学会認定専門医制度研修施設
- ・日本脳神経外科学会専門医制度指定訓練病院
- ・日本脳卒中学会専門医研修教育病院
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・日本病理学会研修認定施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設
- ・日本麻酔科学会麻酔指導施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本臨床細胞学会施設認定制度認定施設
- ・日本臨床細胞学会教育研修認定施設
- ・日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
- ・日本輸血細胞治療学会ASA認定施設
- ・日本高圧学会専門医認定施設
- ・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- ・がん専門薬剤師研修事業研修認定施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本不整脈学会・日本心電図学会不整脈専門医研修施設
- ・日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会ストーマ認定施設
- ・日本感染症学会認定研修施設
- ・日本航空医療学会認定施設

- ・提出書類：選考申込書、履歴書、成績証明書
- ・募集期間：令和3年6月上旬～7月下旬
- ・選考日：令和3年7月下旬～8月下旬

●公舎、勤務環境

- ・敷地内に研修医用の公舎あり

●周辺のレジャー施設等

蔵王スキー場、月山の夏スキー、登山（朝日連峰、飯豊連峰、月山、蔵王連峰、鳥海山等）、山菜採り、溪流釣り、海釣り

●病院見学について

- ・随時受け入れ可能

山形市立病院済生館

〒990-8533 山形市七日町一丁目3番26号 <https://www.saiseikan.jp/>

●病院の概要



当院の基本理念は、「生命の尊厳と人間愛を基本として、みなさんの健康を守るため、保健・福祉と連携し、地域基幹病院としての使命を果たします」と謳っております。この基本理念を基に「1. 患者さんの権利を尊重し、相互の信頼関係を大切にします」「2. 病院機能の充実と職員の資質を高め、医療水準の向上に努めます」「3. 市立病院として健全経営を図り、良質な医療を提供します」「4. 地域医療機関との連携を深め、役割分担を図りながら患者さんが安心して医療を受けられるよう努めます」の4点を病院の基本方針としております。

当館は、平成15年度に山形県では初めて「地域医療支援病院」の承認を受け、地域における第一線の医療機関である“かかりつけ医”を支援するとともに、他の医療機関との適切な役割分担と連携を図っております。

近年の取組みとしては、3テスラMRI、パイプライン導入により先端の脳血管内手術を可能とし、脳卒中の治療を飛躍的に高度化した他、地域がん診療連携拠点病院としてがん治療にも力を入れており、特に鏡視下手術、内視鏡手術が増えています。

当館の性格として、市民のあらゆるニーズに応えることが義務付けられています。日常の診療では紹介患者さんを中心とした診療を、救急診療では1・2次救急患者の受入を積極的に行っていますので、各科専門医の指導のもと、専門的な治療はもちろん、より実践に即した研修を行うことができますと考えます。

●募集について

臨床研修

●令和4年度研修医募集定員：10名

●令和3年度研修医受入数：1年次 9名、2年次 3名

処遇

・基本給：1年次 月額422,083円（賞与は別途支給）（税込、手当は含まない）
2年次 月額433,836円（賞与は別途支給）（税込、手当は含まない）

・通勤手当、住居手当、当直手当、時間外勤務手当等あり

●研修医の募集、採用の方法等

・募集方法：公募

・応募必要書類：選考試験受験申込書、履歴書

・選考日：第1回 令和3年7月下旬

第2回 令和3年8月下旬

・選考方法：筆記試験、面接

●周辺環境等

市内中心部の七日町に位置しており、食事等にも大変便利です。

●病院見学について

随時受け入れをしておりますので、病院ホームページの専用フォームからお申し込みください。

●診療科ごとの入院患者・外来患者の数（令和2年度実績）

診療科名	年間入院患者実数	平均在院日数	年間新外来患者数	1日平均外来患者数	年間外来診療日数	外 来	常勤医師	指導医数
消化器内科	1,491	11.6	2,017	65.6	245	16,072	6	3
内 科	668	16.1	1,202	78.8	245	19,301	9	5
呼吸器内科	1,124	13.9	1,779	37.8	245	9,266	7	5
循環器内科	558	13.8	687	28.4	245	6,954	5	4
小 児 科	877	4.5	1,047	31.1	245	7,629	6	4
脳神経内科	331	24.3	416	20.9	245	5,122	3	3
皮 膚 科	126	13.6	1,102	48.2	245	11,802	2	1
放 射 線 科	—	—	582	16.7	245	4,081	3	3
外 科	1,006	11.9	540	53.4	245	13,093	9	6
脳神経外科	1,024	18.2	1,319	37.3	245	9,139	6	3
脳・血管放射線科	—	—	0	0.0	245	0	0	0
整 形 外 科	459	20.7	960	37.2	245	9,113	4	2
産 婦 人 科	658	6.8	509	43.6	245	10,675	3	2
耳鼻咽喉・頭頸部外科	837	5.9	1,601	50.6	245	12,392	5	2
眼 科	304	3.4	389	47.3	245	11,584	2	0
泌 尿 器 科	737	7.9	846	59.9	245	14,676	4	2
麻 酔 科	—	—	0	0.0	245	0	3	3
リハビリテーション科	—	—	38	2.1	245	521	1	1
歯 科	22	3.3	1,154	13.9	245	3,416	1	0
形 成 外 科	—	—	22	1.1	245	272	0	0
合 計	10,222	11.9	16,210	673.9	245	165,108	79	49

●救急患者受入人数（令和2年度実績） 11,625人

（うち救急車搬送者 4,726人）

●学会認定施設の状況

- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練施設
- ・日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設
- ・日本眼科学会専門医研修施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本産科婦人科学会専門医卒後研修指導施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本消化器内視鏡学会専門医指導施設
- ・日本消化器病学会専門医研修施設
- ・日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
- ・日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士実地修練施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本透析医学会専門医研修施設
- ・日本脳神経外科学会専門医訓練施設
- ・日本脳卒中学会認定研修教育施設
- ・日本頭痛学会認定教育施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本皮膚科学会専門医研修施設
- ・日本アレルギー学会専門医教育研修施設（耳鼻咽喉・頭頸部外科、皮膚科）
- ・日本麻酔科学会認定病院
- ・日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本外科学会外科専門医修練施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度暫定研修施設
- ・日本小児科学会専門医研修施設
- ・日本神経学会専門医教育関連施設
- ・日本腎臓学会研修施設
- ・日本内科学会認定医制度教育病院
- ・日本脳ドック学会認定脳ドック施設
- ・マンモグラフィ検診施設画像認定施設
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本乳癌学会関連施設
- ・日本脳神経血管内治療学会研修施設
- ・日本動脈硬化学会専門医制度教育病院
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
- ・日本病理学会登録施設
- ・日本肥満学会認定「肥満症専門病院」

● 病院の概要



○ 病院の沿革と診療について

山形県唯一の公的医療機関として、済生会設立の本旨である無料低額診療等の福祉医療をはじめ、村山二次医療圏の中核的病院として高度・急性期医療を中心に地域医療を担っています。平成11年には、県内で2番目の病院として日本医療機能評価機構の施設認定を受け、2019年に3rdG: ver.2.0の認定を受け更新しました。「患者さん中心の医療の実践」を基本方針として掲げ、「トータルケアの考えに基づいた疾病予防、治療、在宅医療まで継続した医療の提供」「チーム医療の充実を図り診療機能と患者サービスの向上を目指す」「地域における医療の質向上のため、他の医療機関と協力し臨床教育の実践を図る」ことを中長期の目標として職員一同研鑽に励んでいます。

○ 病院の診療体制と充実した施設設備

山形市の二次救急医療機関の指定を受けている救急医療をはじめ、村山地域の災害拠点病院など特殊医療の充実を図り、当直体制では、救急室、産科、HCU、NICUにそれぞれ医師を配し、更に各科の拘束体制に加えて看護師・薬剤師・放射線技師・検査技師が当直しており、様々な事例に対して迅速な対応が図れるよう万全を期しています。

診療においては、急性期医療に対応すべく最新の医療機器を整備、各科がそれぞれの専門領域の質向上に努めていますが、全7室ある手術室をすべてバイオクリーンルームにするなど、施設設備においても充実を図っています。

予防医学では、人間ドック・脳ドックはもとより、生活習慣病患者等が利用する健康増進センターを付設。また、がんの早期発見に寄与するPET/CT装置を備えたPET/CTセンターを平成15年5月に、山形県初の施設として開設し、健診のみならず病病、病診連携に大きな貢献を果たしており、県民医療のレベルアップにつながっているものと考えています。

○ 当院の診療科の特色

整形外科



山形県内で最も多い15名の整形外科医が在籍しています。令和2年度は、月平均4,035名の外来患者さんを診察し、一日平均105名の患者さんが入院しています。年間合計1,915件の手術を行いました。当院の整形外科の特色として、伝統的に人工関節の手術が非常に多く、人工股関節、人工膝関節ともに年間400件以上行われています。これは県内随一であるのみならず全国でも上位10施設に入る実績であり、関節外科医の修練の場にもなっています。

産婦人科



NICUと連携した周産期センターで、産婦人科医師と新生児科医師が常時当直し、24時間体制で分娩を監視し、母体と新生児にとっても安全で安心な病院を目指しています。

分娩数は年間700件近くの分娩を扱っています。周産期センターを中心として、ハイリスク妊婦・分娩・産褥管理を行い、ほぼすべての疾患に対処できるようにしています。

不妊治療に関しては、体外受精を含めた高度生殖補助医療も行っています。

● 募集について

臨床研修

● 令和4年度研修募集定員：5名

● 処遇

- ・基本給：450,000円（初年度・諸手当含む）
- ・年間概算支給見込額：6,000,000円（初年度）

● 診療科ごとの入院患者・外来患者の数（令和2年度実績）

診療科名	年間入院患者実数	平均在院日数	年間新外来患者数	1日平均外来患者数	年間外来診療日数	常医師数	勤数	指導医数
産婦人科	1,312	12	1,202	92.5	258	6		3
内科	1,867	18	3,692	192.0	258	17		12
整形外科	1,958	19	3,969	187.7	258	15		9
外科	746	11	2,113	57.4	258	6		6
脳神経外科	808	19	475	29.5	258	2		2
小児科	526	8	407	11.9	258	4		1
泌尿器科	184	18	443	34.0	258	2		2
眼科	4	3	45	25.3	91	0		0
心臓血管外科	662	25	607	38.7	212	3		3
皮膚科			91	26.0	95	0		0
耳鼻咽喉科			88	11.0	162	0		0
形成外科			76	9.9	96	0		0
麻酔科			4	1.6	47	2		2
放射線科	1	1	792	19.6	258	3		2
リハビリテーション科	0					1		1

● 救急患者受入人数（令和2年度実績） 3,826人

● 学会認定施設の状況

- ・日本内科学会認定医制度教育関連病院
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本感染症学会認定研修施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設
- ・日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本神経学会専門医制度教育関連施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本肥満学会認定肥満症専門病院
- ・日本腎臓学会研修施設
- ・日本透析医学会認定教育関連施設
- ・日本周産期・新生児医学会専門医制度（周産期新生児専門医）暫定研修施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本乳癌学会認定医専門医制度認定施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本手外科学会認定手外科専門医制度認定研修施設
- ・日本脊椎椎間病学会脊椎椎間科専門医基幹研修施設
- ・日本リウマチ学会教育施設
- ・日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所
- ・日本脳卒中学会認定研修教育病院
- ・日本脳卒中学会一次脳卒中センター
- ・日本脳ドック学会認定脳ドック施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本東洋医学会研修施設
- ・日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
- ・日本周産期・新生児医学会専門医制度（周産期母体・胎児専門医）暫定研修施設
- ・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構関連施設
- ・下肢静脈瘤に対する血管レーザー焼灼術の実施基準による実施施設
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練協力機関（放射線診断、核医学）
- ・ステントグラフト実施施設（腹部大動脈瘤）
- ・日本臨床細胞学会施設認定制度認定施設
- ・日本人間ドック健診専門医研修施設
- ・日本人間ドック健診施設
- ・外国医師臨床修練指定病院
- ・日本高気圧環境・潜水医学会認定病院

○ 病院見学は随時受付けています

実際に当院へおいでいただき、当院の雰囲気を感じてください。当院規程による旅費を支給しますので、お気軽にご連絡ください。

● 研修医の募集及び採用の方法等

- ・募集方法：公募
- ・選考方法：面接（7月下旬～9月上旬）・小論文
- ・締切：8月末頃の予定、募集人員に満たない場合は随時受け付け。
- ・提出書類：履歴書、成績証明書、卒業見込証明書、健康診断書
- ・マッチング利用の有無：有

病 院 長：石井 政次
病 床 数：473【一般：473】
医 師 数：67
診 療 科 目：内、神内、呼内、消内、循内、糖内、腎内、血内、リウ、小、外、乳外、
整外、形外、脳外、呼外、心外、皮、泌、産婦、眼、耳、リハ、放、麻、精

●問い合わせ先
社会福祉法人 瀧済生会山形済生病院 人事課 足立・加藤
tel.023-682-1111 fax.023-682-0122
E-mail：rin-ken@ameria.org

●プログラムについて

臨床研修

- ・必修分野は内科 24 週以上、救急部門は 12 週以上、外科、小児科、産婦人科、精神科、地域医療は 4 週以上とし、一般外来での研修を含める。救急部門は 1 年次、地域医療は 2 年次に研修を行う。
- ・救急部門は外科に所属し、救急医療に関する知識・手技の修得、HCU で研修を行い、救急外来での研修も行う。救急外来での研修は 2 年間を通じて行うものとする。
- ・必修分野以外の選択研修期間は、原則として 4 科までとし、各々 4 週以上の研修期間とする。
- ・1 名の研修医に対し 1 名の指導医が担当するマンツーマン形式であるため、指導医と研修医とのコミュニケーションがとりやすく、円滑な研修を行なう事ができる。
- ・希望者は、同じ済生会グループである済生会宇都宮病院(救急・麻酔・選択)、水戸済生会総合病院(救急・麻酔・選択)、済生会小樽病院(地域医療)での研修を行うことができる。

●研修スケジュール

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
1 年次	選択分野		救急部門			外科	産婦人科	小児科	精神科	内科		
2 年次	内科		地域医療			選択分野						

※ 1 年次の初期 2 週間はオリエンテーションにあて
※ ロテーションは順不同
※ 選択分野の診療科は研修プログラムを参照

●医師紹介・メッセージ

●常勤勤務医師紹介

職 名	氏 名	診療科	学会認定医等	日本医師会の 所属科
名誉院長	濱 崎 允	整形外科	日本産婦人科学会(専門医/指導医)、日本東洋医学(漢方専門医/指導医)、山形県医師会(母体保護法指定医師)	×
顧問	金 杉 浩	産婦人科	日本産婦人科学会(専門医/指導医)、日本東洋医学(漢方専門医/指導医)、山形県医師会(母体保護法指定医師)	×
院長	石 井 政 次	整形外科	日本整形外科学会(専門医)、日本リハビリテーション医学会(認定臨床医)、日本人工関節学会(認定医)、日本体育協会(スポーツドクター)	○
診療顧問	折 田 博 之	心臓血管外科・呼吸器外科	日本外科学会(専門医/指導医/認定医)、日本胸部外科学会(専門医/指導医)、日本心臓血管外科学会(専門医/修練指導者)、日本血管外科学会(専門医)	○
	細 矢 貴 亮	放射線科	日本医学放射線学会(研修指導者・放射線診断専門医)	○
	間 中 英 夫	糖尿病内科	日本内科学会(総合内科専門医)、日本糖尿病学会(専門医)、日本内分泌学会(専門医)	○
副院長	本 田 耕 一	神経内科	日本内科学会(総合内科専門医/指導医/認定内科医)、日本神経学会(神経内科専門医/指導医)、日本高血圧環境・潜水医(高血圧医学専門医)、日本医師会(認定産業医)	○
	福 島 重 宣	整形外科	日本整形外科学会(専門医)、日本人工関節学会(認定医)	○
	廣 岡 茂 樹	心臓血管外科・呼吸器外科	日本外科学会(専門医/指導医/認定医)、日本胸部外科学会(専門医)、日本心臓血管外科学会(専門医)、日本血管外科学会(専門医)、血管内レーザ焼灼術実施管理委員会(指導医)	○
特任副院長	太 田 圭 治	外科	日本外科学会(専門医)、日本消化器外科学会(認定医)、日本乳癌学会(乳癌専門医)、日本がん治療認定医機構(がん治療認定医)	○
	阪 西 通 夫	産婦人科	日本産婦人科学会(専門医/指導医)、日本人類遺伝学会(臨床遺伝専門医・指導医)、日本周産期・新生児医学会(周産期(母体・胎児)専門医/暫定指導医)、日本医師会(生涯教育認定医)、日本専門医機構(産婦人科専門医)、山形県医師会(母体保護法指定医)	○
統括診療部長	磯 部 秀 樹	外科	日本外科学会(外科専門医)、日本消化器病学会(消化器病専門医)、日本外科感染症学会(ICD)、日本消化器外科学会(消化器外科専門医/消化器がん外科治療認定医)、日本がん治療認定医機構(がん治療認定医)、日本静脈経腸栄養学会(TNT)	○
診療部長	大 友 純	循環器内科	日本内科学会(認定医)、日本循環器学会(専門医)、日本医師会(認定産業医)	○
	石 垣 大 介	整形外科	日本整形外科学会(専門医/認定スポーツ医)、日本手外科学会(専門医)、日本高血圧環境・潜水医(高血圧医学専門医)	○
	千 葉 克 司	整形外科	日本整形外科学会(専門医/脊椎脊髄病医/脊椎内視鏡下手術・技術認定医)、日本脊椎脊髄病学会(指導医)	○
	佐 々 木 幹	整形外科	日本整形外科学会(専門医)、日本リハビリテーション医学会(専門医)、日本リウマチ学会(指導医・専門医)、日本体育協会(認定スポーツドクター)、日本人工関節学会(認定医)	×
	松 尾 拓	消化器内科	日本内科学会(総合内科専門医・認定内科医)、日本消化器病学会(消化器病専門医・指導医)、日本消化器内視鏡学会(消化器内視鏡専門医・指導医)、日本肝臓学会(肝臓専門医)	×
	高 崎 聡	腎臓内科	日本内科学会(専門医/認定内科医)、日本腎臓学会(専門医/指導医)、日本透析医学会(専門医)	○
	荒 若 信 子	糖尿病内科	日本内科学会(専門医/認定医)、日本糖尿病学会(専門医/研修指導医)、日本老年医学会(専門医)、日本人間ドック学会(専門医/指導医/認定医健診情報管理指導)	○
	竹 村 直	脳神経外科	日本脳神経外科学会(専門医)、日本脳卒中学会(専門医・指導医)	○
	赤 羽 和 博	小児科	日本周産期・新生児医学会(周産期(新生児)医専門医/暫定指導医)、日本小児科学会(専門医)	○
	小 林 なぎさ	麻酔科	日本麻酔科学会(専門医/指導医)、日本ペインクリニック学会(専門医)	○
	渡 邊 順 久	放射線科	日本医学放射線学会(専門医)、日本インターベンショナル・ラジオロジー学会(IVR専門医・指導医)、日本血管造影IVR学会専門医、ステントグラフト実施基準管理委員会(指導医・実施医)	○
	橋 本 透	泌尿器科	日本泌尿器科学会(泌尿器科専門医)	○
診療副部長	内 海 秀 明	整形外科	日本整形外科学会(専門医/脊椎脊髄病医/脊椎内視鏡下手術・技術認定医)、日本脊椎脊髄病学会(指導医)	○
	穴 戸 哲 郎	循環器内科	日本内科学会(総合内科専門医)、日本循環器学会(循環器専門医)	○
	平 田 慎 也	消化器内科	日本内科学会(専門医/認定医)、日本消化器病学会(専門医)、日本消化器内視鏡学会(専門医)、日本人間ドック学会(専門医/健診指導医/認定医)、日本摂食嚥下リハビリテーション学会(認定士)、日本静脈経腸栄養学会(TNT)	○
	中 村 由 紀 子	消化器内科	日本内科学会(専門医/指導医)、日本消化器病学会(専門医/指導医)、日本消化器外科学会(専門医/指導医/消化器がん外科治療認定医)、日本内視鏡外科学会(技術認定医)、日本がん治療認定医機構(がん治療認定医/暫定教育医)	○
	川 口 清	外科	日本外科学会(外科専門医)、日本胸部外科学会(専門医)、日本心臓血管外科学会(専門医・修練指導者)、日本血管外科学会(専門医)、日本脈管学会(専門医)、日本ステントグラフト実施基準管理委員会(実施医)	○
	外 田 洋 孝	心臓血管外科・呼吸器外科	日本外科学会(外科専門医)、日本胸部外科学会(専門医)、日本心臓血管外科学会(専門医・修練指導者)、日本血管外科学会(専門医)、日本脈管学会(専門医)	○
	岩 田 香 織	麻酔科	日本麻酔科学会(専門医)	○
医 長	藤 本 博 人	外科	日本外科学会(専門医)、日本消化器外科学会(専門医/消化器がん外科治療認定医)、日本内視鏡外科学会(技術認定医)、日本食道学会(専門医/認定医)	○
	大 貴 毅	産婦人科	日本産婦人科学会(専門医/指導医)、日本周産期・新生児医学会(周産期(母体・胎児)専門医)、日本専門医機構(産婦人科専門医)、山形県医師会(母体保護法指定医師)	○
	岩 間 英 範	産婦人科	日本産婦人科学会(専門医)、山形県医師会(母体保護法指定医師)	○
	山 本 尚 生	整形外科	日本整形外科学会(専門医)、日本体育協会(スポーツドクター)、日本人工関節学会(認定医)	○
	大 木 弘 治	整形外科	日本整形外科学会(専門医)、日本人工関節学会(認定医)	○
	佐 藤 千 紗	呼吸器内科	日本内科学会(総合内科専門医/認定医)、日本呼吸器学会(専門医)	○
	齋 藤 伯 規	脳神経外科	日本脳神経外科学会(専門医)、日本定位・機能神経外科学会(機能的定位脳手術技術認定)、日本脳卒中学会(専門医)	○

職 名	氏 名	診療科	学会認定医等	日本医師会の 所属科
副医長	根 本 信 太 郎	整形外科	日本整形外科学会(専門医)	○
	杉 山 晶 子	産婦人科	日本産婦人科学会(専門医)	×
	西 塚 碧	内科	日本禁煙学会(認定指導医/禁煙サポーター)	○
	安 藤 薫	循環器内科	日本内科学会(認定内科医)、日本循環器学会(専門医)、日本心血管インターベンション治療学会(認定医)	○
	作 田 和 裕	消化器内科	日本内科学会(認定医)、日本消化器病学会(専門医)、日本消化器内視鏡学会(専門医・指導医)、日本消化管学会(専門医)	×
	相 澤 久 範	糖尿病内科	日本内科学会(認定内科医)	×
	青 木 倉 揚	小児科	日本小児科学会(専門医)、日本周産期・新生児医学会(周産期(新生児)専門医)	×
医師	石 川 朗	整形外科	日本整形外科学会(専門医/運動器リハビリテーション医)、日本リハビリテーション医学会(専門医・認定臨床医)、日本臨床腫瘍学会(暫定指導医)、日本リウマチ学会(専門医)	○
	布 施 明	外科	日本外科学会(専門医/指導医)、日本消化器病学会(専門医/指導医)	○
	奥 田 正 太	整形外科	日本整形外科学会(専門医)	×
	伊 東 貴 史	整形外科	日本整形外科学会(専門医)、日本体育協会(スポーツドクター)	×
	吉 岡 大 樹	整形外科		×
	江 江 克 宗	整形外科		×
	伊 藤 友 一	リハビリテーション科	日本整形外科学会(専門医/脊椎脊髄病医/運動器リハビリテーション医)、日本リハビリテーション医学会(認定臨床医)、日本脊椎脊髄病学会(名譽指導医)、日本骨粗鬆症学会(認定医)、日本体育協会(スポーツドクター)、日本医師会(認定産業医)	○
	金 子 宙 夢	産婦人科		×
	小 松 尚	循環器内科		○
	木 村 友 美	呼吸器内科	日本内科学会(総合内科専門医/認定医)、日本呼吸器学会(専門医)	×
	福 長 千 明	腎臓内科		×
	浦 山 雅 弘	外科	日本外科学会(専門医/指導医)、日本消化器病学会(専門医/指導医)、日本消化器外科学会(専門医/指導医/認定医/消化器がん治療認定医)、日本がん治療認定医機構(がん治療認定医/暫定教育医)	○
	松 内 祥 子	小児科	日本小児科学会(専門医)	×
	阿 部 拓 哉	小児科		×
	大 地 宏	泌尿器科	日本泌尿器科学会(専門医)	○
	木 村 雅 俊	放射線科	日本医学放射線学会(専門医)	×
基幹型研修医	阿 部 祥			×
	工 藤 豪 紘			×
	中 島 弘 貴			×
	遊 野 貴 浩			×
	遊 野 温 子			×
	本 莊 和 輝			×

●研修医からのメッセージ

◎基幹型研修医：杉山 琢真
山形済生病院は職員一丸となって、患者さん中心の愛のある医療を目指しております。救急外来においては、common diseaseを中心に多くの症例を経験しています。研修医自ら、診察・検査・治療を行いながら、直に指導医の先生のフィードバックを受け、瞬時に診療に活かすことで臨床能力が高まるのを実感でき、モチベーションに繋がっています。
当院は中規模病院のため各部門の繋がりが強く、良好なチームワークの中で研修医をサポートしてくださる土壌があります。病院の雰囲気や環境は1朝1夕の築き上げられるものではなく、山形済生病院の長い歴史の中で、先輩方が築いてこられた誇れる伝統です。
指導医の先生方をはじめスタッフの方々を、医療人として社会人の先輩として尊敬し、日々多くの影響を受けております。医師として研鑽を積みながら、人間性を磨くことのできる環境であることに感謝しています。
私は、山形済生病院で研修することを選び、その選択は正しかったと思います。
当院で一緒に学びましょう！

山形県立新庄病院

〒996-0025 新庄市若葉町12-55 <http://www.ysh.pref.yamagata.jp/>

●病院の概要



○山形県最上二次保健医療圏唯一の中核病院です。

昭和27年の設立以来69年、「仁・愛・和」を基本理念とする病院憲章の下、高度化、多様化する地域の医療需要に応える努力を積み重ねてきました。一次から三次医療まで、さまざまな症例の患者の方々が来院され、一部専門領域を除いたほとんどの症例に対応した医療を提供しています。

○救急指定病院として、地域の救急患者のほとんどが搬送されます。

1日22.2人、うち救急車搬送5.3人(R2年度平均)の救急患者を受け入れています。消防本部と連携し、地域メディカルコントロール体制の中心として、救急患者の救命率向上に努め、救急救命士の病院実習も積極的に受け入れています。

麻酔科医師等救急スタッフの充実強化を図っています。

○へき地医療拠点病院として、地域の町立病院、村立診療所と連携して、地域医療を支えています。

画像診断等を通じて、地域の病院、診療所を支援しています。

地域医療機関に院内の症例検討会、ICLS勉強会等を開放しています。

また、地域医療連携クリニカルパスを通じた病診連携を推進しています。

○病院見学について

随時受け入れております。総務課研修医募集担当まで、ご希望の日時等をご連絡ください。

●診療科ごとの入院患者・外来患者の数（令和2年度実績）

診療科名	年間新入院患者数	平均在院日数	年間新外来患者数	1日平均外来患者数	年間外来診療日数	常勤医師数	指導医数
内科	2,498	18.2	3,557	233.4	244	15	7
小児科	252	4.8	1,263	31.8	244	3	2
外科	631	11.9	679	41.6	244	7	5
整形外科	655	24.9	1,083	86.6	244	4	2
形成外科	92	3.5	620	20.6	244	2	1
脳外科	222	31.4	658	37.4	244	2	0
皮膚科	0	0.0	773	42.7	244	1	1
泌尿器科	354	9.2	525	83.7	244	2	1
産婦人科	672	8.1	1,161	60.3	244	3	1
眼科	165	2.0	268	34.0	244	1	0
耳鼻咽喉科	469	5.4	732	58.5	244	3	2
麻酔科	0	0.0	0	0.0	244	1	1
放射線科	0	0.0	326	12.8	244	2	2
合計	6,010	14.4	11,645	743.5	244	46	25

※医師数はR3.4.1現在

●救急患者受入人数（令和2年度実績） 8,127人

●各種指定の状況

- ・医師臨床研修病院(基幹型および協力型)
- ・地域がん診療連携拠点病院
- ・へき地医療拠点病院
- ・第二種感染症指定医療機関
- ・救急告示病院
- ・日本医療機能評価機構認定病院
- ・災害拠点病院
- ・山形県肝炎専門医療機関
- ・エイズ治療拠点病院

●各学会研修施設等認定状況

- ・日本内科学会認定医制度教育関連病院
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医制度関連施設
- ・日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
- ・日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本脳神経外科学会専門医研修プログラム連携施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 エキスパンダー実施施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 インプラント実施施設
- ・日本栄養療法推進協議会認定 NST 稼働施設
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設画像認定施設
- ・日本消化器病学会関連施設
- ・日本脳卒中学会一次脳卒中センター認定施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本形成外科学会認定施設
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・日本乳癌学会関連施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本食道学会全国登録認定施設
- ・日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本周産期・新生児医学会暫定研修施設
- ・日本呼吸器学会関連施設
- ・日本産科婦人科学会専門医制度専攻指導施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導連携施設
- ・腹部救急認定医・教育医制度認定施設

●募集について

臨床研修

●令和4年度臨床研修医募集定員：4名

●令和3年度研修受入数

- ・1年次：0名
- ・2年次：1名

●処遇

- ・基本給：361,804円（初年度）・379,784円（2年目）
- ・住手手当、通勤手当、時間外手当、宿日直手当、期末手当等
- ・年間概算支給額例：6,500,000円程度（初年度）
7,500,000円程度（2年目）

●研修医の募集及び採用の方法等

- ・募集方法：公募
- ・選考方法：面接
- ・応募必要書類：選考申込書、履歴書、成績証明書
- ・マッチング利用の有無：有

●公舎、勤務環境

- ・医師公舎2LDK～3DK（通勤 徒歩10分～15分）

●周辺環境等

- ・山形新幹線の始発駅（新庄→東京 直通約3.5時間）
- ・神室山、月山、鳥海山に囲まれ、最上川にアユ釣りのメッカである小国川が注ぎ、日本最大級の巨木も多数残る豊かな自然環境。
- ・30分圏内に温泉20箇所。
- ・スキー、スノーボードなどウィンタースポーツが盛ん。
- ・東北一の山車パレード新庄祭（8/24～26 ユネスコ無形文化遺産、国指定重要無形民俗文化財）
- ・山菜、きのこ、川魚、馬刺し、そば、もつラーメンが美味。

病 院 長：八戸 茂美
病 床 数：454【一般：452／感染症：2】
医 師 数：46
診 療 科 目：内、総診、消内、脳神内、循内、呼内、血内、小、外、乳外、
整、形成、脳、皮、泌、産婦、眼、耳、放、麻

●問い合わせ先
山形県立新庄病院 総務課 相馬
tel.0233-22-5525 fax.0233-23-2987
E-mail：yshinbyo@pref.yamagata.jp

●プログラムについて

臨床研修

- 充実したスタッフの下、メディカルコントロールをはじめ、一次から高度救急医療まで、救急医療の現場を、多数経験できます。
- 一次から三次医療まで、多種多様な症例を数多く経験することにより、プライマリケアの基本的診療能力が習得できます。
- 地域内の町立病院、村立診療所、保健所等を含めた研修を行うことにより、地域医療の実感を体得できます。
- 可能な限り自由選択研修を取り入れることにより、将来の専門性も考えた研修を行うことができます。
- 少人数（4人／年）の利点を活かし、研修医の皆さんの希望を最大限尊重したマンツーマンの研修を行います。

●研修スケジュール（令和2年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科							救急	必修4科目 1科目につき4週以上		自由選択	
									外科・小児科・産婦人科・精神科		※1	
	※精神科は協力施設での研修になります。											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年次	自由選択 ※1	地域医療	自由選択									
	※1（必修科目に加え、整形外科・形成外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線科・麻酔科・地域保健											

【救急直当：一年次は副直として月4回、二年次は月4回程度実施】

○備考

- 救急部門は1年次に4週研修し、2年次に月4回程度の救急外来の直当を担当することで合計12週相当の期間を確保する。
- 麻酔科4週間を必修科目とし、救急の研修期間に充てる。
- 協力施設における研修は2年間で12週以内とする。
- C P Cは山形県立新庄病院において実施する。
- 自由選択科目は、必修科目に加え、整形外科・形成外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線科・麻酔科・地域保健から4週単位で選択し研修する。
- なお、到達目標に未到達がある場合は、到達目標に必要な診療科を充てることができる。

●医師紹介・メッセージ

●常勤勤務医紹介（指導医）

職名	氏名	診療科	指導医講習会の受講経験	学会認定資格等
院長	八戸 茂美	内科	○	第6回新臨床研修指導医養成講習会受講、日本消化器内視鏡学会専門医、日本内科学会認定医・指導医
地域医療部副部長	結城 孝一	内科	○	平成21年度NPO法人民協協議会臨床研修指導医講習会受講
第一診療部長 (兼)人工透析室長	宮本 卓也	内科	○	日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本循環器学会認定FJCS、日本内科学会認定JMECCインストラクター、日本循環器学会認定ACLSコースディレクター、日本心血管インターベンション治療学会認定医、山形大学医学部臨床教授(循環器内科学)、緩和ケア研修会修了、日本高血圧・肺循環学会評議員、日本循環器学会東北支部評議員、難病指定医
教育研修部副部長	堀内 英和	内科	○	第7回東北ブロック医師臨床研修指導医ワークショップ受講、日本内科学会認定医
放射線部長	奥山 英伸	内科	○	山形県臨床研修指導医講習会受講、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本循環器学会専門医、認定医療コーディネーター、日本心血管インターベンション治療学会認定医、総合診療領域特任指導医、プログラム統括責任者、難病指定医
感染管理室長	岸 宏幸	内科	○	山形県臨床研修指導医講習会受講、日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、ICD制度協議会認定ICD、日本がん治療認定医機構認定医、(小児慢性特定疾病指定医、難病指定医、緩和ケア研修会修了、がんのリハビリテーション研修修了)
医学資料部副部長	秋葉 昭多郎	内科	○	山形県臨床研修指導医講習会受講、日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医
教育研修部長	本間 友美	小児科	○	第6回東北ブロック医師臨床研修指導医ワークショップ受講、日本小児科学会専門医・指導医
地域医療部長	仁木 敬夫	小児科	○	第13回東北ブロック医師臨床研修指導医ワークショップ受講、日本小児科学会専門医・指導医、日本小児循環器学会専門医、PAL Sインストラクター
副院長 (経営改善担当)	石山 智敏	外科 乳腺外科	○	日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会乳癌専門医、日本がん治療認定医機構認定医、日本DMAT隊員
手術部長	神宮 彰	外科	○	第14回新臨床研修指導医養成講習会受講、日本外科学会専門医、日本食道学会食道科認定医、日本がん治療認定医機構認定医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
副院長 (兼)検査部長	松本 秀一	外科	○	平成16年度指導医養成講習会受講、日本外科学会専門医、検診マンモグラフィ一読影認定医、日本がん治療認定医機構認定医、JATECインストラクター、JPTECインストラクター、ICLSディレクター

職名	氏名	診療科	指導医講習会の受講経験	学会認定資格等
地域医療部副部長	太田 英樹	外科	○	日本外科学会専門医・指導医、呼吸器外科専門医合同委員会認定呼吸器外科専門医、日本呼吸器外科学会評議員、日本胸部外科学会正会員、日本がん治療認定医機構認定医、肺がんCT検診認定医師、ICD制度協議会認定ICD、JATECインストラクター、日本DMAT隊員(統括DMAT)、日本DMATインストラクター、メディカルコントロール指導医、がんのリハビリテーション研修修了
救急部副部長	伊東 賢	外科	○	日本外科学会外科専門医、スマートリハビリテーションリーダーシップコース修了、緩和ケア研修会修了
医療安全部長	針生 光博	整形外科	○	日本整形外科学会専門医・指導医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医、日本リウマチ学会専門医・指導医、小児慢性特定疾患指定医、難病指定医、緩和ケア研修会修了、義肢装具等適合判定医師研修修了、山形大学医学部臨床教授(整形外科)、日本人工関節学会認定医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医
放射線部副部長	岡田 宗一郎	整形外科	○	令和元年度山形県臨床研修指導医講習会受講、日本整形外科学会専門医、難病指定医
医学資料部長	岡田 厚夫	形成外科	○	日本形成外科学会専門医、日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医、日本創傷外科学会専門医
医療安全部副部長(兼)リハビリテーション室長	加藤 直樹	脳神経外科	×	日本脳神経外科専門医、日本脳卒中学会専門医
第一診療部副部長	島 貴美和	皮膚科	○	日本皮膚科学会皮膚科専門医
第二診療部長 (兼)栄養管理室長	安達 裕一	泌尿器科	○	山形県臨床研修指導医講習会受講、日本泌尿器科学会専門医
診療機材部長	椎名 有二	産婦人科	○	日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医、日本産科認定産業界・健康スポーツ医、山形県医師会母体保護法指定医師、小児慢性特定疾病指定医、難病指定医、山形大学医学部臨床教授(産科婦人科分野)、緩和ケア研修会修了、認知症対応力向上研修修了、医療メディエーション基礎編研修修了
第二診療部副部長	鈴木 理郎	眼科	×	
副院長 (兼)救急部長 (兼)医療情報部長	長瀬 輝顕	耳鼻咽喉科	○	第12回東北ブロック医師臨床研修指導医ワークショップ受講、日本がん治療認定医機構認定医、日本めまい平衡医学会認定めまい相談医、日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医、日本DMAT(統括DMAT)、メディカルコントロール指導医、山形県地域災害医療コーディネーター、ICLSディレクター、社会医学系専門医協会指導医
第二診療部副部長	古川 孝俊	耳鼻咽喉科	○	日本耳鼻咽喉科学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構認定医、日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医
放射線部副部長	高橋 利幸	放射線科	○	日本医学放射線学会放射線科専門医、日本医学放射線学会研修指導者
医長	板垣 孝知	放射線科	○	山形県臨床研修指導医講習会受講、日本放射線学会診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者
検査部副部長 (兼)集中治療室長	佐藤 正義	麻酔科	○	第6回東北ブロック医師臨床研修指導医ワークショップ受講、日本麻酔科学会指導医

●指導医・研修医からのメッセージ

◎院長：八戸 茂美

「医師人生のスタートをどこで始めるか」、迷って当然です。
まずは新庄病院に来てみてください。病院に触れ、スタッフに触れ、地域住民に触れ、そしてわずか2年の間に実に多くの疾患を経験したとき、君たちの選択がベストであったことに気づきます。もちろん充実した研修が送れますよう全職員一丸となって応援します。

◎教育研修部長：本間 友美

当院は山形県北部の新庄最上二次医療圏における唯一の中核病院として地域医療を担い、地域のほとんどの救急患者が搬送される病院です。一次から三次医療まで様々な症例を通し、プライマリ・ケアの習得ができます。研修医は少人数の利点を生かし、数多くの手技を経験しています。各診療科の垣根は低く、アウトホームな環境で研修できます。ぜひ一度見学にいらしてください。地域医療最前線を一緒に体験しましょう。

米沢市立病院

〒992-8502 米沢市相生町6番36号 <http://yonezawa-city-hospital.jp/>

●病院の概要



病院の概要

当院は、置賜二次保健医療圏における基幹病院として、悪性新生物をはじめ様々な疾患に対して高度な治療が行えるよう、高度な医療機器・施設設備の充実に努め、可能な限りこの地域で医療を完結させることを目指し、日々多くの患者さんに向き合っています。さらに、高齢化社会に対応するべく在宅医療や訪問看護に取り組み、地域の医療と介護の連携を進めています。

また、日本赤十字社や米沢市が行う災害救護や防災に関連する訓練や研修に関係職員を参加させるなど、災害発生に即応できる医療体制の整備に鋭意努力し、地域の災害医療活動にも積極的に貢献しています。

今後は、地域の救急医療を含めた急性期医療を守るため、米沢市内の急性期病院である三友堂病院との機能分化・医療連携を進めながら、さらに急性期医療に特化した新たな病院の建設を進め、2023年度までのオープンに向けて全職員一丸となって取り組んでいます。

●診療科ごとの入院患者・外来患者の数（令和2年度実績）

診療科名	年間入院患者実数	平均在院日数	年間新外来患者数	1日平均外来患者数	年間外来診療日数	常勤医師数	指導医数
循環器科	549	18.1	510	28.2	243	4	3
消化器科	923	13.1	636	38.3	243	3	3
内科	23	6.2	1,183	34.5	243	0	0
呼吸器科	0	0	104	10.5	243	0	0
神経内科	0	0	38	4.3	243	0	0
小児科	418	4.5	1,034	26.5	243	4	3
皮膚科	0	0	395	18.2	243	0	0
放射線科	0	0	922	5.4	243	5	1
外科	780	13.6	258	38.2	243	5	4
心臓血管外科	218	21.7	130	11.5	243	2	1
整形外科	368	24.6	733	48.9	243	4	1
形成外科	0	0	410	9.0	243	0	0
脳神経外科	183	14.3	329	14.9	243	3	2
泌尿器科	402	14.4	218	64.5	243	2	1
産婦人科	611	7.4	657	38.2	243	3	2
眼科	651	5.3	598	74.9	243	2	1
耳鼻咽喉科	152	5.1	602	23.1	243	2	1
麻酔科・集中治療科	194	20.2	7	1.2	243	4	2
アレルギー科	0	0	20	2.3	243	0	0

※医師数は令和3年4月1日現在

●救急患者受入人数（令和2年度実績） 6,877人

●学会認定施設の状況

- 日本内科学会認定医制度教育関連病院
- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 日本医学放射線学会放射線科専門医研修機関
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本消化器外科学会専門医制度専門医修練施設
- 日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設
- 日本胸部外科学会認定医認定制度福島県立医科大学医学部附属病院関連施設
- 日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所
- 日本眼科学会専門医制度研修施設
- 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
- 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- 麻酔科標榜のための研修施設である麻酔科認定病院
- 日本病理学会研修登録施設
- 三学会(胸部・心臓血管外科・血管外科)構成心臓血管外科専門医認定機関関連施設
- 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定施設
- 日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
- 日本透析医学会専門医制度山形市立病院済生館教育関連施設
- 日本臨床細胞学会施設
- 日本静脈経腸栄養学会N S T稼働施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
- 日本脈管学会認定研修関連施設
- 日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設(咽頭系)
- 日本栄養療法推進協議会認定N S T稼働施設
- 日本産科・新生児医学会周産期新生児専門医制度暫定研修施設
- 胸部ステントグラフト実施施設
- 腹部ステントグラフト実施施設
- 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設
- 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
- 福島県立医科大学附属病院卒後臨床研修協力型臨床研修病院
- 山形大学医学部附属病院卒後臨床研修協力型臨床研修病院

●募集について

臨床研修

- 令和4年度研修医募集定員：4名
- 令和3年度研修医受入数：1年次 1名、2年次 3名
- 処遇
 - ①給与：1年次 基本給 411,800円 賞与 559,440円
2年次 基本給 427,500円 賞与 1,012,150円
ほかに時間外勤務手当、宿日直手当、住居手当、特殊勤務手当、退職手当支給
 - ②勤務時間：8:30～17:15
 - ③休暇：年次有給休暇（1年次10日、2年次11日）、年末年始、病休、産休、忌引等
 - ④宿日直：1年次 宿日直 月4回以内、2年次 宿日直 月4回以内
 - ⑤宿舎：単身用8戸
 - ⑥社会保険等：公的医療保険（1年次 健康保険、2年次 山形市町村職員共済組合）
公的年金（1年次 厚生年金、2年次 山形市町村職員共済組合）
- 研修医の募集、採用の方法等
 - ①募集方法：公募
 - ②選考方法：書類審査、面接
 - ③マッチング利用の有無：有
 - ④募集及び面接の日程
 - ・第1次募集：マッチング中間公表の日まで
面接：応募者と相談の上決定
 - ・第2次募集：随時
面接：応募者と相談の上決定

●生活環境（交通アクセス・教育環境・自然環境・文化施設など）

- 【交通アクセス】
 - ・自動車：東北自動車道 福島JCTを経て 東北中央道 米沢中央ICから約4km
 - ・電車：山形新幹線 米沢駅
- 【自然環境】
山形県の最南端、吾妻連峰の裾野に広がる米沢盆地に位置し、福島県と接している。日本海側の盆地特有の気候で、年間の降水量は全国平均と比較してやや少ないものの、冬期間の降雪量は市街地の平均で1m。豪雪以外の自然災害は比較的少なく、四季折々の豊かな自然景観と「白布」、「小野川」をはじめとした温泉群に恵まれている。
- 【観光施設】
上杉15万石の城下町、米沢城跡（松が岬公園）、上杉家廟所、林泉寺、天元台スキー場、米沢スキー場など

●病院見学について

随時受け付けておりますので、ご希望の日時をご連絡ください。ホームページに必要事項を記載しております。

病 院 長：大串 雅俊
病 床 数：322【一般：322】
医 師 数：46（臨床研修医等を含む）
診 療 科 目：循、消、内、呼、神内、小、皮、アレルギー、放、外、心外、
整、形、脳外、泌、産婦、眼、耳、麻、リハ

●問い合わせ先
米沢市立病院 事務局総務課 鈴木
tel.0238-22-2450 fax.0238-22-2876
E-mail：bsoumu-ka@city.yonezawa.yamagata.jp

●プログラムについて

臨床研修

- ・研修医がそれほど多くないので、指導医による指導がしっかりと行われ多くの経験が積めます。
- ・各科の隔たりもなく、相互に話がしやすい雰囲気の中で研修に取り組み、指導体制も充実しています。
- ・山形大学をはじめ臨床研修協力病院での実習も可能で選択の幅が広がるとともに自分の希望に沿ったプログラムの実施が可能です。
- ・地域医療研修として、小国町立病院でへき地医療の研修が可能です。
- ・研修に先立ち、1週間のオリエンテーションを行い、スムーズな研修の導入を行っています。
- ・研修医も学会、救急講習へ参加することができます。

●研修スケジュール（例）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	※	内科					救急部門			小児科		産婦人科
2年次	外科		精神科	自由選択		地域医療	自由選択					

※ オリエンテーション

●医師紹介・メッセージ

●常勤勤務医師紹介

職名	氏名	現在の専門分野、診療科名、学会認定等	指導医 資格取得 状況 有：○ 無：×
病院事業管理者	渡 邊 孝 男	日本医師会認定健康スポーツ医、日本医師会認定産業医、日本温泉気候物理医学学会認定温泉療法医、日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医	×
病院長・放射線科長・診療放射線科長	大 串 雅 俊	日本医学放射線学会認定放射線診断専門医、日本医師会認定産業医、肺がんCT検診認定医師、死亡時画像診断(AI)研修会修了、日本IVR学会臨床研修指導医養成講習会受講、プログラム責任者養成講習会受講	○
統括副院長・麻酔科長・集中治療科長・臨床工学室長・医療経営対策室長	松 本 幸 夫	日本集中治療医学会専門医、麻酔科標榜医、日本麻酔科学会指導医、専門医、日本救急医学会専門医、臨床研修指導医養成講習会修了	○
副院長・心臓血管外科長	佐 藤 洋 一	日本循環器学会専門医、日本胸外科学会認定医・指導医・正会員、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構専門医・修練指導者、日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本脈管学会専門医・評議員、日本心臓血管外科学会国際会員、下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術指導医、腹部ステントグラフト内挿術指導医、胸部ステントグラフト内挿術指導医、浅大腿動脈ステントグラフト実施医、臨床研修指導医養成講習会修了、プログラム責任者養成講習会修了	○
副院長・泌尿器科長・医療安全管理部部長・人工透析室長	長 岡 明	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・泌尿器科指導医、日本排泄機能学会認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、タウチンS支援手術教育プログラム修了、医療安全管理者養成研修会（管理コース）修了、がん緩和ケア研修会修了、臨床研修指導医講習会修了	○
診療部長・整形外科長・リハビリテーション科長	阿 部 義 幸	日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会、日本リウマチ学会、日本骨折治療学会、日本肩関節学会、日本肘関節学会、日本小児整形外科学会、日本肘関節学会、日本足の外科学会、東日本整形外科学会、東北整形災害外科学会、臨床研修指導医養成講習会修了	○
診療部長・外科長・臨床検査科長・救急室長・人間ドック室長・感染対策室長	菅 野 博 隆	日本内科学会認定医・外科専門医・指導医、日本消化器外科学会認定医・消化器外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医・教育医、日本人間ドック学会人間ドック健診情報管理指導医、日本肝胆膵外科学会評議員、マンモグラフィ読影B-1認定医、ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター、日本外科学会指導日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本化学療法学会抗がん化学療法認定医、臨床研修指導医養成講習会修了	○
診療部長・第一内科長・療養科長	渡 邊 達 也	日本内科学会、日本循環器学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本核医学学会循環器科、日本内科学会認定医、NST医師教育セミナー修了、臨床研修指導医養成講習会修了	○
診療技術部長・産婦人科長・地域医療連携室長	木 村 和 彦	周産期、産科療法、産婦人科、日本産科婦人科学会産婦人科専門医、山形県医師会母体保護法第14条指定医師、がん緩和ケア研修会修了、臨床研修指導医養成講習会修了	○
第一内科部長	平 カヤノ	日本循環器学会認定循環器専門医、日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本不整脈心電学会不整脈専門医、がん緩和ケア研修会修了、臨床研修指導医養成講習会修了、プログラム責任者養成講習会修了	○
第一内科長	上 北 洋 徳	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本循環器学会循環器専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士、日本救急医学会ICLS・BLSコースディレクター、JMECCインストラクター、臨床研修指導医養成講習会修了	○
第二内科部長	吉 田 尚 美	臨床研修指導医養成講習会修了	○
第二内科長	佐 藤 智佳子	日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、臨床研修指導医養成講習会修了	○
第二内科医長	三 浦 友 来	日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会消化器病専門医、臨床研修指導医養成講習会修了	○
小児科部長	本 間 信 夫	日本小児科学会専門医、臨床研修指導医養成講習会修了	○
小児科長	笹 真 一	日本小児科学会専門医、山形県がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、臨床研修指導医養成講習会修了	○
小児科長	高 橋 憲 幸	日本小児科学会専門医、日本血液学会専門医、臨床研修指導医養成講習会受講、山形県がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、小児科医のための緩和ケア教育プログラム履修	○
小児科医員	江 口 誠		×
放射線科医長	柴 田 芽亜理	日本医学放射線学会放射線診断専門医、検診マンモグラフィ読影認定医（AS判定）	×
放射線科医長	森 岡 樹	日本医学放射線学会放射線診断専門医	×
放射線科医員	東 野 太 樹	日本医学放射線学会	×
外科部長・内視鏡外科長	佐 藤 佳 宏	日本外科学会認定医、日本外科学会認定外科学専門医、日本外科学会指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器・一般外科)、日本消化器外科学会認定医、日本消化器外科学会指導医、日本消化器外科学会認定消化器外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本外科感染症学会認定外科周術期感染管理認定医、日本外科感染症学会認定外科周術期感染管理教育医、日本肝胆膵外科学会評議員、日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技術指導医、ICD制度協議会認定インフェクションコントロールドクター、麻酔科標榜医、NST医師教育セミナー修了、看護師特定行為研修指導者講習会修了、臨床研修指導医養成講習会修了、プログラム責任者養成講習会修了	○
外科長	芳 賀 淳一郎	日本外科学会専門医、内視鏡下縫合・結紮手技講習修了、臨床研修指導医養成講習会修了	○
外科医長	千 葉 裕 仁	日本外科学会専門医	×

職名	氏名	現在の専門分野、診療科名、学会認定等	指導医 資格取得 状況 有：○ 無：×
乳腺外科部長・緩和ケア内科長・中央手術室長	橋 本 敏 夫	日本外科学会認定医、日本外科学会認定外科専門医、日本消化器外科学会専門医・消化器がん外科治療認定医、日本乳癌学会認定医、日本乳癌学会乳腺専門医・乳腺指導医、Austin Journal of Surgery Editorial Board Membership、HSCA Journal of Emergency Medicine and Surgical Care Editorial Board Membership、日本外科学会指導日本がん治療認定医機構がん治療認定医、臨床研修指導医養成講習会修了	○
整形外科長	佐 藤 克 己	日本整形外科科学会専門医	×
整形外科医長	太 田 大 地	日本整形外科科学会専門医	×
整形外科医員	高 橋 健 大		×
脳神経外科部長	佐々木 徹	日本脳神経外科学会専門医、日本脳神経外科学会、日本脳神経外科コンgres、日本脳卒中の外科学会、日本脳神経外傷学会、臨床研修指導医養成講習会修了	○
脳神経外科長	川 瀬 誠	日本脳神経外科専門医、日本脳卒中学会専門医、日本神経内視鏡学会認定医、長隆協議会臨床研修指導医講習会修了	○
泌尿器科医長	細 谷 法 之	日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医、山形県がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了	×
産婦人科長	須 藤 毅	日本産科婦人科学会専門医、石巻赤十字病院臨床研修指導医講習会修了	○
産婦人科医員	立 花 由 花	日本産婦人科学会、山形県がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了	×
眼科部長	高 宮 美智子	日本眼科学会専門医・指導医、日本網膜硝子体学会PDT認定医、日本角膜炎学会認定羊膜術者、臨床研修指導医養成講習会修了	○
眼科医員	山 口 万里奈		×
耳鼻咽喉科長	塚 田 俊 憲	日本耳鼻咽喉科学会専門医・補聴器相談医、臨床研修指導医養成講習会修了	○
耳鼻咽喉科医長	川 合 唯	日本耳鼻咽喉科学会専門医、山形県がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了	×
集中治療科医長 麻酔科医長	佐 藤 久仁子	日本麻酔科学会専門医、秋田及び秋田周辺医療圏緩和ケア研修会修了	×
集中治療科医長 麻酔科医長	羽 田 俊 裕	日本集中治療医学会、日本中毒学会、日本救急医学会、日本法医学会、日本麻酔科学会、麻酔科標榜医、臨床研修指導医講習会修了	○
病理科長	角 田 力 彌	日本病理学会認定病理医・病理専門医・病理専門医研修指導医、日本臨床細胞学会細胞診断専門医	×

●指導医・研修医からのメッセージ

◎【指導医から】副院長・臨床研修プログラム責任者：佐藤 洋一

当院の臨床研修の特徴として、各診療科の垣根が低く連携が良いこと、病院全体がアットホームな雰囲気でありストレスが少ないこと、看護師やスタッフが優しく親切であること、研修医がそれほど多くないため指導医がマンツーマンでしっかりとつくれること、研修医1人当りが実際に経験できる手術や手技の数は多くなること、などが挙げられます。

毎月の医局会の後に医局で飲み会を催したり、上級医と一緒に山登りや海づり、スキーやスノーボード、松茸採りに行ったり楽しいことも盛り沢山です。病院全体で研修医を大切に、育ててあげようという気運に満ちており、研修医もそれに応えて頑張っています。そして研修2年を修了する時点では、研修開始の頃とは別人のように自信に満ち溢れて当院を去ってゆきます。

当院で研修してよかったと全員にってもらえるよう我々指導医も努力していきます。

◎【研修医から】臨床研修医：伊勢 元晴

皆さん卒業後の進路についてどの程度考えていますか？志望科が決まっている人、いない人、どちらにも米沢市立病院の魅力を伝えできれば幸いです。まず、米沢市立病院は研修医の数が少なく、多くの症例を独り占めできます。内科や救急では腹腔穿刺や胸腔穿刺、CVCカテーテルの挿入など、多くの手技を経験できます。外科ではカメラ持ちや糸結び、閉鎖時には縫合もさせて頂けます。麻酔科ではアラインや気管挿管をこなせるようになります。研修医の数が多い病院では積極性がないと経験できないような手技もここでは誰もができるようにになります。

また、当院の魅力として指導医の先生との距離が近く、コンサルトがしやすいことが挙げられます。優しい先生方が多く、病棟業務や当直の際にストレスを感じることが少ないです。当直では、指導医の先生と共に患者さんを診ることができ、common diseaseを数多く診ているうちに自信をもって救急外来に立つことができるようになります。デメリットは雪が多いことくらいしか思い浮かばないほど働きやすく、実践力を身につけるのに適している病院だと実感しています。文章だけでは伝えきれない魅力に溢れている病院ですので、ぜひ一度病院見学にお越しください。お待ちしております。

公立置賜総合病院

〒992-0601 東置賜郡川西町大字西大塚2000番地 <http://www.okitama-hp.or.jp/>

●病院の概要



当院は、置賜地域の高度医療を担う拠点として、隣接する二市二町（長井市・南陽市・川西町・飯豊町）と山形県が協力して建設し、2000年11月から診察を開始した病院です。それまでの市立病院・町立病院は、住民のより身近なサテライト医療施設として初期医療や慢性期医療を担い、高度医療は当院が担うこととし、地域の医療機能を分担する新たな医療提供システムを構築しています。

また、救命救急センターを併設し、脳卒中、心筋梗塞、頭部損傷等の救急患者に迅速な対応をするために、専門の医師、看護職員が24時間体制で待機し治療にあたっており、広域的な救急搬送体制を確立するために緊急用ヘリポートも設置しています。

こうしたことから、当院には急性期の受診者が多く、疾患の変化に富んでいます。また、手術件数も多く、基本的な診療能力を身につけるには絶好の条件を備えているといえます。

当院における臨床研修では、将来の専門性にかかわらず、日常診療で遭遇することが多い疾患・病態に迅速で適切に対応できる基本的な診療能力を身につけられるような研修内容としています。

◎病院理念「心かよう信頼と安心の病院」

＜運営方針＞

- ①患者本位の医療の展開
- ②高度・救急医療の提供
- ③健全経営の確保
- ④人材の育成
- ⑤地域連携の推進
- ⑥快適な療養環境の提供

●救急患者受入人数（令和2年度実績） 16,207人

●募集について

●令和4年度研修医募集定員

臨床研修医 9人
専攻医 2人（総合診療科）

●令和3年度研修医受入数

臨床研修医 ・1年次：8人 ・2年次：6人

●待遇等

臨床研修医

- ・給 与：1年次月額約50万円（年額約600万円）
2年次月額約65万円（年額約780万円）
※時間外手当、宿日直手当等を含んだ額です。
- ・手 当：通勤、退職手当は別途支給します。

●診療科ごとの入院患者・外来患者の数（令和2年度実績）

科	入院患者 実数	平均在院 日数	新外来 患者数	外来患者数 /日	年間外来 診療日数	常 勤 医師数	指導医
内 科	1,622	14.9	6,130	276.1	243	12	4
消化器内科	1,406	11.8	-	-	243	10	4
循環器内科	800	9.5	-	-	243	7	3
小 児 科	157	6.5	1,084	14.0	243	3	2
神 経 内 科	168	20.0	477	18.7	243	3	1
外 科	1,185	10.9	1,035	62.1	243	9	6
整 形 外 科	887	15.1	3,389	110.3	243	10	4
脳神経外科	263	16.3	1,309	13.2	243	2	1
心臓血管外科	93	10.3	186	7.5	243	1	1
産 婦 人 科	515	9.2	902	48.5	243	4	2
眼 科	306	2.0	751	46.6	243	2	1
耳鼻咽喉科	428	7.6	1,429	35.8	243	3	1
皮 膚 科	0	0.0	569	16.8	243	0	0
泌 尿 器 科	581	7.4	939	48.5	243	3	1
精 神 科	345	36.2	562	65.2	243	6	2
放 射 線 科	-	-	134	14.2	243	3	1
麻 酔 科	-	-	1	0.0	243	4	3
歯科口腔外科	194	5.2	2,547	41.6	243	4	2
救 急 科	142	5.6	1,354	5.5	243	4	3
形 成 外 科	47	11.6	500	11.0	243	1	1
呼吸器外科	126	9.9	210	7.9	243	2	1
総合診療科	423	14.3	634	7.1	243	5	1

※常勤医師数、指導医数は令和3年4月1日現在

●施設認定

- ・救命救急センター
- ・地域がん診療連携拠点病院
- ・災害拠点病院（地域災害医療センター）
[置賜二次医療圏]
- ・第二種感染症指定医療機関[置賜二次医療圏]
- ・へき地医療拠点病院
- ・臨床研修指定病院 医師 基幹型
- ・臨床研修指定病院 歯科医師 基幹型
- ・臨床研修指定病院 医師 協力型
- ・エイズ治療拠点病院
- ・地域医療支援病院
- ・日本医療機能評価機構認定病院 3rdG:Ver.1.1

●学会認定施設の状況

- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医修練施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所
- ・日本内科学会認定医制度教育病院
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・浅大腿脈ステンドグラフト実施施設
- ・日本病理学会研修認定施設B
- ・日本乳がん学会専門医制度関連施設
- ・マンモグラフィ検診施設画像認定施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本呼吸器外科専門医合同委員会関連施設
- ・日本心血管インターベンション治療学
科認定研修施設群
- ・日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本麻酔科学会認定病院
- ・日本IVR学会専門医修練施設
- ・日本血液学会認定血液研修施設
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本小児神経学会小児神経科専門医制
度研修関連施設
- ・山形県児童相談所協力病院指定
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
- ・日本食道学会全国登録認定施設
- ・日本静脈経腸栄養学会NST 専門療法士
認定実地修練認定教育施設
- ・日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
- ・日本透析医学会専門医制度教育関連施設
- ・日本口腔外科学会認定施設
- ・日本脳卒中学会認定研修教育病院
- ・日本医学教育学会機関委員
- ・日本神経学会専門医制度准教育施設
- ・日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
- ・日本胆道学会指導施設
- ・日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
- ・日本周産期・新生児医学会暫定認定施設
- ・日本手外科学会関連研修施設
- ・日本総合病院精神医学会一般病院連携
精神医学専門医特定研修施設
- ・日本病院総合診療医学会認定施設
- ・日本口腔ケア学会認定施設
- ・日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設

- 休 暇：年次有給休暇20日（初年度15日）、夏季休暇等

- 公 舎：レジデントハウス

- 院内保育所：あり

- 募集方法：公募

- 選考方法：面接試験

- 応募締切：臨床研修医 令和3年8月中旬（予定）
専攻医 令和3年9月末（予定）

- 選考日：病院へお問合せください。

- 病院見学：随時受け付けています。E-mailまたは電話でご希望の日時等をお知らせください。

病 院 長：林 雅弘
病 床 数：496【一般：426／救急：20／感染症：4／精神：46】
医 師 数：99
診 療 科 目：内、精、神内、消内、循内、小、外、消外、呼外、整、脳外、
心外、皮、泌、産婦、眼、耳、リハ、放、歯口、麻、形、救

●問い合わせ先
公立置賜総合病院 総務課 職員係
tel.0238-46-5000 fax.0238-46-5711
E-mail：soumu@okitama-hp.or.jp

●プログラムについて

臨床研修 プログラム名 公立置賜総合病院卒後臨床研修プログラム

- ・全ての研修科目の中から1ヶ月単位で選択することができます。
- ・90名を超える常勤医が在籍しており、手厚くきめ細やかなマンツーマンの指導体制の下、他院とは比較にならないほど数多くの手技を経験することができます。

【自由選択プログラム】

定員 9名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内 科						救 急		外 科	小児科	産婦人科	精神科
2年次	地 域	自 由 選 択										

※救急科は3ヵ月必修ですが、救命救急センターにおける宿日直業務を研修期間とすることができます。
※ローテーションは順不同です。

●医師紹介・メッセージ

●常勤勤務医師紹介

所属	職名	氏名	学会認定等	指導医
整形外科	院長	林 雅 弘	日本整形外科学会（専門医）、日本脊椎脊髄病学会（専門医・指導医）、日本リハビリテーション医学会（認定臨床医）、日本スポーツ協会（スポーツドクター）	○
産婦人科	副院長	手 塚 尚 広	日本産科婦人科学会（指導医・専門医）	○
消化器外科	副院長	小 澤 孝一郎	日本外科学会（認定医・外科専門医）、日本消化器外科学会（認定医）	○
内科（代謝・内分泌）	副院長	江 口 英 行	日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医・指導医）、日本糖尿病学会（専門医・指導医）	○
消化器内科	副院長	齋 藤 孝 治	日本内科学会（認定内科医・指導医）、日本肝臓学会（専門医）、日本消化器病学会（専門医・指導医）、日本消化器内視鏡学会（専門医）	○
消化器内科	部長	渡 辺 晋一郎	日本内科学会（認定内科医・指導医）、日本消化器病学会（専門医）、日本消化器内視鏡学会（専門医）	○
消化器内科	副部長	武 田 忠	日本内科学会（認定内科医）、日本消化器病学会（専門医）、日本肝臓学会（専門医）、日本温泉気候物理医学会（温泉療法医）	×
消化器内科	副部長	高 野 潤	日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医・指導医）、日本消化器病学会（専門医）、日本消化器内視鏡学会（専門医・指導医）	○
消化器内科	副部長	佐 藤 英 之	日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医・指導医）、日本消化器病学会（専門医）、日本消化器内視鏡学会（専門医・指導医）	○
消化器内科	医師	渡 部 貴 大		×
消化器内科	医師	土 屋 裕 子		×
消化器内科	医師	名 和 慈 仁		×
消化器内科	医師	佐 藤 隆 雄		×
消化器内科	医師	林 佑 樹		×
循環器内科	副部長	北 原 辰 郎	日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医・指導医）日本循環器学会（専門医）、日本心臓リハビリテーション学会（指導士）	○
循環器内科	副部長	新 関 武 史	日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医・指導医）、日本循環器学会（専門医）、日本心臓血管・インターベーション治療学会（認定医・専門医）、日本救急医学会（専門医）、日本心臓病学会（上級臨床医）、American Heart Association（ADR 治療指導医）	○
循環器内科	医 長	岩 山 忠 輝	日本内科学会（総合内科専門医・指導医）、日本循環器学会（専門医）、日本不整脈心電学会（不整脈専門医）	○
循環器内科	医 長	熊 谷 遊	日本内科学会（認定内科医）、日本循環器学会（専門医）、日本不整脈心電学会（不整脈専門医）	×
循環器内科	医 長	須 貝 孝 幸	日本内科学会（認定内科医）	×
循環器内科	医師	水 戸 琢 幸	日本内科学会（認定内科医）	×
循環器内科	医師	櫻 村 圭 亮		×
内科（呼吸器）	部長	稲 毛 稔	日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医・指導医）、日本呼吸器学会（専門医・指導医）、日本がん治療認定医機構（認定医）、ICD（インフェクションコントロールドクター）、日本病院会（医療安全管理者）、日本医師会（健康スポーツ医）、肺がん CT 健診認定機構（認定医師）	○
内科（呼吸器）	副部長	平 岡 紀 行	日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医・指導医）、日本呼吸器学会（専門医）、日本結核病学会（結核抗酸菌症指導医）、ICD（インフェクションコントロールドクター）	○
内科（呼吸器）	医師	古 山 広 大	日本内科学会（総合内科専門医）、日本呼吸器学会（専門医）	×
内科（呼吸器）	医師	福 島 茂 之		×
内科（腎臓・透析）	医 長	新 野 弘 樹	日本内科学会（認定内科医）、日本腎臓学会（専門医）、日本透析医学会（専門医）	○
内科（腎臓・透析）	医 長	亀 井 啓 太	日本内科学会（認定内科医）、日本腎臓学会（専門医・指導医）、日本透析医学会（専門医）	×
内科（腎臓・透析）	医師	小 林 傑		×
内科（血液）	科 長	鈴 木 郁 子	日本内科学会総合内科専門医、日本血液学会（専門医）	×
内科（血液）	医師	佐 藤 諒		×
内科（代謝・内分泌）	医師	石 井 康 大	日本内科学会（認定内科医）、日本内分泌学会（専門医）、日本糖尿病学会（専門医）	×
内科（代謝・内分泌）	医師	小 川 恭 司		×
神経内科	部長	栗 村 正 之	日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医・指導医）、日本神経学会（専門医・指導医）、日本臨床神経生理学会（認定医・専門医・指導医）、日本脳卒中学会（専門医）	○
神経内科	医師	岡 部 裕 真		×
神経内科	医師	高 橋 なおみ		×
総合診療科	部長	高 橋 潤	日本プライマリ・ケア連合会（認定医・指導医）、日本病院総合診療医学会（総合診療医）、日本医師会（産業医）	○
総合診療科	医 長	荒 木 有 字介	日本プライマリ・ケア連合会（認定医）、日本医師会（産業医）	×
総合診療科	医師	李 亨 鐘		×
総合診療科	医師	高 橋 寛	日本医師会（産業医）	×
総合診療科	医師	木 村 謙 太		×
小児科	部長	仙 道 大	日本小児科学会（専門医・指導医）	○
小児科	科 長	古 山 政 幸		○
小児科	医師	栗 野 裕 貴		○
精神科	部長	赤 羽 陸 樹	厚生労働省（精神保健指定医）、日本総合病院精神医学会（専門医・指導医）、日本病院会（医療安全管理者）	×
精神科	副部長	鈴 木 春 芳	厚生労働省（精神保健指定医）、日本精神神経学会（専門医・指導医）	○
精神科	医 長	佐 藤 洋 三	厚生労働省（精神保健指定医）	×
精神科	医 長	鈴 木 淳 也	厚生労働省（精神保健指定医）、日本精神神経学会（専門医・認知症診療医）日本認知症予防学会（専門医）	×
精神科	医師	櫻 井 耕		×
精神科	医師	齋 藤 裕 臣		×
消化器外科	部長	水 谷 雅 臣	日本外科学会（認定医・外科専門医・指導医）、日本消化器外科学会（消化器がん外科治療認定医・専門医・指導医）、日本臨床栄養代謝学会（認定医・指導医）、日本緩和医療学会（認定医、研修指導医）、日本乳がん検診精度管理中央機構（検診マンモグラフィ読影認定医師）	○
消化器外科	部長	東 敬 之	日本外科学会（認定医・外科専門医）、日本消化器外科学会（認定医）、日本乳癌学会（乳癌認定医・乳腺専門医）、日本医師会認定（産業医）、日本乳がん検診精度管理中央機構（検診マンモグラフィ読影認定医師）、日本病院会（診療情報管理士）	○
消化器外科	部長	竹 下 明 子	日本外科学会（認定医・外科専門医・指導医）、日本消化器病学会（専門医・指導医）、日本消化器外科学会（認定医・専門医）、日本胆道学会（認定医）、日本脾臓学会（指導医）、日本がん治療認定医機構（認定医）	○
消化器外科	副部長	森 谷 敏 幸	日本外科学会（認定医・外科専門医・指導医）、日本消化器外科学会（認定医・専門医・指導医）、日本内視鏡外科学会（認定医）、日本脾臓学会（指導医）、日本病院会（医療安全管理者）	○
消化器外科	医 長	間 瀬 健 次	日本外科学会（認定医・外科専門医）	×
消化器外科	医 長	横 山 森 良	日本外科学会（外科専門医）	○

所属	職名	氏名	学会認定等	指導医
消化器外科	医師	高 木 慎 也	日本外科学会（外科専門医）、日本乳がん検診精度管理中央機構（検診マンモグラフィ読影認定医師）、厚生労働省（日本 DMAT 隊員）	×
消化器外科	医師	武 井 沙 樹		×
呼吸器外科	部長	安 孫 子 正 美	日本外科学会（外科専門医・指導医）、日本呼吸器外科学会（指導医）、日本胸部外科学会（認定医）、呼吸器外科専門医合同委員会（専門医）、日本病院会（医療安全管理者）	○
呼吸器外科	副部長	加 藤 博 久	日本外科学会（認定医・外科専門医・指導医）、呼吸器外科専門医合同委員会（専門医）、日本呼吸器内視鏡学会（気管支鏡専門医、指導医）、日本がん治療認定医機構（認定医）	×
心臓血管外科	医 長	神 部 良 太	日本外科学会（外科専門医）	○
整形外科	部長	大 森 勝 之	日本整形外科学会（専門医）、厚生労働省（日本 DMAT 隊員）	○
整形外科	部長	松 本 宏 史	日本整形外科学会（専門医）、運動器リハビリテーション医（専門医）、日本人間関節学会（認定医）、日本スポーツ協会（スポーツドクター）	○
整形外科	副部長	轟 田 大 作	日本整形外科学会（専門医）	×
整形外科	副部長	渡 邊 忠 良	日本整形外科学会（専門医）、日本手外科学会（専門医）	○
整形外科	医 長	岩 崎 聖	日本整形外科学会（専門医）、日本脊椎脊髄病学会・日本骨髄外科学会（専門医）	×
整形外科	医 長	遠 藤 誠 一	日本整形外科学会（専門医）	×
整形外科	医師	宮 地 隆 浩		×
整形外科	医師	洪 谷 真 大		×
整形外科	医師	千 葉 優 人		×
産婦人科	部長	小 島 原 敬 信	日本産科婦人科学会（専門医・指導医）、日本婦人科腫瘍学会（専門医）、日本がん治療認定医機構（認定医）、日本医師会（健康スポーツ医）、日本スポーツ協会（スポーツドクター）	○
産婦人科	医師	奥 井 陽 介	日本産科婦人科学会（専門医）	×
産婦人科	医師	川 並 麟 太郎	日本泌尿器科学会（専門医・指導医）、日本透析医学会（専門医・指導医）	×
泌尿器科	副部長	阿 部 明 彦	日本泌尿器科学会（専門医）	○
泌尿器科	医師	窪 木 祐 弥	日本泌尿器科学会（専門医）	×
泌尿器科	医師	大 竹 航 太郎		×
脳神経外科	副部長	土 谷 大 輔	日本脳神経外科学会（専門医・指導医）、日本脳卒中学会（専門医・指導医）、日本脳神経血管内治療学会（専門医）、日本神経内視鏡学会（認定医）、日本脳神経学会（専門医）、日本リハビリテーション医学会（臨床認定医）、日本認知症学会（専門医・指導医）日本スポーツ協会（スポーツドクター）	○
脳神経外科	医 長	渡 辺 茂 樹	日本脳神経外科学会（専門医）、日本神経内視鏡学会（認定医）	×
眼科	被診診療部長	高 村 浩	日本眼科学会（専門医・指導医）	○
眼科	部長	大 沼 貴 哉		×
耳鼻咽喉科	部長	櫻 井 真 一	日本耳鼻咽喉科学会（専門医・指導医、補聴器相談医）、日本アレルギー学会（専門医）、日本がん治療認定医機構（認定医）	○
耳鼻咽喉科	医師	荒 木 直 人	日本耳鼻咽喉科学会（専門医）	×
耳鼻咽喉科	医師	神 戸 史 乃		×
形成外科	部長	菊 地 憲 明	日本形成外科学会（専門医）、小児形成外科分野指導医、再建・マイクロサージャリー分野指導医、領域指導医）、日本整形外科学会（専門医）、日本手外科学会（専門医）、日本熱傷学会（専門医）、日本がん治療認定医機構（認定医）	○
歯科口腔外科	副部長	小 林 武 仁	日本口腔外科学会（認定医・専門医）、日本有痛歯科医療学会（専門医）、ICD（インフェクションコントロールドクター）、日本がん治療認定医機構（認定医）	×
歯科口腔外科	医 長	川 口 太 郎	日本口腔インプラント学会（専門医）	×
歯科口腔外科	歯科医師	逸 見 朋 陽	日本口腔外科学会（認定医）	×
歯科口腔外科	歯科医師	世 原 康 由		×
麻酔科	部長	須 須 都 子	日本麻酔科学会（専門医・指導医）、日本ベインクリニック学会（専門医）	○
麻酔科	医 長	木 村 相 樹	日本麻酔科学会（専門医）、日本救急医学会（専門医）、日本医師会（産業医）	○
麻酔科	医 長	鈴 木 麻 奈 美	日本麻酔科学会（認定医・専門医）	○
麻酔科	医師	添 川 清 貴		×
放射線科	被診診療部長	伊 東 一 志	日本医学放射線学会（診断専門医・研修指導医）、日本 IVR 学会（専門医）	○
放射線科	副部長	菅 原 千 智	日本医学放射線学会（診断専門医・研修指導医）、日本乳がん検診精度管理中央機構（検診マンモグラフィ読影認定医師）	×
放射線科	医師	小 笠 原 理 希		×
病理科	医師	布 山 繁 美	日本病理学会（専門医・病理専門医指導医）、日本臨床細胞学会（細胞診専門医）	×
救命救急センター	センター長	佐 藤 光 弥	日本救急医学会（専門医）、日本消化器外科学会（認定医）、厚生労働省（統括 DMAT）	○
救命救急センター	部長	鹿 間 幸 弘	日本内科学会（認定内科医、総合内科専門医・指導医）、日本神経学会（専門医・指導医）	○
救命救急センター	科 長	金 子 忠 弘	日本小児科学会専門医	○
救命救急センター	医師	高 木 潤 一	日本産科婦人科学会（専門医）、日本人間ドック学会（健診情報管理指導士）、日本禁煙学会（禁煙認定指導医）、日本医師会（産業医）	×

●指導医・研修医からのメッセージ

◎副院長（兼）教育研修部長：江口 英行

当院は、山形県南の置賜地域において唯一の救命救急センターを擁する基幹病院であり、ほぼすべての救急患者が当院に搬送されるため、様々な症例を経験することができ、プライマリ・ケア習得には最適な病院です。さらに、災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、感染症指定医療機関にも指定され、専門性の高い疾患も経験できます。

山形市内から車で60分ほどの、どかな田園地帯に病院はあります。一見地味に見えるかも知れませんが、救命救急センターには救急車がひっきりなしに出入りし、「こんな田舎に、こんな大きな病院があったんだ。」というものが多くの研修医の感想です。

当院で中身の濃い研修をして、逞しい医師になりたいです。

◎臨床研修医：村嶋 祐太郎

私は学生のときに経験した実習と病院見学を経て、置賜総合病院での研修を決めました。理由は病院全体の雰囲気があるく活発なことと、指導医と研修医のやり取りを見て、この病院で研修したいと感じたからです。

実際に研修を1年行ない、非常に充実した研修期間となりました。どの科でも指導医の先生に相談がしやすく、自身の熟達度にあった業務や手技を割り振ってくださいます。また、志望科などを踏まえて、学習したい内容などを伝えれば、それを考慮した指導をきめ細かく準備していただきました。2年目研修医の方達にも非常に相談しやすい環境で、休憩時間などによく臨床の疑問や研修内容の相談などにも乗っていただきました。

是非、一度見学にいらしてください。お会いできるのを楽しみにしています。

日本海総合病院

〒998-8501 酒田市あきほ町30番地

<http://www.nihonkai-hos.jp/hospital/>
<http://www.nihonkai-hos.jp/gakusei/>（医学生向け情報）

●病院の概要



【院内の中核を担う】

平成20年4月、山形県立日本海病院と酒田市立酒田病院を統合再編し、「地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構」を設立。急性期医療を担う「日本海総合病院」と療養型及び回復期リハビリを担う「日本海総合病院酒田医療センター」を運営しています。

平成23年4月には屋上ヘリポートを備えた救命救急センターを開設、平成24年6月には庄内地域初のPET/CTを導入しました。また平成25年8月にはハイブリッド手術室の稼働を開始し、平成27年2月にはDMATカーの配備、令和元年5月から手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入するなど、地域医療の向上を図っています。

【特色】

急性期医療を基本とした診療体制を構築しており、総合医療情報システム（電子カルテ）、外傷初期診断に対する外傷チーム、急性循環器疾患に対する診療チーム、消化器内科によるESD治療の先駆的活動及び豊富な症例、遠隔画像診断による夜間休日の画像診断サポート体制などが挙げられます。

また、病院全体で臨床病理検討会を毎月行うなど、全職員の研修体制も充実しています。

【救急対応事例】

H17年12月、JR特急いなほ号の脱線転覆事故（死者5、負傷者32）が発生、直ちに医師1名を派遣し医学的統括・トリアージ・治療にあたり、続いて救護3班を派遣しました。

院内には117名の職員が集合、トリアージ、急患室、集中治療室を確保し、看護師が手術室等に待機しました。事故直前にも勉強会・訓練を行っており迅速な対応を可能にしています。

研修医や若手医師の救急対応能力を養成するため、救急資格（ICLS、ISLS、JPTECなど）の取得費用を病院が負担しています。

研修環境

研修医専用室があり、ノートPCを無償で貸与するほか、専用デスクとインターネット環境を整備しています。

専用室の向かいには図書室があり、専属の司書がおりますので、図書・文献の検索や発注もスムーズです。また、スケジュール管理、各種手続きなど、研修のお世話をする事務担当も配置しています。

病院敷地内の単身用アパート（レジデントハウス）に入居可能です。

遠くで近い東京

すぐ近くに空港があり、日に4往復の羽田便が就航しています。

片道60分のフライトですので、時間距離は「すぐそこ」と言えるでしょう。学会はもちろん、旅行にも便利です。

食の都庄内

庄内地域は「食の都庄内」を標榜しており、その名のとおり四季を通じて豊富な食材が生産されています。

これらの食材にこだわる有名レストラン、農家レストランなども多数あります。

また、8割のお店が自家製麺を使用していると言われる、「酒田ラーメン」もお勧めです。

病院見学など、当院においでの際に、ぜひ味わってください。

●募集について

臨床研修

●令和4年度研修医募集定員：13名

・令和3年度研修医受入数：1年次10名、2年次10名

●処遇

・給与 【1年次】基本月額335,000円＋研修医手当114,500円
合計449,500円

【2年次】基本月額346,500円＋研修医手当118,800円

合計465,300円

その他、住居手当、通勤手当、宿日直手当、時間外勤務手当など

※年収例：1年次600万円程度 2年次700万円程度（R2実績参考・状況により異なります。）

・保険 健康保険、厚生年金加入 勤務医賠償責任保険は病院加入

●診療科ごとの入院患者・外来患者の数（令和2年度実績） ※1

診療科名	年間入院患者数	平均在院日数	年間新外来患者数	1日平均外来患者数	年間外来診療日数	常勤医師数	指導医数
総合内科	150	21.5	760	5.4	243		
循環器内科	1,257	9.6	1,058	52.9	243	11	6
呼吸器内科	939	13.3	818	49.6	243	4	2
代謝内科	188	13.6	176	43.0	243	4	1
腎臓内科	480	15.1	337	74.8	243	6	3
血液内科	510	16.2	256	49.7	243	5	2
消化器内科	3,129	10.4	2,372	151.6	243	14	5
内視鏡内科	0	0.0	0	0.0	243		
精神科	61	24.9	316	48.5	243	6	1
神経内科	425	19.5	550	34.6	243	4	2
小児科	346	5.9	1,244	27.0	243	5	3
緩和ケア内科	0	0.0	0	0.8	243		
外科	2,161	10.5	968	120.8	243	18	6
心臓血管外科	262	23.4	127	20.8	243	6	2
呼吸器外科	322	9.5	97	14.3	243	2	1
脳神経外科	395	19.3	563	21.2	243	3	1
整形外科	1,261	14.4	2,586	109.9	243	10	3
形成外科	240	13.1	1,638	44.1	243	4	1
皮膚科	0	0.0	359	23.9	243		
産婦人科	911	8.6	955	75.1	243	7	2
泌尿器科	1,105	8.4	1,059	77.7	243	6	2
眼科	207	2.1	493	37.8	243	2	2
耳鼻咽喉・頭頸部外科	600	9.4	1,215	58.4	243	4	1
放射線科	0	0.0	1,905	10.4	243	4	3
麻酔科	0	0.0	5	1.8	243	3	2
救急科	40	1.8	0	0.0	243	4	2
歯科口腔外科	92	5.3	2,323	91.9	243	4	1
放射線治療科	0	0.0	5	26.8	243		
病理診断科	0	0.0	0	0.0	243	1	1
計	15,081	11.6	22,185	1,272.8		137	55

※1 常勤医師数・指導医数についてはR3.4.1現在

●救急患者受入人数（令和2年度実績） 17,141人

●学会認定施設の状況

- ・日本内科学会認定医制度教育病院
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
- ・日本腎臓学会研修施設
- ・日本透析医学会専門医制度認定施設
- ・日本リウマチ学会教育施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- ・日本精神神経学会専門医研修施設
- ・日本神経学会専門医制度准教育施設
- ・日本老年精神医学会専門医制度認定施設
- ・日本小児科学会小児科専門医制度研修施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
- ・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- ・関連10学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会ステントグラフト実施施設（腹部）（胸部）
- ・*下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会血管内焼灼術実施施設（下肢静脈瘤）
- ・呼吸器外科専門医制度認定専門研修基幹施設
- ・日本脳神経外科学会専門医研修プログラム連携施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本手外科学会認定研修施設
- ・日本形成外科学会認定施設
- ・日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会インプラント実施施設
- ・日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会エクスパンダー実施施設
- ・日本産科婦人科学会専門医制度専攻指導施設
- ・日本産科婦人科学会専門医研修連携施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期新生児専門医暫定認定施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・日本口腔外科学会専門医制度研修施設
- ・日本有病者歯科医療学会認定医制度研修施設
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本心臓血管麻酔学会専門医認定基幹施設
- ・日本集中治療医学会専門医研修施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本病理学会病理専門医研修認定施設
- ・日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
- ・日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士実地修練認定教育施設
- ・日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設
- ・山形県医師会母体保護法指定医師審査規則による設備指定医療機関
- ・経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会 経カテーテルの大動脈弁置換術実施施設
- ・日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
- ・日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医研修 準認定施設
- ・日本頭顔面インプラント学会准研修施設
- ・日本脊髄神経病学会脊髄神経外科専門医基幹研修施設
- ・浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
- ・日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
- ・山形県医師会母体保護法指定医師研修機関
- ・日本総合病院精神医学会電気けいれん療法研修施設
- ・日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構認定協力施設
- ・マンモグラフィ検診施設画像認定施設
- ・日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション研修施設
- ・日本臨床細胞学会施設
- ・日本血液学会認定専門医研修教育施設
- ・日本食道学会食道外科専門医準認定施設
- ・IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設
- ・日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設 I

●研修医の募集及び採用の方法

- ・募集方法：公募
- ・選考方法：面接
- ・マッチング利用：有
- ・応募必要書類：採用選考申込書 履歴書 成績証明書

●病院見学

年間を通して見学いただけます。

最も重要なのは病院選びですが、地域選びも大切な要素です。実際にお出でいただき、当院、当地域の雰囲気を感じていただければと思います。

当院規定による旅費を支給しますので、お気軽にご連絡ください。

病 院 長：島貫 隆夫

病床数：630【一般：626／感染症：4

医 師 数 : 160

診療科目：内、循内、消内、内視鏡内、精、神内、小、緩和ケア内、外、乳外、小外、整、形、リハ、脳外、心外、呼外、皮、泌、産婦、眼、耳、放、麻、救、歯口、病理診断科

●プログラムについて

臨床研修

研修医の希望を叶えるため、自由選択研修を最大限に確保。研修医の多様性に配慮し、研修医と指導医が協議してカリキュラムを決定しています。

北庄内の中核病院として非常に多くの症例が集中しており、救命救急センターにより、さらに多くの症例経験が可能となります

また、平成26年度から那覇市立病院で研修を行っています。気象条件や生活習慣が異なる沖縄での研修が好評となっています。

●医師紹介・メッセージ

●常勤勤務医紹介(研修医含まず)

[illegible]

●問い合わせ先

日本海総合病院 総務課 富士村・阿部

tel.0234-26-2001 fax.0234-26-5114

E-mail : kensyu@nihonkai-hos.jp

[illegible]

●指導医・研修医からのメッセージ

◎研修管理委員長：内村 文昭

初期研修の間に経験できる症例や、体得できる手技の豊富さを維持し、フットワークの良い、将来を担う医療人となるようにバックアップ体制が充実していると自負しています。診療科間の障壁がなく、患者情報の交換も容易で、良好なコミュニケーションが指導を受けるうえで大きな利点となっているようです。

庄内の豊かな自然の下、最新の医療機器が整備された環境で、医療人としての第一歩を踏み出してください。スタッフ一同待っています。

◎初期研修医：高橋 直弘

当院は山形県の庄内地方の中核医療を担う病院であり、豊富な症例や手技を経験できることが特徴です。指導医の先生方の数も充実しており、手厚いバックアップを受けながら安心して研修することが出来ます。また、研修プログラムの選択における自由度も高く、2年間のうち必修を除いた約50週は自由に研修科を選択することが出来ます。1か月間那覇市立病院で研修を行うことも魅力の1つです。

酒田市は美味しいお米や魚介類、日本酒やラーメンなど食の魅力も多いです。車で20分ほどの庄内空港からは東京まで1時間程度と都心へのアクセスもいいます。見学に来ていただければ当然と酒田の文化をきっと気に入っていただけるはずです。ぜひ一度当院の雰囲気を知れば酒田へお越しください。

鶴岡市立荘内病院

〒997-8515 鶴岡市泉町4番20号 <https://www.shonai-hos.jp/>

●病院の概要



当院は、日本海に面した庄内地方の南域、1市2町の人口約153,000人の医療圏における唯一の基幹病院です。平成15年に、免震構造と屋上ヘリポートを備える災害拠点病院として移転・新築され、現在、一般病床476床、周産期母子医療センター12床(NICU6、GCU6)、集中治療センター23床(ICU6、HCU9、救急ベッド8)、人間ドッグ10床の計521床を有しています。

平成25年に創立100周年を迎えた歴史と伝統のある病院で、地域全体の医療の充実と診療圏住民の生命・健康を守ることを使命としています。

近年、地域医療機関への支援とともに、連携、役割分担の推進を担う中核として「地域医療支援病院」の承認(平成20年12月)、24時間体制でのNICUを含む新生児医療、産科の周産期に係る高度な医療を行う「山形県地域周産期母子医療センター」(平成22年6月)の認定を受けております。がん診療においては、外科手術、化学療法、放射線療法、緩和ケアや地域の医療機関等との連携に取り組み、質の高い診療が認められ「山形県がん診療連携指定病院」(平成22年10月)に指定されております。がん診療の画期的な診断技術を発表した慶應義塾大学先端生命科学研究所が進めるがん研究にも、地域の医師会とともに協力体制を築いております。また、平成29年4月には、国立がん研究センター・鶴岡連携研究拠点が開所、さらに、令和2年7月には、同センター東病院と医療連携に関する協定を締結するなど、関係機関等と共に研究活動を実施しております。

年間の患者数は、入院が延べ約130,000人、外来が約162,000人、救急が約14,000人で、手術件数(手術室分)は約3,300件です。救急車受入数は、約3,600件で、様々な疾患の患者さんが来院される急性期病院です(すべて令和2年度実績)。

職員が一致団結し、心のこもった患者サービスの向上に努めるとともに、市民から信頼され地域医療に貢献できる質の高い医療人の育成に努めております。

●募集について

臨床研修

- 令和4年度研修医募集定員：5名(予定)
- 令和3年度研修医受入数
 - ・1年次：3名
 - ・2年次：4名(ほか協力型病院としても受入れ)
- 処遇
 - ・給与：年間概算支給見込額
 - ・1年次：727万円
 - ・2年次：1,001万円
 - 基本給(基本手当含む)は、1年次 428,600円、2年次 465,444円。
 - 他に、住居、通勤、時間外、宿日直等の手当あり。
 - ・健康保険、厚生年金などあり。医師賠償責任保険は、病院で加入。
 - ・有給休暇は20日(4月に採用される年は15日)。ほか夏季、年末年始休暇等あり。
- 公舎：集合住宅形式40戸、一戸建て1戸。
- 募集及び採用の方法
 - ・募集方法：公募
 - ・選考方法：面接(往復交通費助成)
 - ・マッチング利用：有
 - ・応募締切：令和3年7月末日(予定)
 - ・試験日：令和3年7月～8月(予定)
- 病院見学
 - ・随時受付。ホームページの専用フォームから申込可(往復交通費助成)。

●診療科ごとの入院患者・外来患者の数

診療科名	年間入院患者数	平均在院日数	年間新外来患者数	1日平均外来患者数	年間外来診療日数	常勤医師数	指導医数
内科	1,458	15.7	3,007	161.2	243	6	4
精神科	0	0.0	4	1.9	243	0	0
神経内科	237	20.5	245	21.4	243	1	1
呼吸器科	86	25.4	107	8.0	243	1	1
消化器科	944	14.0	697	40.2	243	3	2
循環器科	581	20.3	186	31.5	243	5	3
小児科	758	8.3	841	34.9	243	7	5
外科	1,456	9.9	466	60.2	243	7	4
整形外科	1,150	19.3	1,833	59.2	243	8	2
形成外科	4	0.9	202	6.8	243	0	0
脳神経外科	557	16.1	654	20.5	243	2	1
呼吸器外科	0	0.0	45	5.4	243	0	0
心臓血管外科	0	0.0	20	1.9	243	0	0
小児外科	71	7.4	53	5.6	243	3	2
皮膚科	8	5.1	268	5.9	243	1	1
泌尿器科	420	13.3	470	44.2	243	2	1
産科・婦人科	643	9.7	399	28.8	243	4	2
眼科	344	2.2	574	31.2	243	3	0
耳鼻咽喉科	32	2.9	275	8.1	243	1	0
放射線科	0	0.0	121	19.4	243	2	1
歯科口腔外科	159	5.8	1,027	15.8	243	4	0
麻酔科	0	0.0	22	5.9	243	3	2
中央検査科	0	0.0	0	0.0	243	(1)	(1)
病理科	0	0.0	0	0.0	243	2	0

(注)中央検査科の医師は兼務

※患者数は令和2年度、医師数は令和3年4月現在

●救急患者受入人数(令和2年度実績) 13,857人

●各種指定・認定状況

- ・未熟児養育医療機関
- ・原子爆弾被害者一般疾病医療機関
- ・救急告示医療機関
- ・エイズ治療拠点病院
- ・災害拠点病院
- ・臨床研修病院
- ・地域医療支援病院
- ・山形県地域周産期母子医療センター
- ・山形県がん診療連携指定病院
- ・日本医療機能評価機構認定(一般病院2、(3rdG:Ver.1.1))
- ・山形DMAT指定病院

●学会認定の状況(令和3年4月現在)

- ・日本内科学会認定医制度教育関連病院
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
- ・日本乳癌学会認定医・専門医関連施設
- ・日本周産期・新生児医学会専門医制度指定研修施設(新生児)
- ・日本周産期・新生児医学会専門医制度指定研修施設(母体・胎児)
- ・日本脳神経外科学会専門医関連施設
- ・日本小児科学会専門医研修施設
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・日本泌尿器科学会専門医関連教育施設
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本病理学会研修登録施設
- ・日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設
- ・日本栄養療法推進協議会NST稼働施設
- ・日本口腔外科学会認定准研修施設
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本アレルギー学会認定教育施設
- ・日本緩和医療学会認定研修施設
- ・日本手外科学会基幹研修施設
- ・日本臨床衛生検査技師会精度保証施設
- ・病院機能評価認定(3rdG:Ver.1.1)
- ・NCD(National Clinical Database)施設
- ・日本脳卒中学会研修教育施設
- ・日本認知症学会教育施設
- ・日本消化器病学会関連施設
- ・がん病態栄養専門管理栄養士研修実地修練施設
- ・日本神経学会専門医制度准教育施設
- ・母体保護法指定医師研修機関
- ・日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設B
- ・日本病院総合診療医学会認定施設
- ・ペインクリニック専門医指定研修施設
- ・日本小児外科学会教育関連施設B
- ・日本脊椎神経病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設
- ・日本臨床神経生理学学会認定施設
- ・一次脳卒中センター(PSC)
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設

●学会、研修会

- ・各診療科指導医による救急講義や外部講師を招いた研修会を院内で開催。
- ・学会、研修会等に参加の際は旅費及び参加費の支給あり。
- ・JATEC、ACLSなどの資格取得の受講料も助成(上限60,000円)。

●その他の勤務環境

- ・論文検索環境として、図書館、UpToDateAnyWhere等あり。

●周辺のレジャー施設等

日本で初めてユネスコ食文化創造都市ネットワークの「食文化分野」に認定され、味わいの深い飲食店が数多く存在することは、鶴岡の歴史と文化に裏打ちされています。市の中心部には鶴ヶ岡城址の鶴岡公園や藩校致道館、大宝館などの歴史的建造物が立ち並び、少し足を伸ばせばクラゲの展示種類数世界一の『加茂水族館』やあつみ温泉・湯野浜温泉等数々の温泉があります。日本遺産に認定された出羽三山、松ヶ岡開墾場や夕日が美しい日本海など大自然に囲まれた環境です。

病 院 長：鈴木 聡
病 床 数：521【一般：521】
医 師 数：78
診 療 科 目：内、精、神内、呼、消、循、小、外、整、形、脳外、呼外、心外、
小外、皮、泌、産、婦、眼、耳、歯口、麻、リハ、放、病

●問い合わせ先
鶴岡市立荘内病院 総務課経営企画係
tel.0235-26-5111(内線6327) fax.0235-26-5110
E-mail：rinken@shonai-hos.jp

●プログラムについて

臨床研修

- ・南庄内地域唯一の基幹病院であり、急性期・重症症例を数多く経験できる。
- ・救急患者数が年間約 14,000 人と多く、救急症例を幅広く研修することができる。
- ・手術件数も年間約 3,300 件で、基本的な手術手技また挿管手技を含めた麻酔・救急蘇生の技術を十分に習得できる。
- ・内科系はマンツーマン指導で、プライマリ・ケアの修得には十分な症例数がある。
- ・1 学年定員 5 名と少人数制で、約 11 か月の選択科期間に、希望する診療科を十分に研修できるフレキシブルなプログラムである。

●研修スケジュール

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年次	オリエンテーション	内科			救急部門	内科			外科	小児科	救急部門(麻酔科)	選択科
2 年次	地域医療	産科婦人科	精神科	選択科								

※必修科目の 7 科（内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、救急、地域医療）のうち、外科、小児科、産科婦人科、精神科の 4 科はそれぞれ 4 週研修します。
※一般外来研修は、内科、外科、小児科、地域医療研修期間中に計 4 週以上研修します。

●医師紹介・メッセージ

●常勤勤務医師紹介（指導医）

診療科名	氏名	所属	役職	指導医講習会等の受講経歴有○無×	学会認定等
内科	小池 千里	鶴岡市立荘内病院	診療部長兼内科主任医長	○	認定内科医(日本内科学会)、総合内科専門医(日本内科学会)、血液専門医(日本血液学会)、指導医(日本内科学会)
内科	安宅 謙	鶴岡市立荘内病院	内科系診療部長兼臨床工学室長兼内科主任医長兼血液浄化療法センター長兼物流管理センター長	○	
内科	竹田 文洋	鶴岡市立荘内病院	副主任医長	×	
内科	和泉 典子	鶴岡市立荘内病院	医長兼中央検査科長	○	認定内科医(日本内科学会)、総合内科専門医(日本内科学会)、指導医(日本内科学会)、緩和医療認定医(日本緩和医療学会)、緩和医療研修指導者(日本緩和医療学会)、緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会(日本緩和医療学会)、日本がん治療認定機構 がん治療指導医
神経内科	丸谷 宏	鶴岡市立荘内病院	診療部主幹兼神経内科主任医長	○	神経内科専門医(日本神経学会)、脳卒中専門医(日本脳卒中学会)、認定内科医(日本内科学会)、神経内科指導医(日本神経学会)、認知症専門医(日本認知症学会)、認知症指導医(日本認知症学会)、指導医(日本内科学会)
呼吸器科	阿部 恭子	鶴岡市立荘内病院	医長	○	認定内科医(日本内科学会)、総合内科専門医(日本内科学会)、呼吸器内科専門医(日本呼吸器学会)
消化器科	古屋 紀彦	鶴岡市立荘内病院	診療部主幹兼消化器科主任医長兼消化器病センター副センター長	○	
消化器科	宮澤 弘哲	鶴岡市立荘内病院	医長	○	認定内科医(日本内科学会)、消化器病専門医(日本消化器病学会)、TNTコース終了(日本内科学会)、嚥下機能評価研修会修了(PEG-在宅医療学会)
消化器科	渡邊 敬治	鶴岡市立荘内病院	医長	×	
循環器科	佐藤 匡	鶴岡市立荘内病院	統括診療部長兼栄養科長兼循環器科主任医長	○	循環器専門医(日本循環器学会)、総合内科専門医(日本内科学会)、認定内科医(日本内科学会)、指導医(日本内科学会)、心臓リハビリ指導士(日本心臓リハビリ学会)
循環器科	菊地 彰洋	鶴岡市立荘内病院	医長	×	CVT認定医(日本血管インターベンション治療学会)
循環器科	石垣 大輔	鶴岡市立荘内病院	医長	○	認定内科医(日本内科学会)、循環器専門医(日本循環器学会)
循環器科	小島 研司	鶴岡市立荘内病院	参与	○	循環器専門医(日本循環器学会)、認定内科医(日本内科学会)、指導医(日本内科学会)
内科(救急)	菅 秀紀	鶴岡市立荘内病院	副主任医長	○	認定内科医(日本内科学会)、臨床研修プログラム責任者養成講習会修了
外科	鈴木 聡	鶴岡市立荘内病院	院長兼院長兼看護専門学校長	○	外科専門医(日本外科学会)、消化器外科専門医(日本消化器外科学会)、外科指導医(日本外科学会)、消化器外科指導医(日本消化器外科学会)、マンモグラフィ読影評価B-I、暫定教育医(日本産科救急医学会)、産科救急認定医(日本産科救急医学会)、がんリハビリテーション研修修了、認定病院総合診療医(日本病院総合診療医学会)
外科	坂本 薫	鶴岡市立荘内病院	診療部主幹兼外科主任医長兼集中治療センター長	○	外科専門医(日本外科学会)、消化器外科専門医(日本消化器外科学会)、消化器がん外科治療認定医(日本消化器外科学会)、日本静脈経路栄養学会認定医、日本静脈経路栄養学会指導医、胃腸科認定医(日本消化管学会)、胃腸科専門医(日本消化管学会)、胃腸科指導医(日本消化管学会)、漢方専門医(日本漢方医学会)、漢方指導医(日本漢方医学会)、消化器科認定医(日本消化器外科学会)
外科	白崎 康弘	鶴岡市立荘内病院	診療部主幹兼消化器病センター長兼外科副主任医長	○	消化器外科専門医(日本消化器外科学会)、認定医(日本消化器外科学会)、肝胆膵外科高度技能指導医(日本肝胆膵外科学会)、日本肝膵外科学会 評議員、麻酔科 指導医、肝臓専門医(日本肝臓学会)、認定病院総合診療医(日本病院総合診療医学会)、日本腹部救急医学会 評議員、日本臓器移植指導医(日本臓器移植学会)
外科	島田 哲也	鶴岡市立荘内病院	医長	○	外科専門医(日本外科学会)、医学博士学位(新潟大学)、消化器外科専門医(日本消化器外科学会)、消化器がん外科治療認定医(日本消化器外科学会)
外科	太田依璃子	鶴岡市立荘内病院	医長	×	外科専門医(日本外科学会)、認定病院総合診療医(日本病院総合診療医学会)、消化器がん外科治療認定医(日本消化器外科学会)、消化器外科専門医(日本消化器外科学会)
小児外科	八木 実	鶴岡市立荘内病院	病院事業管理者	×	外科専門医(日本外科学会)、外科指導医(日本外科学会)、小児外科専門医(日本小児外科学会)、小児外科指導医(日本小児外科学会)、日本静脈経路栄養学会認定医、日本静脈経路栄養学会指導医、胃腸科認定医(日本消化管学会)、胃腸科専門医(日本消化管学会)、胃腸科指導医(日本消化管学会)、漢方専門医(日本漢方医学会)、漢方指導医(日本漢方医学会)、消化器科認定医(日本消化器外科学会)
小児外科	大滝 雅博	鶴岡市立荘内病院	診療部主幹兼小児外科主任医長兼医療安全管理室長	○	小児外科専門医(日本小児外科学会)、外科専門医(日本外科学会)、医療安全管理者(日本病院会)、小児科指導医(日本外科学会)、嚥下機能評価研修会修了(日本嚥下医学会)、小児外科指導医(日本小児外科学会)
小児外科	阿部 尚弘	鶴岡市立荘内病院	医長	○	外科専門医(日本外科学会)
整形外科	後藤 真一	鶴岡市立荘内病院	診療部主幹兼リハビリテーション科主任医長	○	整形外科専門医(日本整形外科学会)、手外科専門医(日本手外科学会)
整形外科	日向野行正	鶴岡市立荘内病院	副主任医長	×	整形外科専門医(日本整形外科学会)、日本体育協会公認 スポーツクター
整形外科	浦川 貴朗	鶴岡市立荘内病院	副主任医長	○	整形外科専門医(日本整形外科学会)、脊椎脊髄病専門医(日本脊髄病学会)、整形外科専門医(日本整形外科学会)、整形外科学会研修指導者講習会受講、インフェクションコントロール(ICC)制度協議会
整形外科	中重 雅人	鶴岡市立荘内病院	医長	×	整形外科専門医(日本整形外科学会)、日本体育協会公認 スポーツクター
整形外科	前田 圭祐	鶴岡市立荘内病院	医長	×	整形外科専門医(日本整形外科学会)、日本体育協会公認 スポーツクター
整形外科	関本 浩之	鶴岡市立荘内病院	医長	×	
整形外科	吉田 謙	鶴岡市立荘内病院	医長	×	
脳神経外科	佐藤 和彦	鶴岡市立荘内病院	副院長兼脳神経外科主任医長兼救急センター長	○	脳神経外科専門医(日本脳神経外科学会)、脳卒中専門医(日本脳卒中学会)、脳血管内治療専門医(日本脳神経血管内治療学会)、認知症専門医(日本認知症学会)、認定病院総合診療医(日本病院総合診療医学会)、メディカルコントロール指導医セミナー修了、山形県医師会認定かかりつけ医(山形県医師会)、神経内視鏡技術認定医(日本神経内視鏡学会)

診療科名	氏名	所属	役職	指導医講習会等の受講経歴有○無×	学会認定等
脳神経外科	菊地 善彰	鶴岡市立荘内病院	医長	×	脳神経外科専門医(日本脳神経外科学会)、脳神経外科指導医(日本脳神経外科学会)、脳卒中専門医(日本脳卒中学会)、技術認定医(日本神経内視鏡学会)
小児科	吉田 宏	鶴岡市立荘内病院	副院長兼診療部地域医療推進室長兼小児科主任医長兼NICUセンター長	○	小児科専門医(日本小児科学会)、小児科指導医(日本小児科学会)、周産期新生児専門医指定研修施設暫定指導医、新生児蘇生法専門コースインストラクター
小児科	齋藤 なか	鶴岡市立荘内病院	主任医長	○	小児科専門医(日本小児科学会)、小児科指導医(日本小児科学会)、小児神経専門医(日本小児神経学会)、日本臨床神経生理学会専門医(脳波分野)、日本臨床神経生理学会指導医(脳波部門)、てんかん専門医(日本てんかん学会)、てんかん指導医(日本てんかん学会)、インフェクションコントロール(ICC)制度協議会
小児科	新井 啓	鶴岡市立荘内病院	小児科副主任医長	○	小児科専門医(日本小児科学会)、小児科指導医(日本小児科学会)
小児科	阿部 裕	鶴岡市立荘内病院	医長	○	小児科専門医(日本小児科学会)、小児科指導医(日本小児科学会)、小児神経専門医(日本小児神経学会)、臨床遺伝専門医(日本人遺伝学会)
小児科	篠原 健	鶴岡市立荘内病院	医長	×	小児科専門医(日本小児科学会)、新生児専門医(日本周産期・新生児医学会)、新生児蘇生法専門コースインストラクター
小児科	佐藤 統一	鶴岡市立荘内病院	医長	○	小児科専門医(日本小児科学会)、小児科指導医(日本小児科学会)、救急科専門医(日本救急医学会)、日本ICU臨床医
産科	五十嵐裕一	鶴岡市立荘内病院	外科系診療部長兼産科主任医長兼婦人科医長兼医療安全管理部長	○	産婦人科専門医(日本産科婦人科学会)、産婦人科指導医(日本産科婦人科学会)、周産期専門医制度の母体・胎児専門医指導医、母体保護法指定医、新生児蘇生法専門コースインストラクター、臨床研修プログラム責任者養成講習会修了、緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会(日本緩和医療学会)
婦人科	高柳 健史	鶴岡市立荘内病院	婦人科主任医長兼産科長	×	産婦人科専門医(日本産科婦人科学会)、産婦人科指導医(日本産科婦人科学会)、母性保護法指定医(山形県医師会)
婦人科	矢野 亮	鶴岡市立荘内病院	医長	○	産婦人科専門医(日本産科婦人科学会)、日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法「専門」コース(Aコース)修了、ALSOプロバイダーコース修了、婦人科腫瘍専門医(日本婦人科腫瘍学会)、「腹腔鏡」技術認定医(日本産科婦人科内視鏡学会)
眼科	長村 洋徳	鶴岡市立荘内病院	主任医長	×	眼科専門医(日本眼科学会)
眼科	山内 悠也	鶴岡市立荘内病院	医長	×	眼科専門医(日本眼科学会)
皮膚科	吉田 幸恵	鶴岡市立荘内病院	主任医長	○	皮膚科専門医(日本皮膚科学会)、アレルギー専門医(日本アレルギー学会)、日本性感染症学会認定医(日本性感染症学会)
泌尿器科	阿部 寛	鶴岡市立荘内病院	主任医長	○	泌尿器科専門医(日本泌尿器科学会)、泌尿器科指導医(日本泌尿器科学会)
麻酔科	岸 正人	鶴岡市立荘内病院	診療部主幹兼麻酔科主任医長兼手術センター長	×	麻酔科指導医(日本麻酔科学会)、麻酔科構構医(厚生労働省)
麻酔科	菊池 元	鶴岡市立荘内病院	麻酔科副主任医長	○	麻酔科専門医(日本麻酔科学会)、麻酔科構構医(厚生労働省)、ペインクリニック専門医(日本ペインクリニック学会)
麻酔科	栗原 一貴	鶴岡市立荘内病院	医長	○	麻酔科認定医(日本麻酔科学会)、麻酔科専門医(日本麻酔科学会)、日本周産期経産道心エコー認定(日本心臓血管麻酔科学会)、山形大学大学院医学系研究科医学専攻博士課程修了
放射線科	斉藤 聖宏	鶴岡市立荘内病院	診療部主幹兼放射線科長兼放射線科主任医長	○	放射線科専門医(日本放射線学会)、放射線診断専門医(日本医学放射線学会)、肺がんCT検診認定医師
放射線科	長畑 仁子	鶴岡市立荘内病院	医長	×	放射線科専門医(日本医学放射線学会)
病理科	内ヶ崎新也	鶴岡市立荘内病院	病理科長兼病理科主任医長	×	病理専門医(日本病理学会)

●指導医・研修医からのメッセージ

◎プログラム責任者：外科系診療部長 五十嵐 裕一

当院の特徴は、（１）庄内 2 次保健医療圏南域の急性期、重症患者が 1 か所に集まる地域の基幹病院であること （２）専属医師を含む多職種よりなる緩和ケアチームが診療科の枠を越えて精力的に活動していること （３）NICUを有する山形県地域周産期母子医療センターであることです。各診療科の指導体制も充実しています。研修医の皆さんはわれわれの仲間であり、また貴重な戦力になっていきます。自らが、周囲のスタッフ・患者さんに頼りにされる存在であると気づくようになり、地域の医療を守っている一員であることを身に染みて実感できる病院です。医師としての第一歩を当院で踏み出してみませんか。

◎研修医：栢原 一洋

みなさんはじめまして。鶴岡市立荘内病院研修医の栢原一洋と申します。
突然ですが、研修病院を選ぶ基準は何でしょう。私が考える研修病院を選ぶうえで最も大切なことは、「自分の頭で考え、自分の意志で、そして戦力として病院に貢献することができる病院」だと思っています。日本には非常に多くの研修病院があります。どこで研修したって同じ、どこに行ったらって自分次第、という意見もあり、たしかに私もそれに同意します。しかし、素晴らしい研修生活、人生を送るうえで、環境は間違いない大切であり、それはみなさんも今まで過ごされてきて、理解されていることでしょう。
荘内病院は自分が望めば、多くができます。この一言に尽きます。
また荘内病院は、静かな立地であり、研修に集中できます。また、夜は昔ながらの居酒屋で、お酒を飲んだり…（今は中々難しいですが笑）
医師としての最初の 2 年間、自分が望めば、多くができるこの病院と一緒に働きませんか？まずは見学からどうぞ！

新専門医制度における県内の 研修基幹施設と各研修プログラム

平成30年度から新たな専門医の仕組みによる専門研修がスタートしました。

専門医は、基本領域学会専門医と、より専門性の高いサブスペシャリティ学会専門医の2段階制ですが、山形県内では、現在、19基本領域（内科、皮膚科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、麻酔科、小児科、精神科、整形外科、眼科、泌尿器科、放射線科、救急科、リハビリテーション科、形成外科、病理、臨床検査、総合診療科）のうち、形成外科と臨床検査を除く17領域の専門研修プログラムがあります。形成外科については、令和4年度の設置に向けて、準備をしております。

以下に、山形県内の研修基幹施設と各研修プログラムをまとめてご紹介します。

国立大学法人 山形大学医学部附属病院

〒990-9585 山形市飯田西2-2-2
<http://www.id.yamagata-u.ac.jp/>

- 病院長：佐藤 慎哉
- 病床数：637【一般：601／精神：36】
- 医師数：431
- 診療科目：内、精、循、小、外、整、脳、心、皮、泌、産、婦、眼、耳、放、歯口、麻、形、リ、病、救

●病院の概要

独自の専門医養成プログラム

大学病院は、教育病院であると共に最先端医療技術の発信基地でもあります。卒後臨床研修修了後の専門医取得に必要な高度先進医療の研修は、大学病院が最も得意とするところですが、山形大学では各診療科が専門医に要求される研修内容に対応して緻密に組まれた独自の専門医養成プログラムを有しています。もちろん、専門分野の教育においても大学病院での教育とともに、市中病院での経験が重要なものとも言えます。

また、県内外の主要な教育病院及び山形県と合同で組織する「蔵王協議会」という組織があり、この組織により大学附属病院と関連病院が有機的に結びついた研修が可能で、我が国の医学部で最初に導入した大学院社会人選抜枠を最大限に利用することにより、市中病院に勤務しながら大学院生として専門医取得のための研修や博士号取得のための研究が行える数少ない大学です。



●専門研修プログラム

- 山形大学医学部附属病院内科専門医研修プログラム
- 山形大学医学部附属病院小児科研修医(専攻医)研修プログラム
- 山形大学医学部皮膚科研修プログラム
- 精神科領域専門医研修プログラム
- 山形大学外科専門医研修プログラム
- 山形大学整形外科専門医研修プログラム
- 山形大学産婦人科専門医研修施設群専門医研修プログラム
- 山形大学医学部附属病院眼科専門医研修プログラム
- 山形大学医学部附属病院耳鼻咽喉科専門医研修プログラム
- 山形大学医学部泌尿器科専門医研修プログラム
- 脳神経外科専門医研修 山形大学医学部プログラム
- 放射線科領域モデル専門医研修プログラム
- 山形大学医学部附属病院麻酔科専門医研修プログラム
- 山形県・山形大学医学部病理専門医研修プログラム
- 山形大学医学部附属病院救急科専門医研修プログラム
- 山形県リハビリテーション科専門医研修プログラム
- 山形大学医学部附属病院総合診療専門医研修プログラム
- 山形大学医学部附属病院形成外科専門医研修プログラム

山形県立中央病院

〒990-2292 山形市大字青柳1800番地
http://www.ypch.gr.jp/index.html

- 病院長：武田 弘明
- 病床数：609【一般：607／感染症：2】
- 医師数：181
- 診療科目：内、呼内、血内、糖内、腎内、心内、精、脳内、消内、
循内、感内、腫内、小、新内、外、整、形、脳外、呼外、
心外、消外、乳外、小外、皮、泌、産婦、眼、頭耳、放、
歯口、麻、病理、救、疼痛

●病院の概要

当院は、がん・生活習慣病センターと救命救急センターとを付置した総合医療センターで、一般病棟512床の他、CCU・SCU：6床、ICU：8床等の集中治療部門、総合周産期母子医療センターや緩和ケア病棟等の特色ある施設を合わせもち、全609床となっています。

診療科は34科を有し、各科の診療内容は一次医療から高度な知識・技術・経験を必要とする三次医療まで広い範囲を担っています。エイズ治療拠点病院、基幹災害医療センター、第1種感染症指定病院等多くの機能を担当する他、都道府県がん診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センター等の各種の指定を受けております。また、平成24年11月から運用を開始した山形県ドクターヘリの基地病院に指定されているとともに、平成28年度から、本院の強みを活かした3つの診療センターを導入しており、より高度な医療を要する症例を、数多く経験することが可能となっています。



●専門研修プログラム

- 山形県立中央病院内科専門研修プログラム
- 山形県立中央病院外科専門研修プログラム
- 山形県立中央病院救急科専門研修プログラム
- 山形県立中央病院病理専門研修プログラム

社会福祉法人恩賜財団済生会 山形済生病院

〒990-8545 山形市沖町79-1
http://www.ameria.org/

- 病院長：石井 政次
- 病床数：473【一般：473】
- 医師数：67
- 診療科目：内・神内・呼内・消内・循内・糖内・腎内・血
内・リウ・小・外・乳外・整外・形外・脳外・
呼外・心外・皮・泌・産婦・眼・耳・リハ・
放・麻・精

●病院の概要

山形県唯一の公的医療機関として、済生会設立の本旨である無料低額診療などの福祉医療をはじめ、村山2次医療圏の中核的病院として高度・急性期医療を中心に地域医療を担う他、バングラデシュの病院への医療支援を通じて国際協力にも力を注いでいる。1999年には県内で2番目の病院として日本医療機能評価機構の施設認定を受け、2019年には、3rdG:Ver.2.0の認定を受けた。「患者さん中心の医療の実践」を基本方針として掲げ、「トータルケアの考えに基づいた疾病予防、治療、在宅医療まで継続した医療の提供」、「チーム医療の充実を図り診療機能と患者サービスの向上を目指す」、「地域における医療の質向上のため、他の医療機関と協力し臨床教育の実践を図る」ことを中長期的目標として職員一同研鑽に励んでいる。予防医学では人間ドック、脳ドックはもとより、生活習慣病患者が利用する健康増進センターを付設、がんの早期発見に寄与するPET/CT装置を備えたPET/CTセンターを開設、健診のみならず病病、病診連携に大きな貢献を果たしており、県民医療のレベルアップにつながっているものと考えている。



●専門研修プログラム

- 済生会山形済生病院整形外科専門研修プログラム

医療法人社団松柏会 至誠堂総合病院

〒990-0045 山形市桜町7番44号
http://www.shiseido-hp.jp/

- 病院長：小林 真司
- 病床数：230
【一般：50／回復期リハ：60／障害者：60／地域包括ケア：60】
- 医師数：18（常勤換算）
- 診療科目：内、呼内、消内、循内、糖内、脳神内、外、整、皮、婦、眼、耳、リハ、放、リウ

●病院の概要

当院は、山形市の中心部に位置し明治36年創立、今年で117年を迎える非常に歴史ある病院です。法人内には、3つの診療所、介護老人保健施設（29床）、訪問サービス（看護・リハビリ・介護）の他、サービス付高齢者向け住宅（20戸）等の事業所を併せ持ち、医療から介護、急性期医療から在宅療養支援まで地域に密着した事業を展開しています。その施設群を活用しての地域医療の担い手としての医師養成に努めています。

当院の特徴としては、呼吸器・糖尿病等の慢性疾患の治療と療養指導に特に力を入れ、患者会を組織しています。また近年は、リハビリテーション機能を強化し、在宅への復帰を支援するための人材養成、施設整備を図ってきました。地域の第一線において、基礎的な臨床診断力とともに、保健や介護・福祉とも連携した総合的な医療ニーズに対応できる医師を目指す研修を提供致します。また、当院では、室料差額を徴収せず、無差別・平等の医療を提供しています。医局は各科の垣根が低く、他科の医師に診療に関わることから悩みごとまで、気軽に相談しやすい雰囲気があります。各職種とのコミュニケーションも取りやすく、アットホームな環境です。



●専門研修プログラム

- さくらんぼ総合診療専門研修プログラム

山形県立新庄病院

〒996-0025 新庄市若葉町12-55
http://www.ysh.pref.yamagata.jp/

- 病院長：八戸 茂美
- 病床数：454【一般：452／感染症：2】
- 医師数：46
- 診療科目：内、総診、消内、脳神内、循内、呼内、血内、小、外、乳外、整、形成、脳、皮、泌、産婦、眼、耳、放、麻

●病院の概要

- ・山形県最上2次保健医療圏唯一の中核病院です。
- ・救急告示病院として、地域のほとんどの救急患者が搬送されます。（年間の救急患者は8,100人、うち救急車による搬送が1,950人）
- ・へき地医療拠点病院として、地域の町立病院、村立診療所と連携して地域医療を支えています。
- ・山形大学や東北大学など東北地域の大学医学部との交流を活発に行っています。



●専門研修プログラム

- 山形県立新庄病院総合診療専門医研修プログラム

公立置賜総合病院

〒992-0601 東置賜郡川西町大字西大塚2000番地
<http://www.okitama-hp.or.jp/>

- 病院長：林 雅弘
- 病床数：496【一般：426／救急：20／感染症：4／精神：46】
- 医師数：99
- 診療科目：内、精、神内、消内、循内、小、外、消外、呼外、整、脳外、心外、皮、泌、産婦、眼、耳、リハ、放、歯口、麻、形、救

●病院の概要

当院は、山形県の南3分の1を占める置賜地域の高度医療を担う拠点として、隣接する二市二町（長井市・南陽市・川西町・飯豊町）と山形県を構成団体とする中核病院です。長井市・南陽市・川西町に位置するサテライト医療施設が初期医療や回復期医療を担い、救命救急センター、へき地拠点病院、地域がん診療連携拠点病院等の指定を受ける当院が高度医療を担っております。

総合診療科においては、幅広い疾患に対する初診を中心とした外来診療、専門各科にまたがる問題を持つ患者に対する病棟診療、救急科と連携した初期救急とそれに続く入院管理などを提供しています。内科においては、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、代謝内分泌科、腎臓内科を持ち、地域への専門医療を提供しています。小児科においては、乳幼児健診、予防接種、幅広い外来診療、病棟診療を提供しています。救急科においては、重度外傷への救急医療からER救急まで幅広い救急医療を提供しています。



●専門研修プログラム

- 公立置賜総合病院総合診療専門研修プログラム

日本海総合病院

〒998-8501 酒田市あきほ町30番地
<http://www.nihonkai-hos.jp/hospital/>

- 病院長：島貫 隆夫
- 病床数：630【一般：626／感染症：4】
- 医師数：160
- 診療科目：内、循内、消内、内視鏡内、精、神内、小、緩和ケア内、外、乳外、小外、整、形、リハ、脳外、心外、呼外、皮、泌、産婦、眼、耳、放、麻、救、歯口、病理

●病院の概要

平成20年4月、山形県立日本海病院と酒田市立酒田病院を統合再編し、急性期医療を担う「日本海総合病院」としてスタートした。平成23年4月屋上ヘリポートを備えた救命救急センターの運用を開始、平成24年6月庄内地域初のPET/CTを導入した。また、平成25年8月にハイブリッド手術室の稼動を開始し、平成27年2月にはDMATカーを配備した。さらに、令和元年5月には庄内地域で初めて手術支援ロボット「ダヴィンチ」の運用を開始しており、地域医療の向上を図っている。



●専門研修プログラム

- 日本海総合病院内科専門研修プログラム
- 日本海総合病院外科専門研修プログラム
- 日本海総合病院産婦人科研修プログラム

鶴岡協立病院

〒997-0816 鶴岡市文園町9-34
<http://www.turuoka-kyoritu-hp.or.jp/hospital/>

- 病院長：堀内 隆三
- 病床数：199
- 医師数：14
- 診療科目：内、小、外、整、心外、皮、泌、産婦、リハ、透析、病理、歯



●病院の概要

鶴岡協立病院はベッド数199床、1日約200名の患者様が来院する一般病院として、急性期及び慢性維持期の疾病の治療を担っています。また、介護や保健予防活動、医療制度や社会保障の改善にも力を入れている病院です。

医療分野のみにとどまらず、医療生活協同組合のネットワークを活用して、介護分野でのデイケアや訪問看護、保健予防では健診・人間ドック、さらにはメディカルフィットネスでの健康づくりなど総合的なサービスを提供し、皆様の命と健康を守っていききたいと考えております。

また、安心して医療にかかりたいという住民要求の実現と、地域住民の皆様や開業医の皆様、そしてより多くの医療従事者の力をお借りしながら「いつまでも住み続けられる町」の実現を目指しています。

●専門研修プログラム

- 鶴岡協立病院総合診療専門研修プログラム

山形県立こころの医療センター

〒997-0019 鶴岡市茅原字草見鶴51-1
<http://cocorohosp-yamagata.jp/>

- 病院長：神田 秀人
- 病床数：213
- 医師数：11
- 診療科目：精神科、心療内科、児童・思春期精神科



●病院の概要

平成27年3月山形県立鶴岡病院から「山形県立こころの医療センター」にリニューアルオープンしました。

365日24時間体制で救急事例を受け入れるスーパー救急病棟、院内学級を併設し医療と教育の融合を目指した児童思春期病棟、重大犯罪を犯した精神障がい者を多職種チームで治療する医療観察法病棟、個室中心でアメニティーの高いストレス病棟といった専門性の高い入院病棟と共に、デイケアや訪問看護チームが活発に活動しています。

医局は若いドクターが多く、自由でとても良い雰囲気です。また、新しいドクターが続々と増えています。

我々と“こころひとつに”未来の精神医療を切り拓く、気概のある若いチカラを募集しています！

●専門研修プログラム

- 山形県立こころの医療センター専門研修プログラム

山形県専門研修基本 19 領域 基幹施設一覧 (令和 3 年度)

地域		村山				最上	置賜	庄内		
基本診療領域	基幹施設	山形大学医学部附属病院 P.28	山形県立中央病院 P.45	済生会山形済生病院 P.49	至誠堂総合病院 P.50	山形県立新庄病院 P.51	公立置賜総合病院 P.52	日本海総合病院 P.53	鶴岡協立病院 P.56	県立こころの医療センター P.57
	プログラム数	31	18	4	1	1	1	3	1	1
内科	3	○ P.28	○ P.46					○ P.54		
小児科	1	○ P.29								
皮膚科	1	○ P.30								
精神科	2	○ P.31								○ P.58
外科	3	○ P.32	○ P.47					○ P.56		
整形外科	2	○ P.33		○ P.50						
産婦人科	2	○ P.34						○ P.55		
眼科	1	○ P.35								
耳鼻咽喉科	1	○ P.36								
泌尿器科	1	○ P.37								
脳神経外科	1	○ P.38								
放射線科	1	○ P.39								
麻酔科	1	○ P.40								
病理	2	○ P.41	○ P.48							
臨床検査	0									
救急科	2	○ P.42	○ P.49							
形成外科	1	○ P.43								
リハビリテーション科	1	○ P.44								
総合診療	5	○ P.45			○ P.51	○ P.52	○ P.53		○ P.57	

山形大学医学部附属病院内科専門医研修プログラム

●プログラムの特色

山形大学医学部附属病院を基幹施設として、山形県医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで地域の実情に合わせた実践的な医療も行うように訓練されます。内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科の Generality を獲得する場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して、複数のコース別に研修をおこなって内科専門医の育成を行います。卒後6年目に内科専門医取得となります。疾患の幅の広さ、指導医の層の厚さ、融通の利くスケジュールが特徴です。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	鶴岡市立荘内病院	特別連携	篠田総合病院
連携	山形県立中央病院	連携	済生会山形済生病院	特別連携	小国町立病院
連携	日本海総合病院	連携	三友堂病院	特別連携	最上町立病院
連携	公立置賜総合病院	連携	至誠堂総合病院	特別連携	朝日町立病院
連携	山形県立新庄病院	連携	東北中央病院	特別連携	余目病院
連携	山形県立河北病院	連携	国立山形病院	特別連携	みゆき会病院
連携	山形市立病院済生館	連携	新庄徳洲会病院	特別連携	鶴岡協立病院
連携	米沢市立病院	連携	石巻赤十字病院	特別連携	公立高畠病院
連携	北村山公立病院	連携	寒河江市立病院	特別連携	国立米沢病院 他

●専門研修ローテーションモデル ※第1内科モデルコース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	初期研修											
2年目	初期研修											
3年目	基幹病院（第1内科）						基幹病院（第2内科）			基幹病院（第3内科）		
4年目	基幹病院（第1内科）						連携施設					
5年目	連携施設											

●取得可能なサブスペシャリティ

消化器病専門医、循環器専門医、呼吸器専門医、血液専門医、内分泌代謝科専門医、糖尿病専門医、腎臓専門医、肝臓専門医、神経内科専門医、リウマチ専門医、消化器内視鏡専門医、がん薬物療法専門医（各学会・日本専門医機構認定）ほか

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：・健康診断年1回実施
・入居可能住宅有り
・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：24名
- 応募期間：令和3年度9月以降を予定
- 選考方法：面接による

●問合せ先

- 担当者：各科内科専攻医担当（1内 井上 2内 芳賀 3内 小山 腫瘍内科 福井）
- TEL：023-628-5017 / FAX：023-628-5019
- E-mail：isokoho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp / HP：http://www.id.yamagata-u.ac.jp/kenshu/index.html

山形大学医学部附属病院小児科研修医(専攻医)プログラム

●プログラムの特色

山形県内全域に多彩な研修病院を擁しており、1次医療から難治疾患の高度医療まで総合的に研修可能。基本的診療技能、救急対応、新生児医療、各臓器疾患対応は勿論、小児保健、ワクチンを中心とした予防医療、健康診査法まで、育児・健康支援者、総合医療者となるべく、研修を進めることができる。

またこの研修期間中に積極的に对外発表を行うことで、臨床研究、疫学研究、臨床につながる基礎研究を考えていく契機とすることを意図している。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	山形市立病院済生館	連携	山形県立中央病院
連携	日本海総合病院	連携	米沢市立病院	連携	公立置賜総合病院
連携	山形県立新庄病院	連携	済生会山形済生病院	関連施設	山形県立 こども医療療育センター

●専門研修ローテーションモデル（基本3年のプログラム）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年目	連携病院（一般小児）											
2 年目	基幹病院（腎・内分泌）				基幹病院（血液）				基幹病院（神経）			
3 年目	基幹病院（循環器）				基幹病院（希望）		連携病院（新生児）					

●取得可能なサブスペシャリティ

血液専門医（日本血液学会・日本専門医機構認定）、内分泌代謝科専門医（日本内分泌学会・日本専門医機構認定）、腎臓専門医（日本腎臓学会・日本専門医機構認定）のほか、周産期新生児専門医（日本周産期・新生児医学会認定）、小児循環器専門医（日本小児循環器学会認定）、小児神経専門医（日本小児神経学会認定）、小児血液・がん専門医（日本小児血液・がん学会認定）

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：
 - ・健康診断年1回実施
 - ・入居可能住宅有り
 - ・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
 - ・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：7人
- 応募期間：例年10月に1次募集を開始、締め切りは11月
- 選考方法：書類選考・面接

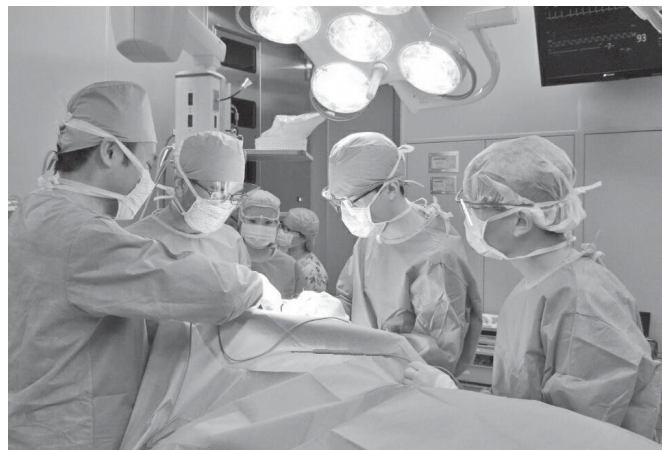
●問合せ先

- 担当者：佐々木綾子
- TEL：023-628-5329 / FAX：023-628-5332
- E-mail：shoni@med.id.yamagata-u.ac.jp / HP：http://minfo2.id.yamagata-u.ac.jp/Ped/jinzai.html

山形大学医学部皮膚科研修プログラム

●プログラムの特色

皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。当院は山形県の皮膚がん診療の中心となっている他、難治性皮膚疾患、稀な疾患などの診療もっており、より専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行うことができる。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培うことができる。連携病院では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、特に山形市立病院済生館では、皮膚アレルギー疾患に対する検査、治療方法を習得することができる。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	山形県立中央病院	連携	山形県立新庄病院
連携	山形市立病院済生館				

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹病院（山形大学医学部附属病院）での研修											
2年目	基幹病院（山形大学医学部附属病院）での研修											
3年目	連携病院（県立中央病院、県立新庄病院、山形市立病院済生館）での研修											
4年目	基幹病院（山形大学医学部附属病院）での研修											
5年目	基幹病院（山形大学医学部附属病院）での研修											

●取得可能なサブスペシャリティ

アレルギー専門医（日本アレルギー学会・日本専門医機構認定）のほか、皮膚悪性腫瘍指導専門医（日本皮膚科学会認定）

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：
 - ・健康診断年1回実施
 - ・入居可能住宅有り
 - ・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
 - ・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：5人
- 応募期間：2021年度9月1日～（予定）
- 選考方法：書類審査及び面接

●問合せ先

- 担当者：紺野隆之
- TEL：023-628-5361 / FAX：023-628-5364
- E-mail：t-konno@med.id.yamagata-u.ac.jp / HP：http://minfo2.id.yamagata-u.ac.jp/hifuka/#

精神科領域専門医研修プログラム

●プログラムの特色

本プログラムでは児童思春期から高齢者までの様々な疾患に対して、高い診断能力を身につけ、精神療法を柱とする心理社会的療法と薬物療法などの生物学的治療をバランスよく行うことができる医師を養成することを目的としている。総合病院では身体合併症を有する症例、リエゾン・コンサルテーション精神医学、修正型電気けいれん療法、認知症の脳画像診断法などを、精神科病院では、精神科救急、司法精神医学、リワークプログラムによるうつ病の復職支援、SST などの精神科リハビリテーションを経験することができる。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	山形県立 こころの医療センター	連携	日本海総合病院
連携	斗南会秋野病院	連携	二本松会山形さくら町病院	連携	二本松会かみのやま病院
連携	公立置賜総合病院				

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹病院である山形大学医学部附属病院で、精神科医としての基本的な知識、技術を身に付ける。											
2年目	精神科病院で精神科救急、精神科リハビリテーション等を経験する。											
3年目	総合病院でリエゾン・コンサルテーション精神医学、修正型電気けいれん療法等を経験する。											
4年目	可能な限り専攻医の希望に応じて研修病院を決める。											
5年目	可能な限り専攻医の希望に応じて研修病院を決める。											

●取得可能なサブスペシャリティ

日本臨床精神神経薬理学専門医（日本臨床精神神経薬理学会認定）、日本認知症学会専門医（日本認知症学会認定）、日本老年精神医学会専門医（日本老年精神医学会認定）、子どものこころ専門医（子どものこころ専門医機構認定）

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：
 - ・健康診断年1回実施
 - ・入居可能住宅有り
 - ・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
 - ・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：10名
- 応募期間：2021年度9月1日～（予定）
- 選考方法：履歴書記載内容と面接に基づき審査

●問合せ先

- 担当者：簡野宗明
- TEL：023-628-5322 / FAX：023-628-5325
- E-mail：makanno@med.id.yamagata-u.ac.jp / HP：<http://www.id.yamagata-u.ac.jp/NP/neo/>

山形大学外科専門研修プログラム

●プログラムの特色

- 1. 基本的診療能力、専門的診療能力、高い倫理性を備え、プロフェッショナルとしての誇り持ち、患者への責任を果たせる外科専門医の育成
- 2. 初期臨床研修から連動したフレキシブルなプログラム編成が可能
- 3. 大学院コースの設定が可能



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	北村山公立病院	連携	公立置賜総合病院
連携	三友堂病院	連携	篠田総合病院	連携	白鷹町立病院
連携	仙台市立病院	連携	立川総合病院	連携	鶴岡市立荘内病院
連携	天童市民病院	連携	東北中央病院	連携	新潟大学医歯学総合病院
連携	日本海総合病院	連携	山形県立河北病院	連携	山形県立新庄病院
連携	山形県立中央病院	連携	山形済生病院	連携	山形市立病院済生館
連携	米沢市立病院	連携	東都春日部病院		

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	山形大学医学部附属病院											
2年目	連携施設 A											
3年目	連携施設 B			連携施設 C			山形大学医学部附属病院					

●取得可能なサブスペシャリティ

消化器外科専門医（日本消化器外科学会・日本専門医機構認定）、呼吸器外科専門医（日本呼吸器外科学会・日本専門医機構認定）、
心臓血管外科専門医（日本血管外科学会・日本専門医機構認定）、小児外科専門医（日本小児外科学会・日本専門医機構認定）、
乳腺専門医（日本乳癌学会・日本専門医機構認定）、内分泌外科専門医（日本内分泌外科学会・日本専門医機構認定）
消化器病専門医（日本消化器病学会・日本専門医機構認定）、食道外科専門医（日本食道学会認定）、肝胆脾外科高度技能専門医（日本肝胆脾外科学会認定）、
内視鏡外科技術認定（日本内視鏡外科学会認定）、ロボット支援手術プロクター認定（日本内視鏡外科学会認定）、臨床栄養認定医（日本臨床代謝栄養学会認定）ほか

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する
規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：・健康診断年1回実施
・入居可能住宅有り
・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：11名
- 応募方法：プログラム統括責任者（山形大学医学部附属病院 第一外科 元井 冬彦）宛に『山形大学外科専門研修プログラム応募申請書』（山形大学医学部附属病院卒後臨床研修センター HP）および履歴書を提出してください
- 応募期間：5月1日～10月31日
- 選考方法：書類選考および面接

●問合せ先

- 担当者：元井 冬彦（山形大学医学部附属病院 第一外科）
- TEL：023-628-5336 / FAX：023-628-5339 ●E-mail：fmotoi@med.id.yamagata-u.ac.jp
- 山形大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター（<http://www.id.yamagata-u.ac.jp/kenshu/>）

山形大学整形外科専門研修プログラム

●プログラムの特色

あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができる。

関節外科、手外科、脊椎外科、スポーツ医学、救急医療、リハビリテーションなどそれぞれに特色をもった山形県、宮城県、福島県に17の施設、病院があり、教育経験豊かな指導医のもと、機能的なローテーションを通して、プライマリケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができる。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	済生会山形済生病院	連携	日本海総合病院
連携	公立置賜総合病院	連携	山形県立中央病院	連携	泉整形外科病院
連携	吉岡病院	連携	三友堂病院	連携	山形県立 こども医療療育センター
連携	山形県立河北病院	連携	山形県立新庄病院	連携	みゆき会病院
連携	寒河江市立病院	連携	栢記念病院	連携	町立真室川病院
連携	至誠堂総合病院	連携	公立高畠病院	連携	北村山公立病院
連携	日本海酒田 リハビリテーション病院	連携	米沢市立病院		

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	山形大学医学部附属病院											
2年目	山形県立中央病院、日本海総合病院、公立置賜総合病院、済生会山形済生病院											
3年目	上記を含む他の連携研修施設病院											
4年目												

●取得可能なサブスペシャリティ

リウマチ専門医（日本リウマチ学会・日本専門医機構認定）のほか、脊椎脊髄外科専門医（日本脊椎脊髄病学会認定）、手外科専門医（日本手外科学会認定）、がん治療認定医（日本がん治療認定医機構認定）、骨・軟部腫瘍医（日本整形外科学会認定）、日整会認定リウマチ医（日本整形外科学会認定）、日整会認定スポーツ医（日本整形外科学会認定）、日整会認定脊椎脊髄病医（日本整形外科学会認定）、日整会脊椎内視鏡下手術・技術認定医（日本整形外科学会認定）、日整会認定運動器リハビリテーション医（日本整形外科学会認定）

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：・健康診断年1回実施
・入居可能住宅有り
・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：8名
- 応募期間：2021年度9月1日～（予定）
- 選考方法：書類選考及び面接

●問合せ先

- 担当者：菅原正登
- TEL：023-628-5355 / FAX：023-628-5357
- E-mail：seikei@mws.id.yamagata-u.ac.jp / HP：http://www.yu-orthop.jp/

山形大学産婦人科専門研修施設群専門研修プログラム

●プログラムの特色

産婦人科専門医の資格は医学部卒業後5年、産婦人科研修開始3年で取得できます。専攻医は産婦人科専門医取得を目標に研修を行っていきます。大学附属病院及び関連病院において連携を取りながら、婦人科腫瘍・周産期・生殖内分泌・女性医学の四つの分野を柱として経験を積みます。分娩・手術共に十分な症例があり、各サブスペシャリティの研修（婦人科疾患の診断及び手術、胎児診断や合併症妊娠を含む周産期管理、高度な生殖補助医療を含めた不妊治療、思春期から老年期までの女性の健康管理まで）が、幅広くかつ満遍なくできるようにプログラムを組んでいます。また、若手医師同士の知識の共有と向上のため、年一回産婦人科若手の会を、また内視鏡手術に関する研修会として、年に3～4回山形県産婦人科内視鏡の会を開催し、技術の研鑽を図っています。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	山形県立中央病院	連携	山形市立病院済生館
連携	社会福祉法人 恩賜財団済生会 山形済生病院	連携	置賜広域病院組合 公立置賜総合病院	連携	米沢市立病院
連携	日本赤十字社 仙台赤十字病院	連携	山形県立新庄病院	連携	地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	大学附属病院：産科婦人科基本手技の習得						連携施設A：一般婦人科疾患診療、分娩管理					
2年目	連携施設A：一般婦人科疾患診療、分娩管理						連携施設B：一般婦人科疾患診療、分娩管理					
3年目	連携施設B：一般婦人科疾患診療、分娩管理						大学附属病院：浸潤癌、胎児診断、合併症妊娠周産期管理、 生殖内分泌治療の習得					
4年目	産婦人科専門医認定試験を受験し、専門医を取得。 希望により大学院入学。											

●取得可能なサブスペシャリティ

周産期専門医（母胎・胎児）（日本周産期・新生児医学会認定）、婦人科腫瘍専門医（日本婦人科腫瘍学会認定）、生殖医療専門医（日本生殖医学会認定）、女性ヘルスケア専門医（日本女性医学学会認定）、内視鏡技術認定医（日本内視鏡外科学会認定）、臨床遺伝専門医（日本人類遺伝学会ほか認定）、細胞診専門医（日本臨床細胞学会認定）、腹腔鏡・子宮鏡技術認定医（日本産科婦人科内視鏡学会認定）、超音波専門医（日本超音波医学会認定）

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）
- 給与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：・健康診断年1回実施
・入居可能住宅有り
・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：8名
- 応募期間：2021年度9月1日～（予定）
- 選考方法：採用試験および面接

●問合せ先

- 担当者：太田 剛
- TEL：023-628-5393（医局直通）／FAX：023-628-5396
- E-mail：oota-t@med.id.yamagata-u.ac.jp／HP：http://yamagata-obgy.com/（講座HP）

山形大学医学部附属病院眼科専門研修プログラム

●プログラムの特色

- 眼科疾患は小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、内科的治療だけでなく外科的治療も必要とし、幅広い医療技能の習得が求められています。当プログラムでは、以下の眼科医の育成を目指します。
1. 一般眼科学に精通し、専門性の高い眼科治療にも対応できる眼科医。
 2. 一般診療所、総合病院の眼科医としての技術を身につけ、地域で活躍できる眼科医。
 3. 学会発表や論文作成を通じて科学的に思考できる眼科医。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	山形県立中央病院	連携	公立置賜総合病院
連携	山形県立新庄病院	連携	公立学校共済組合 東北中央病院		

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹施設で眼科検査、診察の基礎、手術を上級医に学ぶ						基幹施設で主治医として、上級医と連携して診療にあたる					
2年目	一般研修施設で研修し、外来、手術を多く経験することで一般眼科医としての能力を向上させる											
3年目	一般研修施設で研修し、基幹施設の専門外来、研究へ参加する						基幹施設でサブスペシャリティを学び、大学院への入学も検討					
4年目	基幹施設でサブスペシャリティ診療能力の向上を図り、研究にも積極的に参加する											
5年目	専門医認定試験に向けて研修、受験			専門外来で責任をもって診療にあたり、その後のキャリア形成へ向けて進路を検討								

●取得可能なサブスペシャリティ

眼科専門医（基本領域・日本眼科学会認定）

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：
 - ・健康診断年1回実施
 - ・入居可能住宅有り
 - ・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
 - ・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：年間4名程度
- 応募期間：随時
- 選考方法：面談

●問合せ先

- 担当者：西塚弘一
- TEL：023-628-5374 / FAX：023-628-5376
- E-mail：mlc12186@nifty.com / HP：http://www.id.yamagata-u.ac.jp/Opt/

山形大学医学部附属病院耳鼻咽喉科研修プログラム

●プログラムの特色

耳鼻咽喉科は「生きる」を支え、そして「命と機能」を守る診療科です。感覚器のエキスパートとして、コミュニケーション機能のエキスパートとして、そして摂食・嚥下のエキスパートとして人の生涯に寄り添います。取り扱う範囲や分野、疾患も多岐にわたり、外科的な治療も内科的な診療もできるのが大きな魅力であり、それに応じた幅広い高度な臨床能力が求められています。山形大学耳鼻咽喉科では、「オリジナルからスタンダードへ」「地域に根ざし世界のセンターへ」をモットーに臨床・研究・教育に励んでおります。当プログラムは、今後の医学の進歩に対応していくために必要な基礎的な知識・医療技術を得るだけでなく、広く世界に視野を向けた専門医を育成することを目的としています。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	山形県立中央病院	連携	山形市立病院済生館
連携	山形県立新庄病院	連携	日本海総合病院	連携	公立置賜総合病院
連携	埼玉県立がんセンター	連携	国際医療福祉大学 東京ボイスセンター	連携	米沢市立病院
連携	東北中央病院	連携	九州大学病院		

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	山形大学医学部附属病院											
2年目	山形県立中央病院、山形市立病院済生館、山形県立新庄病院、日本海総合病院、公立置賜総合病院のいずれかで 6～12か月単位の研修											
3年目												
4年目	基本的には山形大学医学部附属病院において研修をおこなうが、研修目標の進捗状況を考慮し、3～6か月間の 県外の関連研修施設での研修、3か月以内の海外、地域医療の研修の選択を可能とする											

●取得可能なサブスペシャリティ

アレルギー専門医（日本アレルギー学会・日本専門医機構認定）のほか、気管食道科専門医（日本気管食道科学会認定）、
頭頸部がん専門医（日本頭頸部外科学会認定）、耳科手術指導医（日本耳科学会認定）、鼻科手術指導医（日本鼻科学会認定）

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する
規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：・健康診断年1回実施
・入居可能住宅有り
・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了
見込みの医師
- 募集定員：5名
- 応募期間：2021年度10月～12月
- 選考方法：書類審査および面接

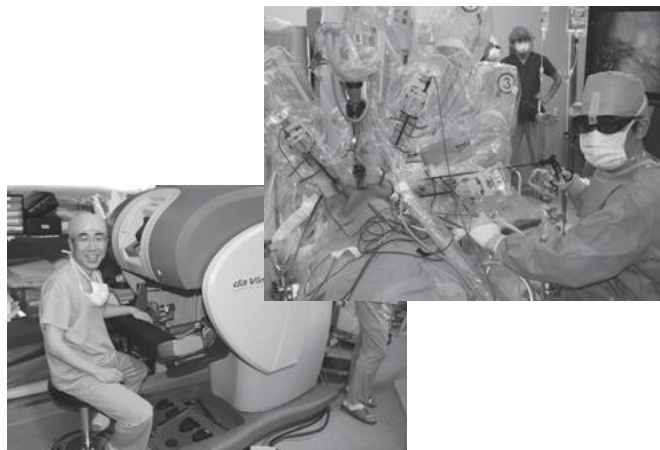
●問合せ先

- 〒990-9585 山形市飯田西2-2-2 山形大学医学部 耳鼻咽喉・頭頸部外科
- 担当者：伊藤 吏（医局長）、海藤由比（医局秘書） ●TEL：023-628-5380 / FAX：023-628-5382
- E-mail：jibika@mws.id.yamagata-u.ac.jp / HP：http://www.yamagata-u.umin.jp/ent/

山形大学医学部泌尿器科専門研修プログラム

●プログラムの特色

- ・教育施設であり、最先端医療技術の発信基地である大学病院での高度な医療の研修を行うことができる
- ・「蔵王協議会」により関連病院と有機的に結びついた研修を行うことができる
- ・勤務しながら大学院生として専門医取得のための研修や博士号取得のための研究を行うことができる（大学院進学コース）
- ・個々の希望に合わせたより高い臨床実施能力の獲得のための研修を行うことができる（臨床修練コース）
- ・奨学金取得者の地域医療の義務年限を考慮した研修を行うことができる（地域医療コース）



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	山形県立中央病院	連携	山形県立新庄病院
連携	山形市立病院済生館	連携	日本海総合病院	連携	公立置賜総合病院
連携	鶴岡市立荘内病院	連携	山形済生病院	連携	米沢市立病院
連携	みやぎ県南中核病院	連携	山形県立河北病院	連携	公立高島病院

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	山形大学医学部附属病院（基幹施設）での研修（基本的知識及び技能の習得）											
2年目	連携病院（診療拠点病院）での研修（基本的知識および技能の習得）											
3年目	連携病院での研修（病院の特色に合わせた専門的疾患に対する理解。地域医療の現状に関して理解を深める）											
4年目	山形大学医学部附属病院での研修（より高度な専門知識や技能の取得。学会発表、論文発表を通じた科学的探究心の涵養）											

●取得可能なサブスペシャリティ

泌尿器科専門医（基本領域・日本泌尿器科学会認定）

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：
 - ・健康診断年1回実施
 - ・入居可能住宅有り
 - ・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
 - ・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：6名
- 応募期間：日本専門医機構ホームページをご参照ください
- 選考方法：面接

●問合せ先

- 担当者：土谷順彦
- TEL：023-628-5368 / FAX：023-628-5370
- E-mail：ntsuchiya@med.id.yamagata-u.ac.jp / HP：http://www.id.yamagata-u.ac.jp/Urology/

脳神経外科専門研修 山形大学医学部プログラム

●プログラムの特色

山形県内の脳神経外科疾患は腫瘍・血管障害・小児は山形大学、急性期脳卒中、頭部外傷は主に連携施設に集約化され治療されています。本プログラムは脳神経外科疾患をまんべんなく、かつ効率よく学ぶために、研修施設をローテートする循環型の研修プログラムを採用していることが大きな特徴です。専門医を取得するための十分な症例数を経験できるのはもちろんのことですが、最新の機器を駆使した最先端の医療を学ぶことができます。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	山形市立病院済生館	関連	日本海総合病院
関連	山形県立新庄病院	連携	公立置賜総合病院	連携	鶴岡市立荘内病院
連携	山形済生病院	関連	東北大学病院	関連	北里大学病院
関連	三友堂病院	関連	篠田総合病院		

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	山形大学医学部附属病院											
2年目	鶴岡市立荘内病院						山形市立病院済生館					
3年目	山形市立病院済生館						日本海総合病院					
4年目	山形県立新庄病院						東北大学病院					
5年目	山形大学医学部附属病院											

●取得可能なサブスペシャリティ

脳血管内治療専門医（日本脳神経血管内治療学会認定）、脳卒中専門医（日本脳卒中学会認定）

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：
 - ・健康診断年1回実施
 - ・入居可能住宅有り
 - ・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
 - ・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：4名
- 応募期間：2021年度10月頃（予定）
- 選考方法：面接等

●問合せ先

- 担当者：松田憲一郎
- TEL：023-628-5349 / FAX：023-628-5351
- E-mail：matsuk@med.id.yamagata-u.ac.jp / HP：<http://www.id.yamagata-u.ac.jp/NeuroSurge/NeuroS-j.html>

放射線科領域モデル専門研修プログラム

●プログラムの特色

放射線診断専門医または放射線治療専門医の育成の前段階として、放射線診断専門医および放射線治療専門医のいずれにも求められる放射線科全般に及ぶ知識と経験を一定レベル以上に有する「放射線科専門医」を育成することを目的としています。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	山形県立中央病院	連携	山形県立新庄病院
連携	公立置賜総合病院	連携	鶴岡市立荘内病院	連携	東北中央病院
連携	日本海総合病院	連携	米沢市立病院	連携	山形市立病院済生館
連携	山形済生病院	連携	脳神経疾患研究所附属 南東北病院	連携	放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター病院

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	放射線診断（大学病院CT、MRI、核医学、PET、IVR）						放射線治療（大学病院）					
2年目	連携施設で放射線診断・治療の研修											
3年目	山形大学医学部附属病院での放射線診断・治療の研修											

●取得可能なサブスペシャリティ

放射線診断専門医、放射線治療専門医（日本医学放射線学会・日本専門医機構認定）のほか、核医学専門医（日本核医学会認定）、IVR専門医（日本IVR学会認定）

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：
 - ・健康診断年1回実施
 - ・入居可能住宅有り
 - ・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
 - ・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：10名
- 応募期間：2021年度9月頃（予定）
- 選考方法：書類審査および面接

●問合せ先

- 担当者：豊口 裕樹
- TEL：023-628-5386 / FAX：023-628-5389 ●E-mail：radioyamagata@mws.id.yamagata-u.ac.jp
- 山形大学医学部放射線医学講座 HP：http://main.radonco-yamagata-u.jp/

山形大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム「オールマイティ山形」

●プログラムの特色

- ・麻酔科専門研修のみならず、サブスペシャリティ領域の研修や、学位取得などの学術活動への支援を行い、付加価値の高い麻酔科専門医の育成を目指しています。
- ・幅広い知識・技能とともに優れたコミュニケーション能力を有し、リーダーシップがとれる人材の育成を目指しています。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	山形県立中央病院	連携	山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院
連携	山形県立新庄病院	連携	山形県立河北病院	連携	鶴岡市立荘内病院
連携	山形市立病院済生館	連携	東北中央病院	連携	済生会山形済生病院
連携	三友堂病院	連携	宮城県立こども病院	連携	米沢市立病院
連携	公立置賜総合病院	連携	東京医科大学病院	連携	北海道大学病院
連携	札幌医科大学附属病院				

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	手術麻酔に必要な手技と知識を修得し、上級医の指導のもと、リスクのない症例の定時手術の周術期管理を行うことができる。											
2年目	上級医の指導のもと、全身状態の悪い症例や緊急手術症例の周術期管理を行うことができる。											
3年目	上級医の指導のもと、心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術など、特殊症例の周術期管理を行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療など関連領域の知識・技能を修得する。											
4年目	3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を行うことができる。難易度の高い症例、緊急症例などは上級医の指導を受けるが、リスクのない症例は単独で周術期管理が行える。											

●取得可能なサブスペシャリティ

集中治療専門医（日本集中治療医学会認定）、ペインクリニック専門医（日本ペインクリニック学会認定）、緩和医療専門医（日本緩和医療学会認定）、日本心臓血管麻酔専門医（日本心臓血管麻酔学会認定）、呼吸療法専門医（日本呼吸療法医学会認定）

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：・健康診断年1回実施
・入居可能住宅有り
・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：5名
- 応募期間：2021.10.1より
- 選考方法：書類審査、面接

●問合せ先

- 担当者：成澤あゆ香
- TEL：(023)628-5400/FAX：(023)628-5402
- E-mail：masuikayamagata@gmail.com/ HP：http://www.anesth-yamagata-u.com/

山形県・山形大学医学部病理専門研修プログラム

●プログラムの特色

- ①山形県内の主要な病院が全て参加し、県内病理医の総力を結集したプログラムです。
- ②病理医として成長していくための環境を整備しています。病理専門医になる為の豊富な症例（剖検を含む）、領域に精通した指導医、多くの診療科との臨床病理カンファレンスを整えています。また、テレパソロジーの活用と学生表彰受賞者輩出の実績を元に病理学会総会などへの積極的な参加と論文執筆を推進します。
- ③当院は「がんゲノム医療拠点病院」に認定されており、エキスパートパネルと呼ばれる専門家会議に参加可能です。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	日本海総合病院	連携	鶴岡協立病院
連携	山形県立河北病院	連携	山形市立病院済生館	連携	公立置賜総合病院
連携	山形県立中央病院	連携	鶴岡市立荘内病院	連携	山形県立新庄病院
連携	済生会山形済生病院	連携	米沢市立病院	連携	三友堂病院
連携	北村山公立病院				

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	初期研修：山形大学医学部附属病院および関連病院											
2年目	初期研修：山形大学医学部附属病院および関連病院											
3年目	後期研修：基幹施設＋連携施設2群・3群（週1日）											
4年目	後期研修：山形県立中央病院〔大学院進学の場合には＋基幹施設（週1～2日）〕											
5年目	後期研修：基幹施設＋連携施設2群・3群（週1日）											

●取得可能なサブスペシャリティ

細胞診専門医（日本臨床細胞学会認定）

分子病理専門医（日本病理学会認定）

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：
 - ・健康診断年1回実施
 - ・入居可能住宅有り
 - ・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
 - ・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：2名
- 応募期間：初期研修の後半（2021年10月頃～）
- 選考方法：書類審査と面接など

●問合せ先

- 担当者：大江 倫太郎
- TEL：023-628-5238/FAX：023-628-5240
- E-mail：r-ooe@med.id.yamagata-u.ac.jp

山形大学医学部附属病院 救急科専門研修プログラム

●プログラムの特色

重症度に応じて迅速かつ安全に急性期疾患の診断治療が進められる標準的救急医をめざし、急性期診療はもちろんのこと、病院前から地域医療連携並びに災害時救援活動にも関与し研鑽を積んでいくプログラムです。山形県内のすべての救命救急センター・地域中核病院と連携しているだけでなく、先進的な救命医療を学べる山形県外の救命救急センターとも多く連携しており、専攻医のニーズに応じた研修を組むことが可能です。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	山形県立中央病院	連携	公立置賜総合病院
連携	日本海総合病院	関連	山形市立病院済生館	関連	山形県立新庄病院
関連	北村山公立病院	関連	米沢市立病院	関連	鶴岡市立荘内病院
連携	東北大学病院	連携	山口大学医学部附属病院	連携	岐阜大学医学部附属病院
連携	会津中央病院	連携	福山市民病院	連携	市立札幌病院

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹施設（12ヶ月以上：6ヶ月×2、2・3年目も可）											
2年目	連携施設、関連施設（1施設3ヶ月または6ヶ月を自由に組み合わせて合計24ヶ月以内）											
3年目												
4年目	専門医試験											

●取得可能なサブスペシャリティ

集中治療専門医（日本集中治療医学会認定）、熱傷専門医（日本熱傷学会認定）、外傷専門医（日本外傷学会認定）、
麻酔科専門医（基本領域・日本麻酔科学会認定）、呼吸療法専門医（日本呼吸療法医学会認定）ほか

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：
 - 健康診断年1回実施
 - 入居可能住宅有り
 - 文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
 - 労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：4名（12名／3年）
- 応募期間：日本専門医機構ホームページをご参照ください
- 選考方法：面接（応募者多数の場合は試験有り）

●問合せ先

- 担当者：中根 正樹
- TEL：023（628）5422／FAX：023（628）5423
- E-mail：qqc@mws.id.yamagata-u.ac.jp / HP：http://www.id.yamagata-u.ac.jp/QQ-IGAKU/QQ/

山形大学形成外科研修プログラム（令和3年度プログラム新規申請中）

●プログラムの特色

山形大学は大学病院でありながら地域の中核病院としての役割を担っているため、全ての疾患群について学ぶことができます。中でも、先天異常、悪性腫瘍切除後の即時再建、熱傷の急性期治療および瘢痕・瘢痕拘縮に対する治療、レーザー治療を多く学ぶことができます。双方で研修することによりそれぞれの特徴を生かした症例や技能を広く学ぶことができます。また、栃木県の獨協医科大学病院とは基幹施設でありながら、双方の合意のもと、山形大学形成外科の連携研修施設としても登録がなされています。こちらは北関東最大規模の特定機能病院としてドクターヘリも導入して臨床の最前線を担っており、首都圏の大学病院とは違った総合的な形成外科治療を習得できる大学病院です。小耳症・外耳道閉鎖に対する形態と機能の再建や、顔面神経麻痺に対する総合的な形成外科治療、再生医療を視野に入れた抗加齢外科を目指す美容外科治療など、形成外科の中でも専門性の高い分野について学ぶこともできます。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	日本海総合病院	連携	公立置賜総合病院
連携	獨協医科大学病院	連携		連携	

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	山形大学医学部附属病院											
2年次	公立置賜総合病院											
3年次	日本海総合病院											
4年次	獨協医科大学病院											

●取得可能なサブスペシャリティ

形成外科領域専門医（日本形成外科学会・日本専門医機構認定）
 熱傷専門医（日本熱傷学会認定）
 手外科専門医（日本手外科学会認定）
 日本創傷外科学会専門医（日本創傷外科学会認定）
 形成外科指導医（日本形成外科学会認定）
 小児形成外科領域指導医（日本形成外科学会認定）
 再建・マイクロサージャリー領域指導医（日本形成外科学会）

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：・健康診断年1回実施
・入居可能住宅有り
・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：初期研修2年目を修了した、あるいは終了見込みの者
- 募集定員：1学年あたり3名
- 応募期間：2021年8月1日～2021年10月30日
- 選考方法：書類、面接

●問合せ先

- 担当者：形成外科 福田憲翁（ふくだのりお）
- TEL：023-628-5413/FAX：023-628-5416
E-mail：prs@mws1.id.yamagata-u.ac.jp /HP：http://www.yamagata-u.net/

山形県リハビリテーション科専門研修プログラム

●プログラムの特色

リハビリテーション医学・医療の視点から、様々な疾患によって生じる障害を予防、診断、治療し、身体の機能回復、活動性の向上を通して、患者・障害者の社会復帰を助ける医師をめざします。本研修プログラムは山形大学医学部附属病院を中心に、県内のそれぞれ特色あるリハビリテーション施設・病院をローテーションしながら、リハビリテーション科専門医に求められる知識と臨床技能、診療姿勢、倫理を学ぶことができます。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	至誠堂総合病院	連携	山形県立河北病院
連携	山形市立病院済生館	連携	三友堂 リハビリテーションセンター	連携	鶴岡協立 リハビリテーション病院
関連施設	山形県立 こども医療療育センター	関連施設	山形徳洲会病院	連携	済生会山形済生病院 (2021年～予定)

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	山形大学医学部附属病院											
2年目	連携病院（例：至誠堂総合病院）									連携病院（例：療育センター）		
3年目	連携病院（例：河北病院）			山形大学医学部附属病院								

●取得可能なサブスペシャリティ

リハビリテーション科専門医（基本領域・日本リハビリテーション医学会認定）、日本リハビリテーション学会認定医（日本リハビリテーション医学会認定）、急性期リハビリテーション学会認定医（予定）（日本急性期リハビリテーション医学会認定）、回復期リハビリテーション学会認定医（予定）（回復期リハビリテーション病棟協会認定）、生活期リハビリテーション学会認定医（予定）（日本生活期リハビリテーション医学会認定）

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：・健康診断年1回実施
・入居可能住宅有り
・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：3名
- 応募期間：2021年9月から10月末（予定）
- 選考方法：書類選考及び面接

●問合せ先

- 担当者：高窪祐弥（山形大学医学部附属病院リハビリテーション部 副部長）
- TEL：023-628-5355/FAX：023-628-5357
- E-mail：seikei@mws.id.yamagata-u.ac.jp / HP：http://www.yu-orthop.jp/group/rehabili.html

山形大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム

●プログラムの特色

本研修プログラムでは、総合診療専門研修Ⅰ（外来診療・在宅医療中心）、総合診療専門研修Ⅱ（病棟診療、救急診療中心）、内科、小児科、救急科の5つの必須診療科と選択診療科で3年間の研修を行います。このことにより 1. 包括的統合アプローチ 2. 一般的な健康問題に対する診療能力 3. 患者中心の医療・ケア 4. 連携重視のマネジメント 5. 地域包括ケアを含む地域志向アプローチ 6. 公益に資する職業規範 7. 多様な診療の場に対応する能力 という総合診療専門医に欠かせない7つの資質・能力を効果的に修得することが可能になります。また、専門研修基幹施設（以下、基幹施設）と専門研修連携施設（以下、連携施設）の施設群で行われ、それぞれの特徴を生かした症例や技能を広く、専門的に学ぶことが出来ます。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形大学医学部附属病院	連携	山形県立河北病院	連携	山形県立新庄病院
連携	公立置賜総合病院	連携	米沢市立病院	連携	三友堂病院
連携	小国町立病院	連携	白鷹町立病院	連携	舟山病院
連携	小白川至誠堂病院				

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	山形大学医学部附属病院（内科）											
2年目	山形大学医学部附属病院（救急科・小児科）							河北病院、新庄病院、公立置賜総合病院、 米沢市立病院、三友堂病院のいずれか				
3年目	小国町立病院、白鷹町立病院、舟山病院、小白川至誠堂病院のいずれか											

●取得可能なサブスペシャリティ

なし

●処遇 ※山形大学医学部附属病院勤務の場合

- 身分：医員（年俸制）又は助教
- 給与：国立大学法人山形大学における年俸制の医員に関する規程又は国立大学法人山形大学職員給与規程による
- 福利厚生：
 - ・健康診断年1回実施
 - ・入居可能住宅有り
 - ・文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険適用
 - ・労働者災害補償保険適用

●専攻医募集

- 応募資格：卒業後2年間の初期臨床研修を修了、若しくは修了見込みの医師
- 募集定員：年間2名
- 応募期間：日本専門医機構ホームページ参照
- 選考方法：書類選考および面接

●問合せ先

- 担当者：山形大学医学部附属病院卒後臨床研修センター
- TEL：023-628-5017／FAX：023-628-5019
- E-mail：isokoho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp／HP：http://www.id.yamagata-u.ac.jp/kenshu/

山形県立中央病院内科専門研修プログラム

●プログラムの特色

山形県村山二次医療圏の中心的な急性期病院である山形県立中央病院を基幹施設として、山形県村山二次医療圏、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て山形県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として山形県全域を支える内科専門医の育成を行います。

また、山形大学、東北大学及び新潟大学の附属病院との連携による高度な総合内科医を目指すことや、地域枠出身者や自治医大出身者など、何らかの義務年限で地域医療へ貢献を行うことを想定した特別連携施設を有するなど、複数のコース別に研修を行うことが可能です。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形県立中央病院	連携	山形大学医学部附属病院	連携	東北大学病院
連携	新潟大学医歯学総合病院	連携	日本海総合病院	連携	公立置賜総合病院
連携	山形県立新庄病院	連携	山形県立河北病院	連携	至誠堂総合病院
連携	仙台医療センター	特別連携	最上町立最上病院	特別連携	西川町立病院
特別連携	朝日町立病院	特別連携	町立真室川病院	特別連携	小国町立病院
特別連携	白鷹町立病院	特別連携	日本海八幡クリニック	特別連携	町立金山診療所
特別連携	大蔵村診療所	特別連携	飯豊町国民健康保険診療所		

●専門研修ローテーションモデル

①総合内科コース

1年目	県立中央病院（20症候群、60症例以上及び病歴要約10症例以上の登録、JMECCの受講）
2年目	県立中央病院（45症例群、120症例以上及び病歴要約29症例の全てを登録）
3年目	連携施設・特別連携施設（70症例群、200症例以上の登録、登録した病歴要約の改訂）

②Subspecialty 重点コース

1年目	連携施設・特別連携施設（20症候群、60症例以上及び病歴要約10症例以上の登録）
2年目	連携施設・特別連携施設／県立中央病院6ヶ月（45症例群、120症例以上及び病歴要約29症例の全てを登録、JEMCCの受講）
3年目	県立中央病院（70症例群、200症例以上の登録、登録した病歴要約の改訂）

③地域医療重点コース

1年目	連携施設・特別連携施設（20症候群、60症例以上及び病歴要約10症例以上の登録）
2年目	県立中央病院（45症例群、120症例以上及び病歴要約29症例の全てを登録、JEMCCの受講）
3年目	連携施設・特別連携施設（70症例群、200症例以上の登録、登録した病歴要約の改訂）

●①、②、③は例で、ローテーション順や連携施設等への派遣期間は、担当指導医と相談しながら決定していきます

●取得可能なサブスペシャリティ

消化器病、循環器、呼吸器、血液、内分泌代謝、糖尿病、肝臓、感染症、神経内科、消化器内視鏡、がん薬物療法（腎臓、アレルギー、リウマチは取れません）

●処遇 ※県立中央病院勤務の場合

- 身分：一般職に属する有期限常勤職員
- 給与：職員の給与に関する条例、規則に基づいて正職員に準じて支給されます。年収約1260万円～（宿日直3回／月、時間外勤務40時間／月、期末勤勉手当を含む）
- 福利厚生：1年間に20日（4月採用の場合は15日）の年次有給休暇、その他休暇の制度があります。

●専攻医募集

- 応募資格：初期研修修了者及び令和4年3月に初期研修修了見込の者
- 募集定員：8名
- 選考方法：面接

●問合せ先

- 担当者：総務課 浅野幸一
- TEL：023-685-2626／FAX：023-685-2601
- E-mail：ychubyo@pref.yamagata.jp／HP：http://www.ypch.gr.jp/

山形県立中央病院外科専門研修プログラム

●プログラムの特色

- 山形県立中央病院外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点です。
- 1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
 - 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
 - 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
 - 4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
 - 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科）またはそれに準じた外科関連領域（乳腺や内分秘領域）の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること



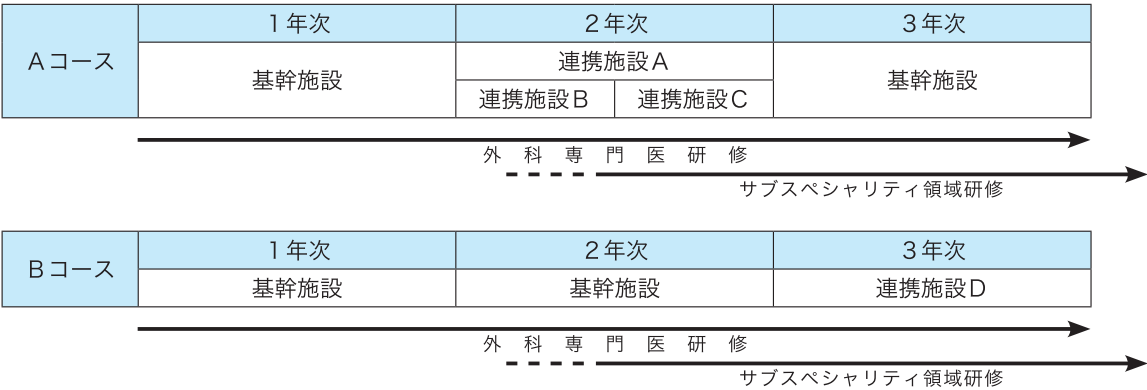
●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形県立中央病院	連携	山形大学医学部附属病院	連携	東北大学病院
連携	山形県立新庄病院	連携	山形県立河北病院	連携	日本海総合病院

●専門研修ローテーションモデル

いずれのコースも基幹施設で専門研修を開始します。Aコースは2年目に関連施設を1年、あるいは半年ずつ2カ所で研修します。Bコースは最初の2年間で基幹施設で研修し、3年目に関連施設で研修します。

2年間で経験症例が達成（もしくは見込み）できていれば、3年目にはサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科）あるいは外科関連領域（乳腺など）の専門研修を開始します。



●取得可能なサブスペシャリティ

消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科

●処遇 ※県立中央病院勤務の場合

- 身 分：一般職に属する有期限常勤職員
- 給 与：職員の給与に関する条例、規則に基づいて正職員に準じて支給されます。年収約1260万円～（宿日直3回／月、時間外勤務40時間／月、期末勤勉手当を含む）
- 福利厚生：1年間に20日（4月採用の場合は15日）の年次有給休暇、その他休暇の制度があります。

●専攻医募集

- 応募資格：初期研修修了者及び令和4年3月に初期研修修了見込の者
- 募集定員：3名
- 選考方法：面接

●問合せ先

- 担当者：総務課 浅野幸一
- TEL：023-685-2626／FAX：023-685-2601
- E-mail：ychubyo@pref.yamagata.jp／HP：http://www.ypch.gr.jp/

山形県立中央病院病理専門研修プログラム

●プログラムの特色

地域医療に根差した実践的なプログラム。東北地方において唯一の、県立病院を基幹施設とする病理専門研修プログラムです。他県・他地方の地域中核病院である旭中央病院と手を結ぶことにより、異なった文化や環境を一つのプログラムの中で体験でき、地域医療の現状と課題を、無理なく立体的に理解することが可能となります。本専門研修プログラムでは年間平均 35 体以上の剖検数があり、組織診断も 16,000 件以上あります。専攻医の定員は年間 1 名ですので、病理専門医受験に必要な症例数は余裕を持って経験することが可能です。また、研修期間中に最低 1 回の病理学会総会もしくは病理学会東北支部学術集会における筆頭演者としての発表を必須としています。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形県立中央病院	連携	山形大学医学部附属病院	連携	総合病院国保旭中央病院
連携	日本海総合病院	連携	鶴岡市立荘内病院	連携	公立置賜総合病院
連携	山形県立新庄病院	連携	山形県立河北病院	連携	山形済生病院

●専門研修ローテーションモデル

1 年目	基幹施設
2 年目	前半：基幹施設+連携施設 2 群・3 群（週 1～2 日）／後半：連携施設 1 群（6 ヶ月）
3 年目	基幹施設+連携施設 2 群・3 群（週 1～2 日）

※上記パターン以外にも、専攻医の希望に応じて柔軟な対応が可能です。

連携施設 1 群：複数の常勤病理専門指導医と豊富な症例を有しており、高度な教育と研究が行える施設

（山形大学医学部附属病院、旭中央病院）

連携施設 2 群：常勤病理指導医と豊富な症例を有しており、診断の指導が行える施設

（日本海総合病院、荘内病院、置賜総合病院）

連携施設 3 群：病理指導医が常勤していない施設

（新庄病院、河北病院、山形済生病院）

●取得可能なサブスペシャリティ

細胞診専門医（日本臨床細胞学会認定）

●処遇 ※県立中央病院勤務の場合

- 身 分：一般職に属する有期限常勤職員
- 給 与：職員の給与に関する条例、規則に基づいて正職員に準じて支給されます。年収約1260万円～（宿日直 3 回／月、時間外勤務40時間／月、期末勤勉手当を含む）
- 福利厚生：1 年間に20日（4 月採用の場合は15日）の年次有給休暇、その他休暇の制度があります。

●専攻医募集

- 応募資格：初期研修修了者及び令和 4 年 3 月に初期研修修了見込の者
- 募集定員：1 名
- 選考方法：面接

●問合せ先

- 担当者：総務課 浅野幸一
- TEL：023-685-2626／FAX：023-685-2601
- E-mail：ychubyo@pref.yamagata.jp／HP：http://www.ypch.gr.jp/

山形県立中央病院救急科専門研修プログラム

●プログラムの特色

研修の基幹施設である当院（山形県立中央病院）は、ドクターヘリの基地病院であり、また集中治療専門医研修施設でもあります。救急科所属医師12人中、救急科専門医9名をはじめ、集中治療専門医、日本航空医療学会認定指導者、熱傷学会専門医がおり、ドクターヘリでの病院前診療から、救命救急センターの初療を経て、集中治療を含む病棟管理までを幅広く担当しています。本専門研修プログラムは、各専攻医の希望と習熟度などを考慮し、基幹施設・連携施設のいずれからの研修も開始可能です。基幹領域専門医として救急科専門医取得後には、サブスペシャルティ領域である集中治療医学領域専門研修プログラムに進むことも可能です。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形県立中央病院	連携	山形大学医学部附属病院	連携	日本海総合病院
連携	公立置賜総合病院	連携	山形県立新庄病院	連携	鶴岡市立荘内病院

●専門研修ローテーションモデル

救急診療・集中治療（6ヵ月）
〈基幹施設 or 連携施設〉

救急診療・他科研修（6ヵ月）
〈連携施設 or 基幹施設〉

救急診療・集中治療・ドクターヘリ（12ヵ月）
〈基幹施設〉

集中治療室専従（6ヵ月）
〈基幹施設〉

地域研修（3ヵ月）
〈連携施設〉

地域研修（3ヵ月）
〈連携施設〉

自由度の高いプログラムを組む事ができるように配慮しております。
また、基幹施設と連携施設のいずれからでも研修をスタートすることができます。遠慮なくご相談ください。

●取得可能なサブスペシャルティ

なし

●処遇 ※県立中央病院勤務の場合

- 身分：一般職に属する有期限常勤職員
- 給与：職員の給与に関する条例、規則に基づいて正職員に準じて支給されます。年収約1260万円～（宿日直3回／月、時間外勤務40時間／月、期末勤勉手当を含む）
- 福利厚生：1年間に20日（4月採用の場合は15日）の年次有給休暇、その他休暇の制度があります。

●専攻医募集

- 応募資格：初期研修修了者及び令和4年3月に初期研修修了見込の者
- 募集定員：3名
- 選考方法：面接

●問合せ先

- 担当者：総務課 浅野幸一
- TEL：023-685-2626／FAX：023-685-2601
- E-mail：ychubyo@pref.yamagata.jp／HP：http://www.ypch.gr.jp/

済生会山形済生病院整形外科専門研修プログラム

●プログラムの特色

整形外科専門研修到達目標：「地域医療に貢献できる幅広い知識と視野をもった整形外科医を目指して」

当院では、1980年創立以来、整形外科全域にわたる研究・教育・診療体制が整備されています。脊椎、股関節、膝関節、スポーツ医学、上肢、手外科、足の外科、小児整形外科、リウマチ、骨代謝、リハビリテーションなどの診療、診療グループがあり、臨床・研究を進めています。

山形大学医学部整形外科をはじめ、スポーツ医学、手外科、脊椎外科、関節外科、救急医療、リハビリテーションなど、それぞれに特色を持った山形県、宮城県、福島県の16の施設・病院と連携し、機能的なローテーションにより、プライマリケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができます。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	済生会山形済生病院	連携	山形大学医学部附属病院	連携	山形県立中央病院
連携	日本海総合病院	連携	公立置賜総合病院	連携	山形県立新庄病院
連携	山形県立河北病院	連携	山形県立こども医療養育センター	連携	寒河江市立病院
連携	町立真室川病院	連携	公立高畠病院	連携	三友堂病院
連携	みゆき会病院	連携	吉岡病院	連携	泉整形外科病院
連携	栢記念病院	連携	至誠堂総合病院		

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	済生会山形済生病院											
2年目	山形大学医学部附属病院・公立置賜総合病院など											
3年目	山形大学医学部附属病院・日本海総合病院など											
4年目	山形県立中央病院、県立河北病院など							みゆき会病院、寒河江市立病院など				
5年目	済生会山形済生病院など											

●取得可能なサブスペシャリティ

リウマチ専門医（日本リウマチ学会・日本専門医機構）、脊椎脊髄外科専門医（日本脊椎脊髄学会認定）、手外科専門医（日本手外科学会認定）、日整会認定リウマチ医（日本整形外科学会認定）、日整会認定スポーツ医（日本整形外科学会認定）、日整会認定脊椎脊髄病医（日本整形外科学会認定）、日整会認定脊椎内視鏡下手術・技術認定医（日本整形外科学会認定）、日整会認定運動器リハビリテーション医（日本整形外科学会認定）

●処遇 ※済生病院勤務の場合

- 身分：正職員
- 給与：800,000円（月額）
- 福利厚生：協会健保、厚生年金、労災保険、雇用保険

●専攻医募集

- 応募資格：初期研修を修了した医師
- 募集定員：2名
- 応募期間：令和3年8月1日～9月30日
- 選考方法：書類審査、面接

●問合せ先

- 担当者：人事課（医局秘書）足立 和子
- TEL：023-682-1111／FAX：023-682-0122
- E-mail：rin-ken@ameria.org／HP：http://www.ameria.org/

さくらんぼ総合診療専門研修プログラム

●プログラムの特色

当院は、山形市中心部の山形城址（霞城公園）と美術館に隣接した美しい自然環境と文化施設に恵まれた場所に位置しています。大学病院をはじめとする総合病院に囲まれながら、一貫して地域医療・高齢者医療に取り組んできました。山形県の訪問看護ステーション第1号を開設し、訪問診療と併せて在宅医療にも積極的に取り組んでおります。住民健診など保健予防活動の歴史も長く、法人内には3つの診療所、老人保健施設、地域包括支援センターなど、医療・介護の複合型の施設を展開しており、これら全てが研修の場ともなります。小児から高齢者まで家族ぐるみの健康管理を行い、家庭医療を学ぶには最適な施設体系を有しています。また、当院は日本内科学会教育関連病院として認定され、3名の指導医が研修指導に携わっています。当院の医局は毎日の医局朝会・週1回の医局会議・学習会など各科の医師の連携も良いです。整形外科系の研修もバランスよく組み込むことも可能であり、救急は二次救急で一定の救急の経験が可能となっています。小児科・救急科は、山形市内に位置する高度急性期基幹病院であり専門研修連携施設の山形県立中央病院（県立救命救急センター）で小児を含む全科の救急・小児疾患を幅広く経験できます。

その他、無料低額診療事業を実施し、差額ベッドが無いなど弱者に寄り添った医療実践を行っていることが特徴として挙げられます。地域包括ケア時代、地域をフィールドに住民の健康を守る医療介護福祉活動を推進できる医師養成を目指しております。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	至誠堂総合病院	連携	至誠堂総合病院附属中山診療所	連携	医療生協やまがた鶴岡協立病院
連携	山形県立中央病院	連携	宮城厚生協会 坂総合病院	連携	松島医療生協松島海岸診療所
連携	社会医療法人二本松会 山形さくら町病院				

●専門研修ローテーションモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
後期研修 1年目	至誠堂総合病院											
	内科											
後期研修 2年目	至誠堂総合病院						山形県立中央病院 または坂総合病院			山形県立中央病院 または坂総合病院		
	総合診療専門研修Ⅱ						小児科			救急科		
後期研修 3年目	至誠堂総合病院						中山診療所または鶴岡協立病院 または松島海岸診療所					
	総合診療専門研修Ⅱ						総合診療専門研修Ⅰ					

※ 初期研修で外科研修が不十分であった専攻医は外科領域の研修を含むことが望ましいこと、また精神科等の領域別研修を希望するなど、専攻医の個々の事情や希望に沿って研修計画を組む必要がある場合は、日本専門医機構の承認のもと研修期間等を調整する場合があります。

●取得可能なサブスペシャリティ

なし

●処遇 ※至誠堂総合病院勤務の場合

- 身分：正職員
- 給与：後期研修1年目 569,000円
後期研修2年目 579,000円
後期研修3年目 589,000円
(日当直手当、通勤手当、住宅手当等は別 賞与あり)
- 福利厚生：社会保険等、医師賠償保険（病院において加入）

●専攻医募集

- 応募資格：臨床研修修了者または修了見込み者
- 募集定員：2名
- 応募期間：日本専門医機構募集期間に準ずる
- 選考方法：書類審査、面接

●問合せ先

- 担当者：医局事務 渡辺・平山
- TEL：023-622-7181 / FAX：023-642-8101
- E-mail：ikyokujimu@shiseido-hp.jp / HP：http://www.shiseido-hp.jp/

山形県立新庄病院総合診療専門医研修プログラム

●プログラムの特色

当院は最上二次医療圏で唯一の中核病院となっており、幅広い世代を含む外来・入院診療および地域包括ケアの研修が可能です。

また、内科系患者の多くは複数の慢性疾患を有し専門的治療の介入が困難な高齢者であり、高齢化の進行した最上地方では、慢性疾患患者への継続的ケアが一層必要となっています。このような地域ニーズに応える医師の育成を目指します。

さらに、近隣の町・村の連携施設においては、在宅医療や保健・福祉分野との連携など、地域包括ケアの実態を学ぶことが可能です。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形県立新庄病院	連携	山形県立中央病院	連携	町立真室川病院
連携	最上町立最上病院	連携	町立金山診療所	連携	大蔵村診療所

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	総診Ⅱ（新庄病院・3か月） 内科（新庄病院・9か月）											
2年目	内科（新庄病院・3か月） 救急科（山形県立中央病院・3か月） 総診Ⅰまたは総診Ⅱ（6か月）											
3年目	総診Ⅰ（最上地域の連携機関・6か月） 小児科（新庄病院・3か月） 総診Ⅱ（新庄病院・3か月）											

●取得可能なサブスペシャリティ

なし

●処遇 ※県立新庄病院勤務の場合

- 身分：一般職に属する有期限常勤職員
- 給与：与：正職員に準じ支給
扶養手当、住居手当、通勤手当、期末勤勉手当等支給
年収約1,350万円～
- 福利厚生：休暇は一般職に準じる
社会保険加入、医師賠償保険加入
医師アパート有

●専攻医募集

- 応募資格：医師臨床研修を修了した（または修了予定の）者
- 募集定員：2名
- 応募期間：別途お知らせします。
- 選考方法：面接

●問合せ先

- 担当者：総務課 臨床研修係 相馬
- TEL：0233-22-5525 / FAX：0233-23-2987
- E-mail：somaw@pref.yamagata.jp / HP：http://www.ysh.pref.yamagata.jp/

公立置賜総合病院総合診療専門研修プログラム

●プログラムの特色

本研修 PG では、「患者中心の地域包括ケアの達人をめざして！」をスローガンに掲げ、全人的、包括的な医療を実施できる医療人の育成を行います。優れた総合診療専門医を養成する研修プログラムは、さまざまなシチュエーションが経験でき、幅広い領域をまんべんなく研修できるようにコーディネートされたものである必要があります。総合診療科での外来・入院診療、サテライト施設や近隣の診療所・中小病院、各専門診療科では、日常疾患の初期診療から高度化・専門分化したそれぞれの最先端の医療を、患者に寄り添いながら地域の特性や問題点の把握などを実践し自ら考えて自ら行動する医療を実践します。高いレベルの臨床能力を備えた総合診療専門医を本気で養成します。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	公立置賜総合病院	連携	山形大学医学部附属病院	連携	山形県立中央病院
連携	山形県立河北病院	連携	日本海八幡クリニック	連携	最上町立最上病院
連携	真室川町立真室川病院	連携	小国町立病院	連携	西川町立病院
連携	朝日町立病院	連携	白鷹町立病院	連携	公立高畠病院
連携	大蔵村診療所	連携	生協浮間診療所		

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	公立置賜総合病院											
	小児科			内科						救急科		
2年目	公立置賜総合病院						公立置賜総合病院					
	内科						総合診療研修Ⅱ					
3年目	朝日町立病院											
	総合診療研修Ⅰ											

●処遇

※公立置賜総合病院勤務の場合

●身分：一般職員

●給与：「置賜広域病院企業団の給与の種類及び基準に関する条例」による

●福利厚生：共済組合に加入（保険、年金等）
公務災害補償、院内保育所、公舎あり

●専攻医募集

●応募資格：医師臨床研修を令和4年3月末に修了予定の医師

●募集定員：2名

●応募期間：9月30日まで（予定）

●選考方法：書類選考及び面接

●問合せ先

●担当者：総務課 青木

●TEL：0238-46-5000／FAX：0238-46-5711

●E-mail：shokuin@okitama-hp.or.jp／HP：http://www.okitama-hp.or.jp/

日本海総合病院内科専門研修プログラム

●プログラムの特色

当院は山形県庄内医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所・クリニック（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	日本海総合病院	連携	山形大学医学部附属病院	連携	東北大学病院
連携	秋田大学医学部附属病院	連携	福島県立医科大学附属病院	連携	東京大学医学部附属病院
連携	東邦大学医療センター 佐倉病院	連携	国立国際医療研究 センター病院	連携	仙台厚生病院
連携	山形県立中央病院	連携	山形県立新庄病院	連携	公立置賜総合病院
連携	鶴岡市立荘内病院	連携	健友会本間病院	連携	日本海酒田 リハビリテーション病院
連携	酒井醫院	連携	ほんまクリニック	特別連携	鶴岡協立病院
特別連携	日本海八幡クリニック	特別連携	朝日町立病院	特別連携	西川町立病院
特別連携	最上町立最上病院	特別連携	町立真室川病院	特別連携	白鷹町立病院
特別連携	小国町立病院	特別連携	町立金山診療所	特別連携	大蔵村診療所
特別連携	岡田内科循環器科 クリニック				

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	日本海総合病院 （呼吸器内科）		日本海総合病院 （血液内科）		日本海総合病院 （神経内科）		日本海総合病院 （循環器内科）					
2年目	日本海総合病院（循環器内科）											
3年目	山形大学医学部附属病院（循環器内科）											

●処遇 ※日本海総合病院勤務の場合

- 身分：正職員
- 給与：【卒後3年目】基本月額349,700円＋医務手当等425,000円
【卒後4年目】基本月額358,700円＋医務手当等425,000円
【卒後5年目】基本月額384,300円＋医務手当等445,000円
- 福利厚生：・赴任費用（引越費用：上限有）支給
・個人用机とキャビネットを医局内に配置
・世帯用宿舍あり。単身者には、住宅補助制度あり

●専攻医募集

- 応募資格：医師免許取得後、厚生労働省が定める2年間の初期臨床研修を修了した者、あるいは令和4年3月末日までに修了見込みの者
- 募集定員：10名
- 応募期間：日本専門医機構のスケジュールに準ずる
- 選考方法：面接及び書類選考

●問合せ先

- 担当者：日本海総合病院 総務課 職員係 佐藤友美
- TEL：0234-26-2001／FAX：0234-26-5114
- E-mail：kensyu@nihonkai-hos.jp／HP：http://www.nihonkai-hos.jp/hospital/

日本海総合病院産婦人科研修プログラム

●プログラムの特色

基幹施設である当院においては、豊富な症例を経験し、産婦人科全般の標準的、基礎的な技量を習得できます。また、地域医療を担う連携施設では地域の実情に合わせた実践的な医療を、より先進的な医療を担う連携施設ではより専門的な技量を習得できます。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	日本海総合病院	連携	山形大学医学部附属病院	連携	山形県立中央病院
連携	済生会山形済生病院	連携	公立置賜総合病院	連携	米沢市立病院
連携	山形県立新庄病院				

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	日本海総合病院											
2年目	済生会山形済生病院						日本海総合病院					
3年目	山形大学医学部附属病院											

●処遇 ※日本海総合病院勤務の場合

- 身分：正職員
- 給与：【卒後3年目】基本月額349,700円＋医務手当等425,000円
【卒後4年目】基本月額358,700円＋医務手当等425,000円
【卒後5年目】基本月額384,300円＋医務手当等445,000円
- 福利厚生：・赴任費用（引越費用：上限有）支給
・個人用机とキャビネットを医局内に配置
・世帯用宿舍あり。単身者には、住宅補助制度あり

●専攻医募集

- 応募資格：医師免許取得後、厚生労働省が定める2年間の初期臨床研修を修了した者、あるいは令和4年3月末日までに修了見込みの者
- 募集定員：4名
- 応募期間：日本専門医機構のスケジュールに準ずる
- 選考方法：面接及び書類選考

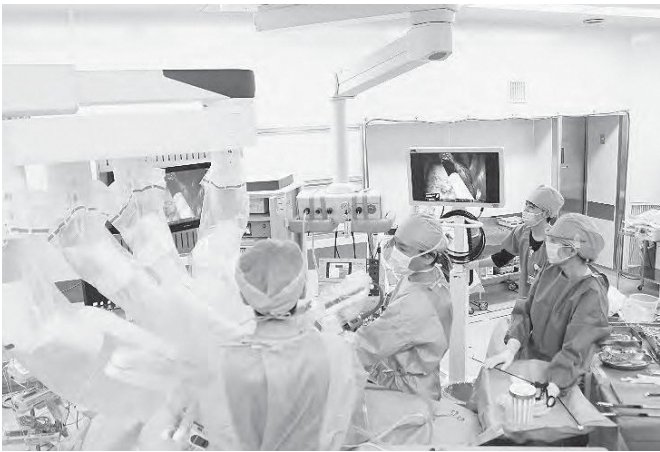
●問合せ先

- 担当者：日本海総合病院 総務課 職員係 佐藤友美
- TEL：0234-26-2001／FAX：0234-26-5114
- E-mail：kensyu@nihonkai-hos.jp／HP：http://www.nihonkai-hos.jp/hospital/

日本海総合病院外科専門研修プログラム

●プログラムの特色

日本海総合病院を基幹施設とし、大学病院や地域の連携施設とともに病院施設群を構成しています。当院は山形県庄内医療圏の中心的な急性期病院であり、多くの症例を経験することができます。また、地域の中核病院として外科領域のコモンディーズや外科救急疾患も広く研修が可能です。施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行い、専門医取得に必要な経験を積むことが可能です。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	日本海総合病院	連携	山形大学医学部附属病院	連携	東北大学病院
連携	山形県立中央病院				

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	日本海総合病院											
2年目	日本海総合病院											
3年目	日本海総合病院						山形大学医学部附属病院					

●処遇 ※日本海総合病院勤務の場合

- 身分：正職員
- 給与：【卒後3年目】基本月額349,700円＋医務手当等425,000円
【卒後4年目】基本月額358,700円＋医務手当等425,000円
【卒後5年目】基本月額384,300円＋医務手当等445,000円
- 福利厚生：・赴任費用（引越費用：上限有）支給
・個人用机とキャビネットを医局内に配置
・世帯用宿舎あり。単身者には、住宅補助制度あり

●専攻医募集

- 応募資格：医師免許取得後、厚生労働省が定める2年間の初期臨床研修を修了した者、あるいは令和4年3月末日までに修了見込みの者
- 募集定員：2名
- 応募期間：日本専門医機構のスケジュールに準ずる
- 選考方法：面接及び書類選考

●問合せ先

- 担当者：日本海総合病院 総務課 職員係 佐藤友美
- TEL：0234-26-2001 / FAX：0234-26-5114
- E-mail：kensyu@nihonkai-hos.jp / HP：http://www.nihonkai-hos.jp/hospital/

鶴岡協立病院総合診療専門研修プログラム

●プログラムの特色

鶴岡協立病院は医療生活協同組合やまがた（以下、医療生協やまがた）を母体にもち、同法人内に鶴岡協立リハビリテーション病院、四つの診療所、訪問看護ステーション、メディカルフィットネス、老健施設、デイケア、デイサービス、グループホーム、小規模多機能施設を有し医療から介護まで切れ目ない活動を行っております。また、医療生協やまがたは地域の4万人の組合員に支えられ、組合員の保険予防活動、健康増進活動など長く元気に暮らしたいという願いを実現するために共同の営みとして活動しています。

鶴岡協立病院総合診療専門研修プログラム（以下、本PG）は、そのような医療・介護活動を展開する地域の中規模病院を基幹施設として、院内の専門各科と協力し全人的医療を展開しつつ、自らのキャリアパスの形成や地域医療に携わる実力を身につけることを目標とします。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	鶴岡協立病院	連携	至誠堂総合病院	連携	至誠堂総合病院附属中山診療所
連携	本間病院	連携	日本海総合病院		

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内科研修 12ヶ月分（至誠堂総合病院）											
2年目	総合診療専門研修Ⅱ 12ヶ月（鶴岡協立病院）											
3年目	小児科 3ヶ月 （鶴岡協立病院または日本海総合病院）			救急科 3ヶ月 （日本海総合病院）			総合診療Ⅰ 6ヶ月 （本間病院または至誠堂総合病院附属中山診療所）					

●取得可能なサブスペシャリティ

なし

●処遇 ※鶴岡協立病院勤務の場合

- 身分：正職員
- 給与：医師免許取得後3年目：550,200円（月額）
- 福利厚生：健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、退職金制度、院内保育所、医師賠償保険は病院にて加入

●専攻医募集

- 応募資格：初期臨床研修修了者または2022年3月終了見込み者
- 募集定員：2名
- 応募期間：新専門医機構に準ずる
- 選考方法：面接

●問合せ先

- 担当者：五十嵐・小林
- TEL：0235（23）6060／FAX：0235（23）6114
- E-mail：hisyo1@shonai-mcoop.jp／HP：http://y-mcoop.com/hospital/

山形県立こころの医療センター専門研修プログラム

●プログラムの特色

山形県立こころの医療センターを研修基幹施設とし、山形大学医学部附属病院精神科（山形市）、日本海総合病院精神科（酒田市）、山形県立中央病院精神科（山形市）、東北会病院（仙台市）、三川病院（三川町）、沖縄県立精和病院（沖縄県）を研修連携施設として研修群を構成し実施します。

急性期から慢性期、乳幼児から老年期、任意入院から措置入院、更には医療観察法の入院までとほぼ全ての精神科臨床領域を網羅的に研修できるプログラムです。精神科医としての幅広い臨床経験が積めるうえ、精神科医療を包括的に捉える視点が自然と身につきます。



●研修施設

施設別	病院名	施設別	病院名	施設別	病院名
基幹	山形県立こころの医療センター	連携	日本海総合病院精神科	連携	東北会病院
連携	山形大学附属病院精神科	連携	山形県立中央病院精神科	連携	三川病院
連携	沖縄県立精和病院				

●専門研修ローテーションモデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	山形県立こころの医療センター											
2年目	日本海総合病院 又は（山形県立中央病院精神科）											
3年目	山形大学医学部附属病院精神科						基幹施設及び連携施設のうち希望する病院					

●取得可能なサブスペシャリティ

- ・児童精神医学（子どものこころ専門医機構認定）・司法精神医学（日本司法精神医学会認定）
- ・老年精神医学（日本老年精神医学会認定）・総合病院精神医学（日本総合病院精神医学会認定）

●処遇 山形県立こころの医療センター勤務の場合

- 身 分：山形県職員
- 給 与：山形県病院事業局給与規程による
- 福利厚生：休暇等は山形県病院事業局就業規程による

※詳細は下記までお気軽にお問合せください。

●専攻医募集

- 応募資格：医師免許取得後、2年以上の臨床経験を有すること
- 募集定員：5名
- 応募期間：令和3年9月～（予定）
- 選考方法：面接、集団討論 等

●問合せ先

- 担当者：山形県立こころの医療センター 総務経営課 総務主査（兼）臨床研修係長 岡部 美起
- TEL：0235-64-8100/FAX：0235-24-1283
- E-mail：ycocoro@pref.yamagata.jp/HP：http://cocorohosp-yamagata.jp/ リクルートサイト：https://cocoro-mc.jp/

医師修学資金貸与制度

県内の公立の病院等に一定の期間勤務すれば、
修学資金の返還が免除になります。

区分	貸与額	対象者	返 還 免 除 要 件
地域医療従事医師確保修学資金	200万円 (年額)	以下の要件を満たす医学生 ○大学卒業後、山形県内の 医師の確保が必要な地域 に勤務する意思を有していること 県内出身者対象 県外出身者対象	①医師免許を取得した後、直ちに県内臨床研修病院で臨床研修を行うこと ②臨床研修修了後、引き続き山形県内の公立の病院等に勤務した場合において、臨床研修を含む在職期間が、 貸与期間の1.5倍 (7年に満たないときは7年)に達すること ③当該在職期間のうち 4年以上 (貸与期間の1.5倍の期間が9年に満たないときは、3年6月以上)の 期間が、医師少数区域等の医療機関等に在職した期間 であること
特定診療科医師確保修学資金	200万円 (年額)	以下の要件を満たす医学生 ○大学卒業後、山形県内の 医師の確保が必要な診療科(小児科・産婦人科・放射線科・麻酔科、救急医療) に勤務する意思を有していること 県内出身者対象 県外出身者対象	①医師免許を取得した後、直ちに県内臨床研修病院で臨床研修を行うこと ②臨床研修修了後、引き続き山形県内の公的な医療機関の特定診療科に勤務した場合において、臨床研修を含む在職期間が、 貸与期間の1.5倍 (7年に満たないときは7年)に達すること ③当該在職期間のうち 4年以上 (貸与期間の1.5倍の期間が9年に満たないときは、3年6月以上)の 期間が、医師少数区域等の医療機関の特定診療科に在職した期間 であること

お 問 い 合 わ せ

山形県健康福祉部医療政策課

T E L : 023-630-3159

E-mail : ishikakuho@pref.yamagata.jp

詳しくは **山形県医師確保**

検索



山形県内の研修病院 2022年度版
編集・発行 山形県医療政策課 2021年5月発行